

## はじめに

世界中が、現在、新型コロナウイルス感染症への対応に追われています。高等教育界においても、オンライン授業・会議などが実施されましたが、学生・教職員共に戸惑っているのが現状でしょう。わが国でも、デジタル化、オンライン化については、以前から議論が進められていましたが、人工知能（AI）などのデジタル技術の活用に課題があることが指摘されています。

最近の高等教育における大きな潮流は、「学修者本位の教育」であり、「個々人の可能性を最大限に伸長する教育」への転換が声高に叫ばれています。学修者本位の教育の観点から、一人ひとりの学生が自らの学びの成果（学修成果）として身につけたコンピテンシー（知識やスキルだけではなく、自律性、責任感、倫理観などを含めた能力）を自覚し、活用できることが求められています。学生が、その学修成果を自ら説明し、社会の理解を得ることも肝要です。

高等教育機関に対する期待は、「リカレント教育」です。日本では、少子高齢化が急速に進み、人生100時代を迎え、18歳人口が減少している現状のもとで、わが国全体の生産性をあげるためにリカレント教育は喫緊の課題です。

以上のような認識を基盤として、当機構は、令和3年度文部省委託事業「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」として、次の三つの事業を提案し、採択されました。

- A FD・SD事業「体系的な教職員研修プログラムの実用化に向けた改善・普及・展開」  
専修学校の教職員が、多様な学生を対象とした生産性の高い学修を推進するために必要な知識・スキルを研修するためのプログラムを構築し、オンライン双方向授業を実施しました。
- B コンピテンシー事業「学校評価の充実等を目的とした資格枠組の共有化・職業分野別展開とその有効性の検証」  
学修成果の可視化および国際間、教育セクター間における人材・教材の流動性を高める目的で作成した資格枠組について、複数の職業分野において共有化を図るとともに、有効性を検証しました。
- C ポートレート事業「職業実践専門課程版ポートレートの構築」  
説明責任を果たし、情報公開を促進するために、学修に必要な情報を効率的に入手することが可能となり、職業教育の国際通用性にも配慮したデータベースシステムの構築に取り組みました。

本書は、以上のうち、令和3年度におけるB（コンピテンシー事業）の主な成果をまとめたものです。当機構では令和元年度までに、資格枠組のレベル定義（レベルディスクリプター）、およびその概要を作成し、分野ごとに学修成果指標の検討を実施してきました。これらの取組の基盤に立って、本事業は、コンピテンシー体系の共有化を図り、学修成果測定のためのスキームの構築・普及をめざしました。本事業が、専修学校における専門職高等教育の質保証・向上に役立ち、さらに日本の生産性向上に貢献できることを願っております。

なお、本事業を進めるにあたっては、多くの専修学校や専門職大学院の実施協力をいただきました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

令和4年3月  
一般社団法人 専門職高等教育質保証機構  
コンピテンシー事業 実施委員会  
委員長 川口 昭彦

## 目次

1 本事業の概要 .....	1
1-1 本事業の背景 .....	1
1-2 本事業の目的と概要 .....	2
2 本事業の実施内容 .....	3
2-1 事業実施の年次計画 .....	3
2-2 本年度の取組み .....	4
3 「学修成果指標」および「ガイドライン」の改善 .....	5
3-1 美容分野－美容師職種 .....	6
3-2 ゲーム・CG 分野－ゲームクリエイター職種 .....	18
3-3 動物分野－認定動物看護師職種 .....	24
3-4 土木・建築分野－土木施工管理職種 .....	36
4 学修成果情報共有システム .....	44
4-1 学修成果情報共有システムの概要 .....	44
4-2 学修成果情報共有システムの開発 .....	46
4-3 学修成果情報共有システムに関するヒアリング結果 .....	47

5 国際シンポジウム.....	49
5-1 国際シンポジウムのプログラム.....	49
5-2 国際シンポジウムの結果.....	51
資料 1 ポートフォリオ検索システムの概要.....	53
資料 2 学修成果情報共有システム操作説明(教員用).....	74
資料 3 学修成果情報共有システム操作説明(受講者用).....	115

## コンピテンシー事業 実施委員会名簿

氏名（敬称略）	所属・職名
川口 昭彦	専門職高等教育質保証機構代表理事
山中 祥弘	メイ・ウシヤマ学園理事長
野田 文香	大学改革支援・学位授与機構准教授
小林 浩	リクルート進学総研所長
花岡 萬之	学事出版株式会社副社長
上別府 隆男	福山市立大学教授
本田 あけみ	関西国際大学教授
宇佐見 眞也	ECC コンピュータ専門学校校長
下藪 恵子	国際動物専門学校校長
堤下 隆司	修成建設専門学校校長

### 美容分科会委員名簿

氏名（敬称略）	所属・職名
川島 鋼太郎	ハリウッド大学院大学専攻長
本田 あけみ	関西国際大学教授
小川 朝子	ハリウッド大学院大学助手
佐藤 友彦	株式会社アクシス代表取締役

### ゲーム・CG 分科会委員名簿

氏名（敬称略）	所属・職名
宇佐見 眞也	ECC コンピュータ専門学校校長
望月 弘	専門学校未来ビジネスカレッジ学部長
丸山 一彦	Japan Entertainment 開発協会事務局長
徳留 和人	株式会社スマイルブーム取締役

### 動物分科会委員名簿

氏名（敬称略）	所属・職名
下藪 恵子	国際動物専門学校校長
坂元 祥彦	宮崎ペットワールド専門学校校長
遊座 晶子	一般社団法人日本動物看護職協会副会長
山下 眞理子	全国動物教育協会動物看護教育担当

### 土木・建築分科会委員名簿

氏名（敬称略）	所属・職名
堤下 隆司	修成建設専門学校校長
松田 正之	中央工学校校長
野村 種明	東海工業専門学校金山校校長
稲沢 達也	古久根建設株式会社技術管理室担当部長

# 1 本事業の概要

当機構では、平成 30 年度から令和 2 年度の文部科学省委託事業<sup>1</sup>（以下「令和 2 年度事業」）の中で、わが国において使用されることを想定し、かつ、国際通用性のある「資格枠組のレベル定義」を策定した。本事業は、この事業成果を継承し、学校評価の充実等に結び付けることを目的とした事業として位置付けられる。

## 1-1 本事業の背景

### ▼学修成果の可視化に関する流れ

学修成果をシステムティックに評価して公開する機運は、大学等における認証評価の開始以降、特に高まってきたように思われる。平成 16 年度に始まった認証評価では、たとえば、大学評価・学位授与機構の評価基準の一つとして「教育成果」が設定されていたが、学修者からの視点を重視する流れにしたがって、平成 23 年度からの 2 巡目では「学修成果」と改められた。平成 26 年度から実施された文部科学省の「大学教育再生加速プログラム（AP：Acceleration Program for University Education Rebuilding）」では、「学修成果の可視化」をテーマとした事業が多くを占めていた。このような流れを受け、多くの高等教育機関では、ルーブリックやカリキュラムマップなどの枠組を作成し、学修成果をあげるための工夫やその可視化が試みられている。

しかしながら、それらの試みの多くは、学修成果を測定する枠組の構築に重きが置かれており、学修成果を測る基準、すなわち、枠組の中身の議論が進んでいないように思われる。ルーブリックの形は整っているものの、その中身は成績評価基準をそのまま転写しただけで、しかもその内容は学校の中でしか通用せず、学生の将来のキャリア形成の基礎として位置付けるような視点に乏しいものも多い。

### ▼資格枠組のレベル定義（レベルディスクリプター）の策定

今、高等教育機関に求められている学修成果の枠組は、グローバル化が進み、人生 100 年時代を迎えようとしている現代社会において、生涯に渡って参照可能で、かつ、国際通用性のあるレベル定義（レベルディスクリプター）である。わが国には、諸外国に存在する「国家資格枠組（NQF、National Qualifications Framework）」が存在しない。職業教育の観点から見ると、多くの専門学校生が取得目標とする国家試験は数多く存在し、中核的人材の輩出に少なからず貢献している。しかし、これらは各省庁が独自に設置・運営しているものがほとんどであり、国家的な観点からレベルの統一を図り、さらに、人材の移動可能性を促進するような発想はないに等しい。

---

<sup>1</sup> 文部科学省委託事業「職業実践専門課程を通じた専修学校の質保証・向上の推進」の中で実施された「学修成果の測定に向けた職業分野別コンピテンシー体系の研究」事業

## 1-2 本事業の目的と概要

本事業は、「資格枠組のレベル定義」を頂点としたコンピテンシー体系を、産業界、専門職高等教育機関、高等学校等と共有し、各職業分野で求められている学修成果の測定に用いる仕組みについて研究することを目的としている。

このとき、いくつかの職業分野を事例として、人材ニーズをもつ産業界と、人材供給源となる専門学校間において先行的に活用し、将来的には学修成果の測定のみならず、就職した後の職業能力の判定などに用いることにより、資格枠組の有用性を検証する。

## 2 本事業の実施内容

### 2-1 事業実施の年次計画

本年度事業では、目的達成のための第一段階として、専修学校（養成施設等）と産業界（国家試験合格者を雇用する業界等）、高等学校との間で活用されていくことを目指し、将来的に、職業分野に依存することなくその活用を広げていくスキームの構築を目指す。職業分野としては、「美容」、「ゲーム・CG」、「動物」、「土木・建築」の4分野を対象とする。

2年目の事業では、1年目のスキームの国際通用性の検証を目的とした海外展開を進めるとともに、学校（学科）単位の学修成果評価の方法を検討する。

最終年度では、職業分野ごとに代表校を選定し、学校（学科）ごとの「学修成果評価」を試行し、産業界、高等学校等（海外の主体も含む）のステークホルダーによるアセスメントを実施して、3年間の事業成果とその発展可能性について検証する。

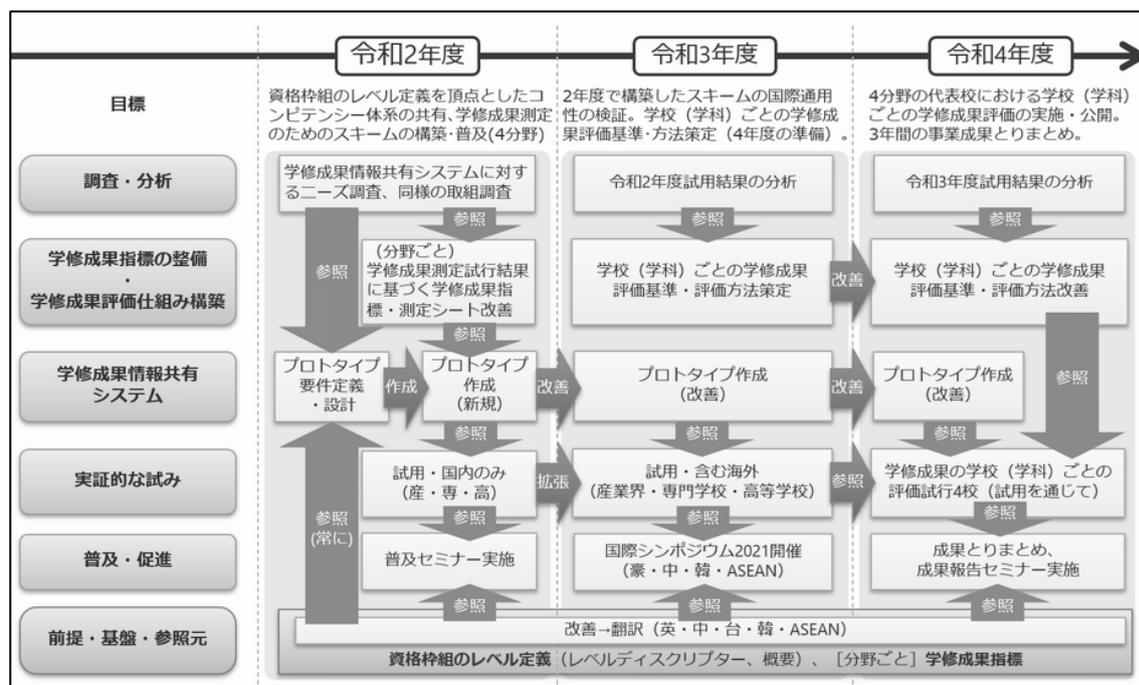


図 2-1 事業実施の年次計画

## 2-2 本年度の取組み

本年度事業は3年計画の2年目として、産業界、専門職高等教育機関、高等学校が「資格枠組のレベル定義」を共有し、かつ、これをそれぞれの立場で活用する仕組みの原型を構築する。この仕組みの構築を目標として、本事業では大きく次の5つの取組を進める。

- ① 資格枠組のレベル定義および学修成果指標の改善
- ② 学修成果情報共有システムのプロトタイプの完成
- ③ プロトタイプの試用
- ④ 国際シンポジウムの実施

本年度は、昨年度に行った学修成果情報共有システムに対するニーズ調査の結果を踏まえ、同システムを設計し、そのプロトタイプを完成させ、使い勝手などについて意見聴取を行った。また、その過程で得られた学修成果指標に対する意見も反映させて指標の改訂を行った。

一方、この数年における本事業の成果をもとに国際的な意見交換を行う場として、「科学技術革新に貢献する専門職高等教育」と名付けた国際シンポジウムを企画・実施した。

本書では、以上の事業成果を述べる。

### 3 「学修成果指標」および「ガイドライン」の改善

「資格枠組のレベル定義」については、専修学校専門課程（2年課程）卒業時を明確にレベル5として位置づけた結果、昨年度事業において一通りの整備が終了した。その整備に合わせて、海外普及を図ることを目的として、英語、中国語（簡体字・繁体字）、韓国語、ベトナム語に翻訳を行った。

同様に、昨年度は職業分野ごとの学修成果指標についても、資格枠組のレベル定義の改訂に伴って改訂したが、一部、済まなかった箇所もあったことから、今年度もその作業を継続して行った。また、合わせて、職業分野ごとの「ガイドライン」の改訂も行った。

以下のページでは、4つの分野の「学修成果指標」および「ガイドライン」を掲げる。それぞれの分野の改訂の要旨は次のとおりである。

#### ●美容分野－美容師職種

「学修成果指標」のレベル4～6の「知識と理解」「専門実践技能」について見直しを行った。それに合わせて「ガイドライン」を改訂した。

#### ●ゲーム・CG分野－ゲームクリエイター職種

「学修成果指標」「ガイドライン」ともにほとんど改訂点はなかった。

#### ●動物分野－動物看護職職種

「ガイドライン」の「指針」における空白を減らした。

#### ●土木・建築分野－土木施工管理職種

全般的に国家資格の位置づけをチェックし、その結果、主に、「知識と理解」の部分を改訂した。

### 3-1 美容分野－美容師職種

(学修成果指標)

学修成果指標 (美容分野－美容師職種)

レベル	技能				責任と自律性		
	学習者プロフィール	知識と理解	汎用的な技能	職務上の技能		自律性と責任感	倫理観とプロ意識
				専門実践技能	分析技能		
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>創発的かつ革新的な美容サービスの研究、創造</li> <li>付加価値が高い美容サービスの開発、マネジメント</li> <li>美容業界を代表する最新の成果の輩出</li> <li>★ レベル8のイメー</li> <li>キーマン</li> <li>策劃、最先端マネージャー、マネジメント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビューティビジネスの領域と学際的交流を図ること</li> <li>域と学際的交流を図ること</li> <li>可能な次の各領域の知識             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療</li> <li>・ 福祉</li> <li>・ IT</li> <li>・ その他関連領域</li> </ul> </li> <li>美容分野、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーと交流を図るための知識と理解</li> <li>美容サロン、美容分野における有力な業界団体のリーダーとの交流</li> <li>美容分野、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーとの交流</li> <li>美容分野、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーとの交流</li> <li>美容分野、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーとの交流</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>美容分野、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーとの交流</li> <li>美容分野、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーとの交流</li> <li>美容分野、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーとの交流</li> <li>美容分野、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーとの交流</li> <li>美容分野、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーとの交流</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>美容分野、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーとの交流</li> <li>美容分野、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーとの交流</li> <li>美容分野、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーとの交流</li> <li>美容分野、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーとの交流</li> <li>美容分野、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーとの交流</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>美容分野、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーとの交流</li> <li>美容分野、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーとの交流</li> <li>美容分野、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーとの交流</li> <li>美容分野、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーとの交流</li> <li>美容分野、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーとの交流</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>美容分野、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーとの交流</li> <li>美容分野、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーとの交流</li> <li>美容分野、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーとの交流</li> <li>美容分野、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーとの交流</li> <li>美容分野、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーとの交流</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>美容分野、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーとの交流</li> <li>美容分野、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーとの交流</li> <li>美容分野、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーとの交流</li> <li>美容分野、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーとの交流</li> <li>美容分野、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーとの交流</li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>先進的な美容技術、美容サービスの企画・開発能力</li> <li>先進的・革新的な美容サービスを創造し、そのプロセスを運用し管理</li> <li>美容サロンで生じる運営上の諸課題の解決</li> <li>美容学校を卒業後10～15年が経過し、リーダーシップが必要だが、創造性が必要な仕事、作品、サービスには若さや柔軟な思考が必要</li> <li>★ レベル7のイメー</li> <li>キーマン</li> <li>管理、創造、先導、高級、アドバイザー、マネージャー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビューティビジネスの展開に必要な次の各領域の知識             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 美容中継動向</li> <li>・ 美容マーケティング</li> <li>・ サーベイス産業特性</li> <li>・ プライマルビジュアル</li> <li>・ ヘルメックス</li> <li>・ コスチュームアップ</li> <li>・ アフターケア</li> <li>・ フラッシュアップ</li> </ul> </li> <li>次の各領域に関する基礎的知識             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 美容サロンの起業、財務・経営計画</li> <li>・ プランニング</li> <li>・ 顧客視点経営</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>美容分野、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーとの交流</li> <li>美容分野、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーとの交流</li> <li>美容分野、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーとの交流</li> <li>美容分野、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーとの交流</li> <li>美容分野、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーとの交流</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>美容分野、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーとの交流</li> <li>美容分野、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーとの交流</li> <li>美容分野、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーとの交流</li> <li>美容分野、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーとの交流</li> <li>美容分野、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーとの交流</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>美容分野、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーとの交流</li> <li>美容分野、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーとの交流</li> <li>美容分野、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーとの交流</li> <li>美容分野、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーとの交流</li> <li>美容分野、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーとの交流</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>美容分野、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーとの交流</li> <li>美容分野、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーとの交流</li> <li>美容分野、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーとの交流</li> <li>美容分野、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーとの交流</li> <li>美容分野、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーとの交流</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>美容分野、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーとの交流</li> <li>美容分野、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーとの交流</li> <li>美容分野、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーとの交流</li> <li>美容分野、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーとの交流</li> <li>美容分野、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーとの交流</li> </ul>

レベル	学習者プロフィール	知識と理解	技能				責任と自律性		
			汎用的な技能	専門実践技能	対人技能	職務上の技能	自律性と責任感	倫理観とプロ意識	
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 顧客を満足させるために必要な理論的・専門的知識、技能</li> <li>◇ 革新的で創造性に富む豊富な美容サービス創出に必要な、広範囲で体系的な知識・技能</li> <li>◇ 美容サロンの一員としての組織的育成と、そこで生じる広範囲な問題の解決</li> <li>◇ 美容師としての誇りに裏付けられ、優れた指導力を駆使した後進の育成</li> <li>◇ 顧客のニーズに合わせた施術と接客、顧客からの信頼の獲得</li> <li>◇ 美容学校を卒業後6～10年を規程、スタイリスト歴2～10年程度の経験。 ★レベル6のイタジーキープワード 「教える」、「できる」、 「管理美容師、スタイリスト、トレーナー、インストラクター、問題解決能力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ カウンセリング理論</li> <li>□ パーマンツケミカル系統とヘアデザインと毛髪状態による髪の選択とパーマの技術理論</li> <li>□ カラーリングデザイン理論 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ワンレン</li> <li>・ ロングレイヤ</li> <li>・ グラブレードシヨン</li> <li>・ ショートレイヤ</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 美容師としての仕事において、専門的・理論的知識を詳細に理解し、解釈、応用、分析、評価する能力</li> <li>□ 美容分野の知識の活用において主体的な役割を担う能力</li> <li>□ 思いまいで複雑な状況や測り難い状況でも、多方向からのアプローチや自主性をもって、問題や課題を解決する能力</li> <li>□ サービスの創出につながるクリエイティブ思考</li> <li>□ 広範な諸問題の解決に必要なレベルのロジカルシンキング能力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ カウンセリング実習</li> <li>□ サロンで扱われるヘアデザイン習得 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今人気のヘアデザイン</li> <li>・ 若見えヘアデザイン</li> <li>・ 小顔ヘアデザイン</li> <li>・ 似合わせヘアデザイン</li> </ul> </li> <li>□ ニュースカット <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 重量調整</li> <li>・ 質感調整</li> <li>①ストロングカット</li> <li>②エフェクトカット</li> <li>③スライダカット</li> <li>④レザークット</li> </ul> </li> <li>□ カラーデザイン習得 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ダブルカラー</li> <li>・ グラブレードシヨンカラー</li> <li>・ ディープ・ダイ</li> <li>・ パレイヤーシユ</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 顧客との円滑なコミュニケーションの実践能力</li> <li>□ 円滑なミーティングの実施に必要なコミュニケーション能力</li> <li>□ 中間管理職的なコミュニケーションの実施に必要なコミュニケーション技能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 美容サロンの顧客管理に関するPCやスマートフォン操作 (SNSの活用等)</li> <li>□ PCやスマートフォンを活用した効果的で確実な予約・リザーベーション機能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 多様な組織的枠組みや制約の下で、自主的に仕事を進め、各種業務管理でリーダーシップを発揮する能力</li> <li>□ 後輩に対する適切な指導能力</li> <li>□ 組織の他者に対する業績の評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 組織の一員としての責任感</li> <li>□ 自分や他者の業務について、相当レベルの責任感を持って、後進の育成にあたる責任感</li> <li>□ 美容の社会的地位づけの正しい認識に基づいて、美容師としての特長を保持した自己管理</li> <li>□ 自身のキャリアパスの明確化 (キャリアアドバイザーメント)</li> <li>□ 自身の活動を効果的にするために発生するストレスを軽減・コントロールするためのストレスマネジメント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 社会的・職業上の多様な業務や実務の中で、倫理観を遵守し、倫理上の課題を明らかにし、倫理観を持って決定し、美容師として行動する能力を養育</li> <li>□ 地域や世界が抱える科学、技術、ビジネス、社会、業務の問題について、深い認識と知識</li> <li>□ 地域や世界で、持続可能な社会をつくるために美容師の立場から貢献</li> <li>□ 美容師として、専門職業人に相応しい倫理的慣行や持続可能な慣行に従う能力</li> </ul>



レベル	学習者プロフィール	知識と理解	技能				責任と自律性		
			汎用的な技能	専門実践技能	対人技能	職務上の技能	分析技能	管理・指導技能	自律性と責任感
4	<p>◆ 美容師となるために必要な基礎的理論、原理をひとと知り理解</p> <p>◆ 美容師としての仕事をひとと協力理解</p> <p>◆ 職業人意識や職業倫理に対する前向きな姿勢</p> <p>★ レベルAのイメージ キープワード 「学ぶ」、ペーシフィックビュー フェイスチャット、美容学生</p>	<p>□ 国家試験 基礎問題 (カット、ワイディング、ウェーブ) の理論と学科問題の学修</p> <p>□ 毛髪診断</p> <p>□ カミカル (基本)</p> <p>・ シャンプー剤 / トリートメント剤</p> <p>・ カラー剤</p> <p>・ スタイル剤</p> <p>・ヘアケア剤</p> <p>□ SNSによる疑似集客体験</p>	<p>□ 知識や、よく知っている手法、スキームを適用して、実務的任務/学習の予測できる問題を解決する技能</p>	<p>□ 国家試験 基礎問題 (カット、ワイディング、ウェーブ) の学修</p> <p>□ ペーシフィックカット技術の修得</p> <p>・ 髪の流れ方</p> <p>・ セグションの分け取り方と止め方</p> <p>・ シェイビング</p> <p>・ 髪の開閉</p> <p>・ ワンレングスカット (ショートボブ)</p> <p>・ ロングレイヤーカット</p> <p>□ パーマ基本技術の習得</p> <p>・ ロングレイヤーカットウイッグにロッドを巻いて染布し、ウェーブを作るロッドの巻き方の習得</p> <p>・ ① 縮巻き (ススィラル)</p> <p>② 根本巻き / 中間巻き / 毛先巻き</p> <p>③ ビッグロッドに巻かれるその他の縮巻き経験、及び資格取得に必要な実践の習得</p> <p>□ カラーリング基本技術の習得</p> <p>・ リタッチ</p> <p>・ ジャストタッチ</p> <p>・ゼロタッチ</p> <p>・ ホイルワーク</p> <p>① スライディング</p> <p>② ウィーピング (マツシユ)</p>	<p>□ 望まれる学習成果を修得する為、先生や先輩など他職種職を学ぶ関係者との信頼関係を築く能力</p> <p>□ 職務で必要なお人関係構築</p> <p>・ 生、先輩、後輩と良好な関係を築くコミュニケーション能力</p>	<p>□ 資料作成及びプレゼンテーションスキル (PPTやスマートフォンなど) を使用したSNS技術技術なども含む)</p>	<p>□ 最近限の指導監督で、かなり自主的に仕事をこなす能力</p> <p>□ 学習/仕事の枠内で、相手に助言を与える能力</p>	<p>□ 卒業に対する意欲及び責任感</p> <p>□ 知識及び技術的経験を修得するための前向きな態度</p> <p>□ 国家資格を取得し、美容師としての仕事に携わる者としての自覚と自覚心、仕事に対する情熱</p>	<p>□ 社会的規範を理解し、社会及び学校生活を送るにあたりコンプライアンス意識を持つ行動</p>

(ガイドライン)

ガイドライン(美容分野-美容師職種)

分野	職種	レベル	人材特性	項目	指針
美容	美容師	8	知識と理解	ビューティビジネスの諸領域と学際的交流を図ることが可能な各領域の知識	・医療 ・福祉・介護 ・IT ・その他関連領域
				美容分野、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーと交流を図るための知識と理解 美容サロンの短期、中長期経営計画の立案を図るための知識	・経理 ・会計 ・法務 ・マーケティング
			汎用的な技能	美容分野の最先端にある新しく複雑な抽象概念や課題を、批判的に分析・評価して、総合的に対応する技能。また、既存の概念や実務の高度化を図る技能	
			専門実践技能	独創的かつ革新的な美容サービスの研究・創造 付加価値が高い美容サービスの開発・マニピュレーション技術 ビューティビジネスの諸領域と他領域の学際的研究とその成果の表現	
			対人技能	組織的な研究活動の実践 美容分野、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーとの交流	
			分析技能	研究・実務活動の質を高めるために、既存の手法/方法論を利用/選択/改善する、あるいは適切な新しい手法/方法論を開発 美容サロンの経営分析などにおいて、数値データや図表データの批判的評価	
			管理・指導技能	美容サロンの短期、中長期経営計画の立案 美容サロン経営の適切なPDCAサイクルの実践	
			自律性と責任感	組織的倫理対応のリーダーシップ 自分自身の仕事について、全面的に責任を負う責任感 必要に応じて、所属する組織の運営管理全般に対する説明の責任感 生涯学習に対する知見と、新しいアイデア、解決策、システムの開発・融合	
			倫理観とプロ意識	組織的倫理対応のリーダーシップ 倫理上、職業上の新たな課題を見だし、その複雑さや、美容分野における研究の進展や社会全体への影響の明社会的、技術的、経済的発展に美容師の立場から貢献	

ガイドライン（美容分野－美容師職種）

分野	職種	レベル	人材特性	項目	指針
美容	美容師	7	知識と理解	ビューティビジネスの展開に必要な次の各領域の知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>美容市場動向</li> <li>美容マーケティング</li> <li>サービス産業特性</li> <li>ブライダルビジネス</li> <li>ヘルスケアビジネス</li> <li>コスメティックビジネス</li> <li>コミュニケーションビジネス</li> <li>美容サロンの起業・財務・経営計画</li> <li>ブランディング</li> <li>顧客視点経営</li> </ul>
			汎用的な技能	経営の各領域に関する基礎的知識 高度な技術、手法、技能を活用して、新しいアイデア／画期的な実践法を産み出すためのアプローチを幅広く、総合的に実行し、知識を批判的・統合的に応用し、美容分野における複雑な課題に対処し解決する諸技能（ハイレベルなクリエイティブ思考）	
			専門実践技能	美容サロンの運営の実践技能 美容サロン経営のPDCAサイクル諸局面における補佐的業務の実践	
			対人技能	ビューティビジネスの次の諸領域におけるビジネスの運営 美容業界における多様な立場の人々、異業種の人々と円滑なコミュニケーションを行うことができ、その能力を活かして、協力しながら仕事を進めることができるチームビルディング自己理解と他者理解を両立させ、部下との適切なコミュニケーションを図る技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブライダルビジネス</li> <li>ヘルスケアビジネス</li> <li>コスメティックビジネス</li> <li>ファッションビジネス</li> </ul>
			分析技能	美容サロンの運営に関する正確な現状分析とその結果に基づく基本的な評価技能 ビジネスを円滑かつ効率的に進めるために必要なPC、スマートフォンを活用技能	
			管理・指導技能	職場において、適切なマネジメントに結び付き、自主性、主体性、リーダーシップの発揮 複雑かつ予期がつかない状況下で、自分のチーム内の作業や他チームとの協働作業の企画、資源管理、監督、問題解決、人事・労務・作業管理	
			自律性と責任感	従業員のモチベーションマネジメント 職業人として成長を続けることにより自己の向上を図る考	

ガイドライン（美容分野－美容師職種）

分野	職種	レベル	人材特性	項目	指針
美容	美容師	6	倫理観とプロ意識	ベンチャー事業あるいはプロジェクトを起こしたり、そのリーダーになつたりすること ライフワークバランス感覚 自身のモチベーションマネジメント 組織としての倫理的対応実践 批判的洞察や倫理的配慮に基づき、複雑な問題について 助言や決定を行う自信 国や世界の社会的、技術的、経済的発展のために、美容師としての立場で貢献 市民社会や世界が抱えるさまざまな問題に、美容分野で 取り組み能力を発揮 カウンセリング理論	
			知識と理解	パーマ剤やミカミ詳細とヘアデザインと毛髪状態による剤の 選択とパーマの技術理論 カラーリングデザイン理論	・ワンレン ・ロングレイヤ ・グラデーション ・ショートレイヤ
			汎用的な技能	美容師としての仕事において、専門的・概念的・理論的知識を詳細に認識し、解釈、応用、分析、評価する能力 美容分野の知識の活用において知的主体性を発揮する能力 あいまいで複雑な状況や予測できない状況でも、多方向からのアプローチや自主性をもって、問題や課題を解決する能力 サービスの創出につながるクリエイティブ思考 広範な諸問題の解決に必要なレベルのロジカルシンキング能力 カウンセリング実習 サロンで売れるヘアデザインの習得	
			専門実践技能	ニゴアシスカット	・今人気のヘアデザイン ・若見えヘアデザイン ・小顔ヘアデザイン ・似合わせヘアデザイン □毛量調整 (1)セニングカット □質感調整 (1)ストロングカット (2)エフェクトカット (3)スライドカット (4)リゼンカット

ガイドライン（美容分野－美容師職種）

分野	職種	レベル	人材特性	項目	指針
				カラーデザインの習得	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ダブルカラー</li> <li>□カラーデザインカラー</li> <li>□チップ・ダイ</li> <li>□レイヤー・ジュ</li> </ul>
			対人技能	顧客との円滑なコミュニケーションの実践能力 円滑なミーティングの実施に必要なコミュニケーション技能 中間管理職的なコミュニケーションや円滑なミーティングの実施に必要なコミュニケーション技能	
			分析技能	美容サロンの顧客管理につながるPCやスマートフォンでの操作（SNSの活用等） PCやスマートフォンを活用した効果的で説得力のあるプレゼンテーション技能	
			管理・指導技能	多様な組織的枠組みや制約の下で、自主的に仕事を進め、各種業務管理でリーダーシップを発揮する能力 後輩に対する適切な指導能力 組織の他者に対する業績の評価	
			自律性と責任感	組織の一員としての責任感 自分や他者の業務について、相当レベルの責任感 美容師としての自覚と誇りを持って後進の育成にあたる責任感 美容の社会的位置づけの正しい認識に裏付けられた美容師としての誇りを持った自己管理 自身のキャリアパスの明確化（キャリア開発プログラム） 自身の活動を効率的にするタイムマネジメント 自身に発生するストレスを軽減・コントロールするためのストレスマネジメント	
			倫理観とプロ意識	社会的・職業上の多様な環境や実務の中で、倫理観を遵守し、倫理上の課題を明らかにし、倫理観を持って決定し、美容師として行動をする能力を発揮 地域や世界が抱える科学、技術、ビジネス、社会、環境の課題について、深い認識と知識 地域や世界で、持続可能な社会をつくるために美容師の立場から貢献 美容師として、専門職業人に相応しい倫理的慣行や持続可能な慣行に従う能力	

ガイドライン（美容分野－美容師職種）

分野	職種	レベル	人材特性	項目	指針
美容	美容師	5	知識と理解	経営領域の知識	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>現在の日本の美容界の実情</li> <li><input type="checkbox"/>社会人と学生の違い</li> <li><input type="checkbox"/>美容室の従業員間のつながり</li> <li><input type="checkbox"/>何のために仕事をするのか</li> <li><input type="checkbox"/>プロの定義</li> <li><input type="checkbox"/>仕事によって得られる報酬の種類と価値</li> <li><input type="checkbox"/>自分からコミュニケーションをとれる人になる</li> <li><input type="checkbox"/>職場の世界での考え方とは</li> <li><input type="checkbox"/>サービスとは、美容室とは、美容室のサービスとは</li> <li><input type="checkbox"/>挨拶の効用</li> <li><input type="checkbox"/>時間厳守の意味</li> <li><input type="checkbox"/>職場におけるコミュニケーション：報告／連絡／相談</li> <li><input type="checkbox"/>常にトップを目指す</li> <li><input type="checkbox"/>上達の法則：努力直線・向上曲線</li> <li><input type="checkbox"/>プロのハラスールとマナー・礼儀</li> <li><input type="checkbox"/>就職後に起きやすい悩みと解決法</li> <li><input type="checkbox"/>問題解決の考え方</li> <li><input type="checkbox"/>アシスタントがプロの流れを作る：スーパーアシスタントの視点</li> <li><input type="checkbox"/>外国人が馴染むやすいクレーム&amp;トラブル対応</li> <li><input type="checkbox"/>カルテ記入と管理の注意点</li> <li><input type="checkbox"/>客管理の仕事（小口スタッフ/顧客/商品/技術/営業/チャリアプランニング（ゴール目標/1年後・3年後・5年後）</li> <li><input type="checkbox"/>朝礼と終礼の意味</li> <li><input type="checkbox"/>個人目標の取り出し</li> </ul>
			汎用的な技能	学習/仕事の内容が明確になっている場合、最低限の監督を受けて、一般概念/理論/運用原理の認識・解釈・適用・評価	
				明確でありふれた問題や、日常的に見られない性質の問題の解決	
			専門実践技能	国家試験実技課題（カット・ワインディング・ウェーブ）合格レベル習得 展開図の書き方習得	

ガイドライン(美容分野-美容師職種)

分野	職種	レベル	人材特性	項目	指針
				ヘアシグカット技術習得	<p>シグカット</p> <p>(1)サイドグレーション</p> <p>(2)45度グレーション</p> <p>ブロードライヤー</p> <p>ドライヤー</p> <p>ブローカー(ブリーチ)</p> <p>・技術領域・技術理論</p> <p>(1)備品準備</p> <p>(2)アシスタントのセルフテクニック</p> <p>・技能領域・ヘルプ技術</p> <p>(1)タオルセッティング</p> <p>(2)クロスセッティング</p> <p>(3)マツサージ</p> <p>(4)シャンブーテクニック</p> <p>(5)カラーリタッチ/リタッチ</p> <p>(6)ハンドプロ</p> <p>・接遇領域・技術理論</p> <p>(1)今、日本水準で求められているサービスとは</p> <p>(2)アシスタントの責任</p> <p>(3)誉め言葉</p> <p>(4)アロウチ会話の種類とサロン内で話してはいけない話題</p> <p>(5)場面ごとが変わるお客様心理</p> <p>(6)放置時間の気遣り</p> <p>(7)クレンジング(整理・整頓・清掃)</p> <p>(8)基本接客技術</p> <p>(9)応用接客技術</p> <p>(10)フロント業務</p> <p>(11)身だしなみ(清潔と清潔感の違い)/接客用語/敬語・尊敬語・丁寧語・クッション言葉/お声かけの場面とおかけする言葉</p>
				カラーリングデザインを再現する技術の習得	
				ヘルプ技術の習得	<p>・接遇領域・接客技術</p> <p>(1)発声/正しい姿勢/お辞儀/笑顔/プランケットのかけ方</p> <p>(2)導線誘導</p> <p>(3)電話応対と注意点</p> <p>(4)フロント業務</p>

ガイドライン（美容分野－美容師職種）

分野	職種	レベル	人材特性	項目	指針
美容	美容師	4	対人技能	コミュニケーション能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>□最低限のマナーを踏まえた接客能力及び会話の能力</li> <li>□職場の同僚、先輩、後輩との良好な関係を築く姿勢と会話の能力</li> <li>□組織の一員として円滑に業務を遂行するために必要な洞察力と意思疎通の能力</li> </ul>
			分析技能	基本的な資料作成能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>□学習及び習得した経験や技能を整理整頓する能力</li> <li>□PCやスマートフォンを操作し、資料を作成する能力</li> </ul>
			管理・指導技能	基本的なプレゼンテーション能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>□経験や技能を表現する能力</li> <li>□作成した資料を他者が共感できるように共有する能力</li> <li>□PCやスマートフォンなどを使用し、社会一般に公表、表現する能力（SNSなど）</li> </ul>
			自律性と責任感	さまざまな状況で実施される明確で非定型的な学習／任務について、幅広い助言や指導を受けて、かなりの責任感と自主性をもち仕事をする技能 職場で各種チームの統率と管理を行い、問題に対処する技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>□仕事に対する意欲及び責任感</li> <li>□知識、及び技術的経験を修得する為の問題解決に取り組み姿勢</li> <li>□自分のおかれた状況を理解することができている</li> <li>□技術向上に関して、計画的に取り組むことができる</li> <li>□自己だけでなく他者との共同作業をする姿勢と完遂する責任感</li> </ul>
			倫理観とプロ意識	組織の一員としての円滑な業務の遂行 不確実な事態の発生に対応する為の考え方や真摯な姿勢 社会的規範を理解し、コンプライアンス意識を持った行動 個人情報やプライバシーに配慮 守秘義務の順守	
			知識と理解	国家試験実技課題（カット、ワインディング、ウェーブ）の理論と学科課題の学修 毛髪診断 ケミカル（基本）	<ul style="list-style-type: none"> <li>□シャンプー剤／トリートメント剤</li> <li>□カラー剤</li> <li>□パーマ剤</li> <li>□スタイリング剤</li> <li>□ヘアケア剤</li> </ul>
			汎用的な技能	SNSによる疑似集客体験 知識や、よく知っている手法、スキルを活用して、定型的任務／学習の予測できる問題を解決する技能	
			専門実践技能	国家試験実技課題（カット、ワインディング、ウェーブ）の学修	

ガイドライン（美容分野－美容師職種）

分野	職種	レベル	人材特性	項目	指針
				ヘアシグカット技術の修得	<ul style="list-style-type: none"> <li>☑髪の濡らし方</li> <li>☑エクシジョンの分け取り方と止め方</li> <li>☑エイピング</li> <li>☑髪の開閉</li> <li>☑アンレングスカット（ショートボブ）</li> <li>☑ワンゲルレイヤークット</li> <li>☑ワンゲルレイヤークットウイッグにロットを巻いて塗布し、ウェーブを作る</li> <li>☑ロットの巻き方の習得</li> <li>☑（1）縦巻き（スパイラル）/斜め巻き</li> <li>☑（2）根本巻き/中間巻き/毛先巻き</li> <li>☑（3）ビッグロットに慣れる</li> <li>☑その他施設修験、及び資格取得に必要な主体験の習得</li> </ul>
				パーマ基本技術の習得	
				カラーリング基本技術の習得	<ul style="list-style-type: none"> <li>☑タッチ</li> <li>☑ジャストタッチ</li> <li>☑プロテク</li> <li>☑オイルワーク</li> <li>☑（1）スライジング</li> <li>☑（2）ウェーブング（Xボウ）</li> </ul>
			対人技能	望まれる学習成果を修得する為、先生や両親など進路相談をする関係者と信頼関係を築く能力 職場で必要な対人関係構築能力を習得するため、同級生、先輩、後輩と良好な関係を築くコミュニケーション能力	
			分析技能	資料作成及びプレゼンテーションスキル（PCやスマートフォンなどを使用したSNS投稿技術なども含む）	
			管理・指導技能	最低限の指導監督で、かなり自主的に仕事をする能力	
			自律性と責任感	学習/仕事の枠内で、相手に助言を与える能力 学習に対する意欲及び責任感 知識及び技術的経験を修得するための問題解決に取組む姿勢	
			倫理観とプロ意識	国家資格を取得し、美容師及び美容の仕事に携わる者としての自尊と自尊心、仕事に対する情熱 社会的規範を理解し、社会及び学校生活を送るにあたり、コンプライアンス意識を持った行動	

### 3-2 ゲーム・CG 分野ーゲームクリエイター職種

(学修成果指標)

学修成果指標 (ゲーム・CG分野 - ゲームクリエイター職種)

レベル	技能					責任と自律性		
	知識と理解	汎用的な技能	専門実践技能	対人技能	分析技能	管理・指導技能	自律性と責任感	倫理観とプロ意識
1	<p>学習者プロフィール</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>最先端技術もしくは五感制御における技術応用の研究成果として学術研究発表の発表経験</li> <li>ゲームにおける論文査読立書と、自身の研究成果</li> <li>ゲームにおける書籍、論文の発表</li> <li>応用技術を用いたワールドワイドカンファレンスでの発表経験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他業種を含めた情報の収集技能</li> <li>先端技術のサイクルを理解し、次の技術を正しく予測できる技能</li> <li>技術を分析し、広く使えるようにする技能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高度な専門知識を高い業務上の課題を解決に導く技能</li> <li>将来必要な技術を予測し先行して開発する技能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他業種を含めた交渉、調整能力</li> <li>技術を体系化し理解しやすい形にまとめる資料作成技能</li> <li>情報を広める場の設定と運営</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>最先端技術を正確に理解できる知識を適用する能力</li> <li>先端技術のハイクラス・サイクルを理解した、予測、分析能力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>開発における課題を発見する能力</li> <li>ナレッジ管理を応用した開発における組織管理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>最先端技術を学習する責任</li> <li>責任を汎用化させる為の枠組み構築</li> <li>開発した技術を運営し持続させることへの関与</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>最先端技術の運営と種への関与</li> <li>広い層にわたる技術の応用例の提示</li> </ul>
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>最先端技術の理解と、五感制御の応用研究</li> <li>ゲームデザインの研究</li> <li>学術研究発表</li> <li>一般普及における新求力の知識と実証検証結果</li> <li>学術成果と、自身の学術成果</li> <li>ゲームにおける書籍、論文の発表</li> <li>応用技術を用いたワールドワイドカンファレンスでの発表経験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>先端技術に精通し開発もする技能</li> <li>技術を、体系化し、まとめる技能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高度な専門知識に基づき業務に必要となる技能を適用する技能</li> <li>業務に必要となる技能を正しく選択する技能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務内容の迅速かつ的確な説明能力</li> <li>チーム内の問題解決能力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>技術を解析できる知識を適用する能力</li> <li>先端技術を独自に研究、開発する能力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部署を指導する能力</li> <li>業務をスケジュール内に進める技能</li> <li>部下の育成</li> <li>技術へのセキュリティ管理と法的理解</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>先端の専門知識を学習する責任</li> <li>使用する技術にかかわる、時間を正しく把握する責任</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>先端技術の管理</li> <li>技術への正しい評価</li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>最先端技術の知見、論文発表経験</li> <li>ゲームデザインにおける体系的な指導経験</li> <li>ゲーム制作における指導的役割での発表</li> <li>市場向けタイトル開発経験</li> <li>ワールドワイドカンファレンスでのセッション発表経験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>開発におけるコストの計算技能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>最先端技術のプログラミング実機でのアプリ制作</li> <li>ノードベースプログラミング (企画)</li> <li>ゲームプランナー・デザイナーとしての役割</li> <li>ゲームマーケティング経験</li> <li>ゲーム制作におけるエグゼクティブとマーケティング経験</li> <li>チーム、個人におけるゲーム制作の指導経験</li> <li>技術カンファレンスにおけるセッション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>隣接・学年・他団体を超えた協働と連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクトが正確に進められるかどうか分析する能力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進捗管理、リソースと仕様のバランス管理</li> <li>制作進行管理</li> <li>一般的な法的理解</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務に必要となる技術の選別に関する正当性の説明責任</li> <li>開発を最後まで導く責任</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務に必要となる意識</li> <li>正しい選択に関する意識</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>最先端技術の知見、論文発表経験</li> <li>ゲーム制作における体系的な指導経験</li> <li>ゲーム制作における指導的役割での発表</li> <li>市場向けタイトル開発経験</li> <li>ワールドワイドカンファレンスでのセッション発表経験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>開発におけるコストの計算技能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>最先端技術のプログラミング実機でのアプリ制作</li> <li>ノードベースプログラミング (企画)</li> <li>ゲームプランナー・デザイナーとしての役割</li> <li>ゲームマーケティング経験</li> <li>ゲーム制作におけるエグゼクティブとマーケティング経験</li> <li>チーム、個人におけるゲーム制作の指導経験</li> <li>技術カンファレンスにおけるセッション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>隣接・学年・他団体を超えた協働と連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクトが正確に進められるかどうか分析する能力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進捗管理、リソースと仕様のバランス管理</li> <li>制作進行管理</li> <li>一般的な法的理解</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務に必要となる技術の選別に関する正当性の説明責任</li> <li>開発を最後まで導く責任</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務に必要となる意識</li> <li>正しい選択に関する意識</li> </ul>

レベル	学習者プロフィール	知識と理解	技能				責任と自律性		
			汎用的な技能	専門実践技能	対人技能	職務上の技能	分析技能	管理・指導技能	自律性と責任感
5	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 応用技術の知見</li> <li><input type="checkbox"/> ゲームデザインの実践経験</li> <li><input type="checkbox"/> ゲーム制作の個人もしくは、チーム制作への参加経験</li> <li><input type="checkbox"/> ゲーム制作の企画内容の判断</li> <li><input type="checkbox"/> 2D、3D、モーションにおけるコンセプトの制作</li> <li><input type="checkbox"/> 開発プロジェクトのチームビルディングの経験</li> <li><input type="checkbox"/> ネイションワイドのコンテント応募経験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> プログラムに必要な数学・物理</li> <li><input type="checkbox"/> ゲーム個人制作</li> <li><input type="checkbox"/> モバイルゲームアプリ制作知識</li> <li><input type="checkbox"/> 企画書個人制作</li> <li><input type="checkbox"/> CG個人制作（ポートフォリオ制作）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> ゲーム物理（リアル表現）</li> <li><input type="checkbox"/> 描画エンジン制作</li> <li><input type="checkbox"/> ゲームAI技術とアルゴリズム</li> <li><input type="checkbox"/> サウンドエフェクト、3Dサウンド</li> <li><input type="checkbox"/> モバイルゲーム開発技術</li> <li><input type="checkbox"/> オンラインゲーム制作技術</li> <li><input type="checkbox"/> 質感表現能力（シェーダー・テクスチャ・ライティング）</li> <li><input type="checkbox"/> 3Dスケラプトモデリング技術</li> <li><input type="checkbox"/> 企画営業シミュレーション</li> <li><input type="checkbox"/> ゲームエンジンプログラミング（企画）</li> <li><input type="checkbox"/> ドキュメントレイアウト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 論理的伝達技法</li> <li><input type="checkbox"/> 作品プレゼンからの改善</li> <li><input type="checkbox"/> ディスカッション技法</li> <li><input type="checkbox"/> チームメンバーの意見・考えの尊重</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 使用している技術を正しく理解し説明ができる能力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> チーム制作メンバーの役割を理解した行動</li> <li><input type="checkbox"/> チーム制作でのコミュニケーション、問題解決技能</li> <li><input type="checkbox"/> コミュニケーションツールの活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 指定された技術を使用し、業務を遂行する責任</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 業務に必要な技術の習得に対する意識</li> </ul>	
4	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 技術の知見</li> <li><input type="checkbox"/> ゲーム制作における基礎プログラミングの知識</li> <li><input type="checkbox"/> ゲーム制作の企画</li> <li><input type="checkbox"/> 2D、3D、モーションのツール群の使用</li> <li><input type="checkbox"/> 個人、チームによるゲーム制作の経験</li> <li><input type="checkbox"/> 技術カンファレンスへの参加経験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> ビジネス文書作成スキル</li> <li><input type="checkbox"/> 企画案読解力・構成力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 情報処理の基礎</li> <li><input type="checkbox"/> ゲーム制作概論</li> <li><input type="checkbox"/> プログラミング概論</li> <li><input type="checkbox"/> 2D・3Dの描画理論</li> <li><input type="checkbox"/> ゲームエンジンの制作手法</li> <li><input type="checkbox"/> 色彩・質感の知識</li> <li><input type="checkbox"/> チーム制作作業の進め方</li> <li><input type="checkbox"/> ゲーム業界知識</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> ゲーム物理（リアル表現）</li> <li><input type="checkbox"/> 描画エンジン制作</li> <li><input type="checkbox"/> ゲームAI技術とアルゴリズム</li> <li><input type="checkbox"/> サウンドエフェクト、3Dサウンド</li> <li><input type="checkbox"/> モバイルゲーム開発技術</li> <li><input type="checkbox"/> オンラインゲーム制作技術</li> <li><input type="checkbox"/> 質感表現能力（シェーダー・テクスチャ・ライティング）</li> <li><input type="checkbox"/> 3Dスケラプトモデリング技術</li> <li><input type="checkbox"/> 企画営業シミュレーション</li> <li><input type="checkbox"/> ゲームエンジンプログラミング（企画）</li> <li><input type="checkbox"/> ドキュメントレイアウト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 自分のアイデアをプレゼンする能力</li> <li><input type="checkbox"/> 自分の作品をプレゼンする能力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> C++とオブジェクト指向プログラミング</li> <li><input type="checkbox"/> 2D・3Dゲームプログラミングと描画理論</li> <li><input type="checkbox"/> ショーダープログラミング技術</li> <li><input type="checkbox"/> ゲーム数学</li> <li><input type="checkbox"/> レベルデザイン</li> <li><input type="checkbox"/> ゲーム仕様書作成</li> <li><input type="checkbox"/> チュートリアル制作</li> <li><input type="checkbox"/> 2D・3Dデザインツールの操作</li> <li><input type="checkbox"/> 基礎画力・観察力・構成力・描写力</li> <li><input type="checkbox"/> UI/UXデザイン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 教えられた知識を正しく分析できる能力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> チーム制作での役割理解</li> <li><input type="checkbox"/> 3分野（プログラム・企画・CG）での制作進行に必要な行動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 指示された技術の習得の正しい理解に対する心掛け</li> <li><input type="checkbox"/> 指示された範囲の業務に対する責任感</li> <li><input type="checkbox"/> 業務の進れに関する報告責任</li> </ul>

(ガイドライン)

ガイドライン (ゲーム・CG分野 - ゲームクリエイター職種)

分野	職種	レベル	人材特性	項目	指針
ゲーム・CG	ゲームクリエイター	8	知識と理解	先端技術の理解と、五感制御の理解の応用研究	人間の五感と思考に対するアプロウチのあるコンテンツ応用の知見を持ち、コンピュータ先端技術の機能理解とコンテンツ展開における人や市場に対する研究結果を持つ。
			汎用的な技能	ゲーム制作におけるシナリオやナラティブに限らず、面白さに關しての考察と、機能分析、取り巻く環境も含めた市場動向も加味した知見の研究結果を持つ。	ゲームジャンルや、カテゴリの分類だけでなく、周辺情報を含めた分析、機能から見た層合の決まりごとの解釈、プレイモーターによる分析などを含めたゲーム制作と知見と研究結果を持つ。
			専門実践技能	一般普及における訴求力の知識と実証検証結果	ゲームコンテンツの制作における発想に關して、体系化された取得方法に關して知見と検証結果を持つ。
			対人技能	発想における特殊性の学術体系化	ハイブ・サイクルにおける技術の特異点を理解している。
			知識と理解	ハイブ・サイクルへの理解	分野を問わず多くの知見を真摯に求めた姿勢と、膨大な情報に対する探究心を持つ。
			汎用的な技能	他業種を含めた情報の収集技能	先端技術のサイクルを理解し、次の技術を正しく予測できる技能
			専門実践技能	技術を分析し、広く使えるようにする技能	技術を構成する機能を理解し、現状課題に対しての適応させる応用力を持つ。
			対人技能	高度な専門知識を使い、業務上の課題を解決に導く技能	特定分野における知見から問題解決に向けた技術の応用力を持つ。
			知識と理解	将来に必要な技術を予測し先行して開発する技能	基本技術の研究から、発展していく機能に關してプロトタイプ制作を行う技能を持つ。
			対人技能	他業種を含めた交渉、調整能力	特定分野に固執せず、多分野との調整能力と、マルチ展開を図れる交渉力を持つ。
ゲーム・CG	ゲームクリエイター	7	知識と理解	技術を体系化し理解しやすい形にまとめる資料作成技能	基本、応用、先端技術を体系的に理解を促すドキュメント作成能力を持つ。
			汎用的な技能	情報を広める場の設定と運営	知見、技術など同業、他業種を含んだコミュニティの形成や運営を行う能力を持つ。
			専門実践技能	最先端技術を正確に理解できる知識を適用する能力	最先端技術を正確に理解できる知識を適用する能力を持つ。
			対人技能	最先端技術のハイブ・サイクルを理解した、予測、分析能力	先端技術のハイブ・サイクルを理解し、予測、分析能力を持つ。
			知識と理解	開発における課題を発見する能力	開発における内外の課題を発見する能力を持つ。
			汎用的な技能	ナラティブ理論を応用した開発における組織管理	ナラティブ理論を応用した開発における組織管理の体制化を行う能力を持つ。
			専門実践技能	最先端技術を学習する責任	先端技術の学習と取得における他者に対する責任能力を持つ。
			対人技能	技術を汎用化させる為の枠組み構築	技術を固い込みする事なく、広(知見を共有し、周辺への広播を行う)枠組みを構築する能力を持つ。
			知識と理解	開発した技術を運営し持続させることへの関与	技術の実業と持続性のある運営を行う能力を持つ。
			汎用的な技能	最先端技術の運営と維持への関与	先端技術を広く知見として広める運営を行っている。
ゲーム・CG	ゲームクリエイター	7	知識と理解	広い層に対しての技術の応用例の提示	技術の汎用事例を知見として広めるための手法としてオンラインでの活動を行っている。
			汎用的な技能	先端技術と五感制御を理解している。	コンピュータ先端技術のコンテンツへの実装経験と、人間の五感に対してのアプローチを行った実装経験を持つ。
			専門実践技能	ゲームデザインの研究と論文発表に關する知識、理解がある。	ゲーム制作におけるシナリオやナラティブに限らず、面白さに關しての考察された文獻の知見と理解を持つ。
			対人技能	ゲーム制作における体系的学術研究を進めることができる。	ゲームジャンルや、カテゴリの分類だけでなく、周辺情報を含めた分析の文獻への理解と知見を持つ。
			知識と理解	チーム、個人のゲーム制作における学術的指導経験がある。	分散制作、スケジュール管理、チームマネージメント、バグトックキング、制作における見極め、シユリンク能力を持った制作の指導経験がある。
			汎用的な技能	ゲームデザインの学術的体系化を理解できる。	ゲーム制作における学術的背景の知見、専門分野における知識の導入・内容を分析能力と、環境情報を含めた知見を持つ。
			専門実践技能	ワールドワイドにおける法的知見を持っている。	各国の基本方針、憲法、民法、商法を背景に、一般的の認識における判断の遅いや、習慣、人種、宗教、教義に對けるター・事項の理解、Rating機構の知見を持つ。
			対人技能	先端技術に精通し開発もする技能を持っている。	先端技術の最小実装を行い試行した経験を持ち、作品としての昇華させるだけの技術力を持つ。
			知識と理解	技術を、体系化し、まとめる技能を持っている。	ミッドウェアやエンジン、フレームワークにより隠蔽されている箇所を自分の知見で仕組みとして理解し、最構築もしくは再定義できるだけの能力を持つ。
			専門実践技能	高度な専門知識に基づき技能を持っている。	特定分野に對いての実装経験とそれに伴う知見を持ち、なおかつ、その知見を他者に開示、説明できる技術力を持つ。
対人技能	業務に必要な技術を正しく選択する技能を持っている。	レガシー技術から、先端技術までを取捨選択し、条件に合致する最適解を見出し実装する能力を持つ。			
知識と理解	業務内容の迅速かつ的確な説明能力を持っている。	業務における正確な情報、的確に把握し相手に説明する能力を持つ。			
対人技能	チーム内の問題解決能力を持っている。	チーム制作における要因の見極めと、対処する能力を持つ。			

ガイドライン (ゲーム・CG分野 - ゲームクリエイター職種)

分野	職種	レベル	人材特性	項目	指針
ゲーム・CG	ゲームクリエイター	6	分析技能	技術を解析できる知識を適用する能力がある。	動作環境、及び、Lowレベルの機能の中身を理解する能力を持つ。
			管理・指導技能	先端技術を独自に研究、開発する能力がある。	先端技術の裏側を経験を通して、技術カットでの研究と、転用もふくめた新規の開発の経験を持つ。
			自律性と責任感	部下を指導する能力を持っている。	人材管理における適切な先導する管理能力を持つ。
			倫理観とプロ意識	業務をスケジュール内に進める技能を持っている。	プロジェクトマネージメントにおける制作スケジュール管理能力を持つ。
			知識と理解	部下の育成技能を持っている。	人材育成に關するの技能を持つ。
			汎用的な技能	技術への正しい評価意識を持っている。	技術的な知見と、セキュリティ技術情報の知見を持つ。
			専門実践技能	技術への正しい評価意識を持っている。	基本技術の応用である事を理解する際には、実装と体験を通しての知見と責任感を持つ。
				先端技術の管理意識を持っている。	技術の正しい理解と、自主性の保持と有する責任を持ち、時間把握能力を持つ。
				ゲームチーム制作マネージメントとプロジェクトに関する知識と理解がある。	先端技術の裏側においてプレイヤーが人間であるという意識を持つ。
				プロジェクトマネージメントと役割に関する知識と理解がある。	技術が及ぼす影響を細部において判断する能力を持つ。
ゲーム・CG	ゲームクリエイター	5	対人技能	ゲームチーム制作マネージメントとプロジェクトに関する知識と理解がある。	ゲーム制作のチームマネージメントの知見を持ち、なおかつ実践する能力がある。
			分析技能	ゲームマーケティングに関する知識と理解がある。	ゲーム制作におけるチームビルディングでのけん引役を担う能力を持つ。
			管理・指導技能	ゲームをめぐる法的知見に関する知識と理解がある。	ゲーム市場の理解と分析する能力を持つ。
			自律性と責任感	開発におけるコストの計算技能を持っている。	ゲーム自体及び、取り巻く環境、プレイヤー、金銭、市場、世界規模の法的知見を持つ。
			倫理観とプロ意識	最先端技術のプログラミング技能を持っている。	ゲーム開発におけるコスト計算できる能力を持つ。
			汎用的な技能	実機を使用したアプリ制作ができる。	先端技術を利用した実装をする技能を持つ。
			専門実践技能	ノートベースプログラミング (企画) の技能を持っている。	ターゲットを速定したアプリケーションの制作する能力を持つ。
				ゲームプランナーとしての技能を持っている。	分離、分岐環境においての統合したゲーム制作の能力を持つ。
				リモート制作の技能を持っている。	ゲーム制作における音子を伝播できる能力を持つ。
				ポートフォリオ完成の技能を持っている。	ゲーム制作の期間表からの逆算しシミュレーションを行い、必要素材の制作する能力を持つ。
	職種・学年・他団体を超えた協働と連携ができる。	ドキュメントもしくは、作品としての完成度と、自己アピールできる作品を制作する能力を持つ。			
	プロジェクトが正確に進められるかどうか分析する能力を持っている。	Middlewareを使用しても、モデルの表示およびコントローラ可能な状態での表示能力を持つ。			
	進捗管理、リソースと仕様のバランス管理の能力を持っている。	Global Game Jam及び、複数混在の状態で一纏めにゲーム制作を行う。			
	制作進行管理能力を持っている。	ゲーム制作における進捗管理、リソースと仕様のバランス管理の能力を持つ。			
	一般的に法的理解に基づく管理ができる。	ゲーム制作における的確な事態把握能力と決断力を持つ。			
	業務に必要な技術の選別に關する正当性の説明責任を認識している。	ゲームの裏側、表裏において法的規則の理解と知財管理の知識を持つ。			
	開発を最後まで導く責任感を持っている。	チームビルディングにおける、伝達手法の種類を問わず制作における意思疎通の継続事項を円滑にこなす能力を持つ。			
	プロジェクトとして、業務に必要な技術の正しい選択に關する意識を持っている。	ゲーム制作における的確な事態把握能力と決断力を持つ。			
	プログラムに必要な数学・物理の知識を持っている。	主張、権利における正確な知見を持ち、倫理規定を逸脱しない制作を行う。			
	ゲーム個人制作に關する知識を持っている。	多様なメディア間の衝突判定を数学的に理解。			
	モバイルゲーム (スマホゲーム) の制作経験がある。	剛体の運動と衝突判定を数学・物理学的に理解。			
	企画書個人制作に關する知識を持っている。	ゲームプログラムに必要な基本処理を学習し、構造としくみについて理解し、個人で作品を完成。			
	CG個人制作 (ポートフォリオ制作) に關する知識を持っている。	モバイルゲーム (スマホゲーム) の制作経験がある。			
	制作スケジュールを立案できる。	シナリオの書式を習得、最新ゲームでのレベルデザインを理解、分析、アイデアを [企画書] としてアウトプットできる力を習			
	自己作品のアピールのためのプレゼンテーション能力を持っている。	希望職種応募に必要なポートフォリオ制作経験。(2D・3D・キャラクター・背景・アニメーション・エフェクト・UI)			
	企画の提案力・修正力がある。	締切に対するスケジュール管理の中の個人制作とチーム制作の経験。			
		作品発表会でのプレゼン経験。(対教員、学生、企業)			
		論理的な話し合いの組み立て、効果的なプレゼンテーション手法の習得と実践経験。			

ガイドライン (ゲーム・CG分野 - ゲームクリエイター職種)

分野	職種	レベル	人材特性	項目	指針
ゲーム・CG	ゲームクリエイター	4	専門実践技能	ゲーム物理 (リアル表現) に関する技能を持っている。	・質点の運動の理解 (ニュートンの運動の法則) ・重力・万有引力・弾性力・摩擦係数・抗力の表現 ・質点の衝突の理解 (力積と運動量) ・剛体回転運動の理解
			人財特性	描画エンジン制作に関する技能を持っている。	ゲームで使われる様々なAI技術のうち、意思決定システムや経路探索など、基本的な技術から高度で汎用性の高い技術についてまで実際にサンプル課題を作成。
			人財特性	ゲームAI技術とアルゴリズムに関する技能を持っている。	3Dアニメーション処理を数学的に理解し、自作描画ライブラリを実装。
			人財特性	サウンドエフェクト、3Dサウンドに関する技能を持っている。	音声データの仕組みの理解と再生録音プログラミング、音声データ加工のプログラミング技術の習得。
			人財特性	モバイルゲーム開発技術を持っている。	iOS/Android/Unity/C++でゲームのMetalを利用して作成、Android/Javaによるゲーム開発。
			人財特性	オンラインゲーム制作技術を持っている。	ブラウザベースのソーシャルゲームを制作するための技術を習得。ソーシャルゲームで使用されるサーバーサイド開発・運用技術も習得。
			人財特性	質感表現能力 (シェーダー、テクスチャ・ライティング) を持っている。	質感を表現できるスキルと描き分けのスキルの習得。
			人財特性	3Dリアルタイムレンダリング技術を持っている。	リアルタイムレンダリングの仕組み、形状に重点を置いた質感表現力の向上と能力。
			人財特性	企画会議をシミュレーションできる。	企画会議を通じて他者の視点や意見を吸収し、その時に必要な情報の取捨選択力を養うとともにアイデアを広角的に育てる能力。
			人財特性	ゲームエンジン/レイアウトの技能がある。	ゲームエンジン (Unity) を使用し、Editorの操作、スクリプト、効率の良いゲーム開発方法を習得。
			人財特性	ドキュメントレイアウトの技能がある。	レイアウトや文字組み、目録を意図したドキュメント構築を学ぶことで、企画書だけでなくゲームUIにも役立て、illustrator技術を習得。
			対人技能	論理的伝達技法を身につけている。	企画書、ゲーム内説明、チュートリアルなど、具体的なノイズの少ない伝達技法を習得。
			対人技能	作品プレゼンからの改善ができる。	自分の作品に対する評価を見直し、改善し続ける力を習得。
			対人技能	ディスカッション技法を身につけている。	チームで自由に発言し、意見や情報を出し合い協力しあいが良い結論へと導いていく力。
			対人技能	チームメンバーの意見・考えを尊重できる。	ディスカッションでの「同感力」や「アサーション力」
分析技能	使用している技術を正しく理解し説明ができる能力を持っている。	複数回、複数チーム制作の経験。			
管理・指導技能	チーム制作メンバーの役割を理解した行動ができる。	チーム制作の経験とディレクションの経験。			
管理・指導技能	チーム制作でのコミュニケーション、問題解決技能を持っている。	チーム制作の中で、コミュニケーションツールの使用経験があり、使用方法やメリットを理解している。			
自律性と責任感	コミュニケーションツールを活用できる。	指示された業務内容、技術内容を理解し、進捗管理とディレクションの経験があることによる知見。			
倫理観とプロ意識	指定された技術を使用し、業務を遂行することに対する責任感を持っている。	コンピュータ技術者に必要とされるハードウェア・ソフトウェアの基本的な知識を理解し、アルゴリズムから実際のプログラムを作成することができる。			
知識と理解	情報処理の基礎を理解している。	ゲーム制作に必要な基礎知識を理解し、制作の流れについて説明できる。			
知識と理解	「ゲーム制作論」を理解している。	ゲームプログラミングに必要なデータ表現、ビット演算、ハードウェアのしくみ (CPU、GPU、メモリなど)、アルゴリズム、ゲーム開発の基礎知識 (ネットワーク、法制度など) を理解している。			
知識と理解	「プログラミング概論」を理解している。	2D・3Dモデルの表示方法を理解している。			
知識と理解	「2D・3Dの描画理論」を理解している。	Unity Editorの操作、スクリプト、効率の良いゲーム開発方法を取得すること。			
知識と理解	「ゲームエンジンの制作手法」を理解している。	「見たい」に必要な色彩や質感の知識があり、それを取り入れた作品制作ができる。			
知識と理解	「色彩・質感の知識」を理解している。	スタジオの管理ができ、チーム内でコミュニケーションを取り、円滑に進められるようになる。			
知識と理解	「チーム制作の進め方」を理解している。	ゲーム会社の職種やその役割、ゲーム制作フローを理解している。			
知識と理解	「ゲーム業界知識」を理解している。	Word、Excelの基本的機能を使用できる。			
汎用的な技能	基本的なビジネス文書作成能力がある。	アイデアを「企画書 (書類)」としてアウトプットできる。			
汎用的な技能	基本的な企画発想力・構成力がある。				

ガイドライン (ゲーム・CG分野 - ゲームクリエイター職種)

分野	職種	レベル	人材特性	項目	指針
			専門実践技能	「C言語プログラミング」の基本的な技能を持っている。 「C++と七オブジェクト指向プログラミング」の基本的な技能を持っている。 「2D・3Dゲームプログラミングと描画理論」の基本的な技能を持っている。 「シュータープログラミング技術」の基本的な技能を持っている。 「ゲーム数学」の基本的な技能を持っている。 「レベルデザイン」の基本的な技能を持っている。 「ゲーム仕様書作成」の基本的な技能を持っている。 「チュートリアル制作」の基本的な技能を持っている。 「2D・3Dデザインツールの操作」の基本的な技能を持っている。 「基礎画力・観察力・構成力・描写力」の基本的な技能を持っている。 「UI/UXデザイン」の基本的な技能を持っている。 自分のアイデアをプレゼンする能力を持っている。 自分の作品をプレゼンする能力を持っている。	<p>C言語で作成されたプログラムが読めるようになること、エラーが発生したとき、自ら解決できるようになること、C言語の標準的な機能を使ったプログラミングができるようになること。(特に関数・ポインタ・構造体)</p> <p>①C++の基本的な仕様を理解し、クラスや継承を使ったプログラムを作成できるようになること。 ②ポリーフライズムや委譲といったテクニックを使って、ゲームプログラムを作成できるようになること。</p> <p>2Dではデクスタ、3Dでは3Dモデルのキャラクターや背景、UI等のオブジェクトをゲーム画面上に描画することができる。</p> <p>プログラマリアルジェネラータを中心としたCG処理を理解している。 三角関数・ベクトル演算・行列変換・クォータニオン・幾何学上の理解。 実装まで完了しているサンプルゲームにレベルデザインを施すことができる。 ゲームを構成する素材・レベルデザイン・スケジュールの見直しなどに対する意識を持ち、チーム運営に活用することができる。 様々なゲームのチュートリアルを知っていて、自作ゲームのチュートリアル制作経験がある。 2D制作ツール (Photoshop等)、3D制作ツール (Maya等) の基本的な操作ができる。 幾何形体のデッサンモチーフがポートフォリオに入られる品質で描くことができる。 アイコンの作り方や構成を学習し、オリジナルのゲーム画面を作成できる。 アイデアを「企画書」としてアウトプットできる。 自分の作品(ゲーム・企画書・ポートフォリオ等)をわかりやすくアウトプットできる。 マインドマップ表を作成したり、要素の分類を行ったりする分析方法を知っている。 複数回のチーム制作経験がある。</p>
			分析技能	教えられた知識を正しく分析できる能力を持っている。	チーム制作経験があり、作品を完成させた経験がある。また振り返りも実施して役割を理解している。
			管理・指導技能	チーム制作での役割を理解し、実践できる。	業務指示された内容を理解し、業務の進捗管理ができる。
			自律性と責任感	指示された範囲の業務に対する責任を自覚できる。 業務の遅れに関する報告責任を自覚できる。	業務の進捗管理ができ、報・連・相の重要性を理解している。
			倫理観とプロ意識	指示された技術の習得の興味を正しく理解する心がある。	

### 3-3 動物分野－認定動物看護師職種

(学修成果指標)

レベル	学習者プロフィール	知識と理解	技能				責任と自律性	
			汎用的な技能	職務上の技能	分析技能	管理・指導技能	自律性と責任感	倫理観とプロ意識
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>博士(生物学)</li> <li>動物看護師長</li> <li>チームマネジメントと一定水準以上のマネジメント能力開発</li> <li>専門学校(2)卒業15～20年経歴</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職能団体・学術団体等の活動に与える協力、社会的貢献</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>獣医学動向、社会ニーズを踏まえた院内、組織運営</li> <li>専門実践技能の能力開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各研修会等における座長</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門領域の発表、指導力の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>業界の目標達成に向けた主体的行動</li> <li>業界におけるリーダーシップ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関連業界のビジョン確立</li> </ul>	
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護師主任クラス</li> <li>自立して臨床実践ができる</li> <li>チーム職歴における中核人材</li> <li>専門学校(2)卒業10～15年経歴</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>獣医療最新動向</li> <li>感染予防管理</li> <li>防災管理</li> <li>他職能団体・学術団体の活動に対する理解</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護の実践モデル</li> <li>獣医師との連携による動物看護の向上、専門性向上活動</li> <li>地域関係者、学際関係者との積極的交流</li> <li>組織的な研究活動の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象者およびその家族との信頼関係の構築</li> <li>院内スタッフのコミュニケーション能力育成の醸成</li> <li>地域関係者、学際関係者との積極的交流</li> <li>組織的な研究活動の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>短期、中長期計画の理解</li> <li>院内チームの教育企画運営</li> <li>院外組織の業務改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>OJTを通じた臨床実習指導</li> <li>学習・研究成果の伝達と活用</li> <li>スタッフの研究能力向上支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>院内、チームでのビジョン</li> <li>倫理的および獣医療安全上の課題の対応</li> <li>トラブルに関する道徳的、倫理的見解をもった対応</li> <li>倫理的完成(後輩の模範)</li> </ul>	
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門学校卒業</li> <li>認定動物看護師資格取得レベル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象動物のQOL</li> <li>重症化回避の方法</li> <li>回復支援の引継ぎ方法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>QOL向上を目指した動物看護</li> <li>安全な動物看護</li> <li>動物看護の実践介入・評価</li> <li>急患対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アセスメントや看護計画立案の実施と指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>後輩や実習生に対する支援</li> <li>院内学習計画の立案</li> <li>院内資源(人・物・情報)の有効活用を目指した調整</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護職の倫理観</li> <li>チームの配属</li> <li>倫理的完成を高める中で、対象者への共感的理解と対応</li> </ul>		
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門学校卒業</li> <li>認定動物看護師資格取得レベル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>疾患種類、対象動物の性質</li> <li>飼い主の権利</li> <li>獣医師の診断結果と看護における理解</li> <li>院外連携</li> <li>臨床における疑問・不確実な知識・技術の追求と研鑽</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>臨床現場において研究の視点を持つために必要な技能</li> <li>研究のプロセスを進めるための技能</li> <li>学会等で研究発表を行うための技能</li> <li>職能団体の社会的意義を理解した活動技能</li> <li>院内における諸課題の把握・解決・共有技能</li> <li>種々の報告書作成技能</li> <li>社会との連携や職能団体の活動に参加するための技能</li> <li>社会人としての基礎力技能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インフォームドコンセント</li> <li>自分の考えを他者に伝える技能</li> <li>対象者や他人の意見、考えの尊重</li> <li>報告・連絡・相談の技能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の臨床事例の振り返り、課題の明確化</li> <li>実証例の動物看護過程の展開と活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護職の倫理観</li> <li>個人の尊厳やプライバシーへの配慮</li> <li>動物福祉への配慮</li> <li>動物看護倫理</li> </ul>		
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>愛玩動物飼養管理士2級1級</li> <li>動物看護師に与える基本的な知識を有している</li> <li>基礎動物看護学を修得している</li> <li>専門学校(2)修学在学</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ITという言葉の認知</li> <li>飼い主の基礎知識</li> <li>基本的な情報収集・分析技能</li> <li>基本的な情報発信技能</li> <li>語学力(英語など)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物形態機能学実習技能</li> <li>顕微鏡操作技能</li> <li>動物臨床検査実習技能</li> <li>動物内科看護実習技能</li> <li>動物外科看護実習技能</li> <li>動物臨床看護に必要となる基本的知識に基づいた技能</li> <li>機器障害を持つ動物に対する看護技能、評価・介入方法の技能</li> <li>術前・術後管理技能</li> <li>カラーリング技能</li> <li>トレーニング技能</li> <li>バイオフィット</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グリーフケア技能</li> <li>社会人としての基礎的コミュニケーション技能</li> <li>接遇とコミュニケーション</li> <li>院内基本コミュニケーション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>QOLの理解に基づいた分析技能</li> <li>職業技能</li> <li>情報処理技能</li> <li>動物看護過程の展開技能</li> <li>動物看護記録技能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実践型動物看護総合実習における自律性と責任感</li> <li>ボランティア活動体験</li> <li>社会人としての職業の認識</li> <li>成人としての職業方法に関する基本的認識</li> <li>地球は一つ・ワンヘルスに關する福徳宣言に対する認識</li> <li>チーム職歴に対する認識</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物看護職の倫理観</li> <li>動物福祉への配慮</li> <li>動物看護倫理</li> <li>動物看護職の倫理観</li> <li>ボランティアに対する認識</li> <li>動物看護職の倫理観</li> <li>動物福祉への配慮</li> <li>動物看護倫理</li> </ul>	

ガイドライン（動物分野 - 認定動物看護師職種）

分野	職種	レベル	人材特性	項目	指針
動物	動物看護師	8	知識と理解	職能団体・学術団体等の活動に対する協力、社会的貢献	日本動物看護師協会、日本動物看護学会等の活動において、動物看護実務または動物看護学的な立場から協力できるための最先端の知識を持ち、包括的、体系的、統合的で新しく複雑な抽象的アイデアを提示できる。
			汎用的な技能	経営マネジメントの技能	動物病院の経営・運営について、中心的な存在として関与できる。
			専門実践技能	獣医療動向、社会ニーズを踏まえた院内・組織運営	動物看護実務または動物看護分野の概念や課題を分析・評価し、総合的に対応することが可能で、その対応の積み重ねによって新しい知見や理論、解決策、実践方法を生み出すことができる。
			対人技能	各研修会等における座長	獣医療動向、動物看護に対する社会的なニーズをとらえた動物病院経営・運営ができる。
			分析技能	短期・中長期計画立案・運営	動物看護実務または動物看護学における様々な領域において、実務的または学問的に高度なレベルで実務や研究等の方法を設計／実施／改良することができる。
			管理・指導技能	専門領域の実践・指導力の向上	職能団体や学術団体が実施するシンポジウム等の場面において、座長として包括的・総合的な成果を産み出すことができる。
			自律性と責任感	業界の目標達成のに向けた主体的行動	分析技能を発揮して、動物病院の経営・運営や動物看護職の育成、その他の課題を解決・改善するための短期計画や中長期計画を立案し、その運営ができる。
			倫理観とプロ意識	業界におけるリーダーシップ	動物看護職要員の実践能力の向上を図ることができ、また、その指導力の向上を図ることができる。
動物	動物看護師	7	知識と理解	獣医療最新動向	獣医療の発展、動物看護職の技能の向上など、獣医療業界の発展や課題解決に向けて主体的に行動できる。
				感染予防管理	獣医療業界において、動物看護職のリーダーとしてのリーダーシップを発揮できる。
				防災管理	獣医療業界およびその関連業界全体の視点から、実現可能で発展的な業界の将来ビジョンを描くことができる。
				他職能団体・学術団体の活動に対する理解	獣医療の最新動向に基づいた知識を持ち、また、その知識の適用領域に関する理解力を持っている。
					獣医療に携わる獣医師、動物看護職等、および、飼い主を、各種感染症から予防するために必要な知識を持っている。
					動物病院等を、地震、豪雨等の天災から守り、その機能を維持するために必要な防災管理の知識を持っている。
					日本動物看護師協会、日本動物看護学会等の活動に関する知識を持ち、その存在意義について理解している。

ガイドライン（動物分野 - 認定動物看護師職種）

分野	職種	レベル	人材特性	項目	指針
			汎用的な技能	獣医療安全管理技能	獣医療における様々な事故とその発生原因、対策等に関する十分な知識を持つとともに、その知識を実際に活かす技能をもっている。
				院内外での研修会における講師や助手をつとめる技能	職能団体や学術団体が実施する研修、あるいは、院内における研修等において、講師またはその助手を務めることができる。
				学会等における研究成果発表（効果的プレゼンテーション）の技能	学会等における研究成果発表等の局面において、効果的なプレゼンテーションを行うことができる。
			専門実践技能	動物看護の実践モデル	動物看護職の各種業務をモデル化できる（一般的なパターンと応用パターンを理解し実践できる）。
				獣医師との連携による動物看護の質向上、専門性向上活動	獣医師と効果的に連携することが可能で、そのことによる動物看護の質の向上や専門性の向上を図ることができる。
			対人技能	対象者およびその家族との信頼関係の構築	動物看護職として、対象者やその家族から全面的に信頼されるために必要な説明や表現ができる。
				院内スタッフのコミュニケーション能力育成の醸成	
				地域関係者、学界関係者との積極的交流	
				組織的な研究活動の推進	
			分析技能	短期・中長期計画の理解	
				院内チームの教育企画運営	
				院外組織の業務改善	
			管理・指導技能	OJTを通じた臨床実習指導	
				学習・研究成果の伝達と活用	
				スタッフの研究能力向上支援	
			自律性と責任感	社会情勢の変化に対する関心	
				所属組織の目標達成に向けた主体的行動	
				院内・チームでのリーダーシップ	
				自己のキャリアプランの認識	
			倫理観とプロ意識	院内・チームのビジョン	
				倫理的および獣医療安全上の諸問題の対応	
				トラブルに関する道徳的、倫理的見解をもった対応	
				倫理的完成（後輩の模範）	

ガイドライン（動物分野） 認定動物看護師職種

分野	職種	レベル	人材特性	項目	指針
動物	動物看護師	6	知識と理解	対象動物のQOL 重篤化回避の方法 回復支援のりハ看護方法	動物種による生態系を考慮した飼育環境整備ができ、動物が不快感を感じることなく生活できるよう配慮する。 対応事例ごとの動物看護過程の展開を重要視し看護診断を適切に実施、潜在している問題を早期に抽出して対応する。もしも看護診断の時点で問題点が発見できないと、次なる問題の発生や重篤化につながる。 獣医師の診断に基づき個体の観察をし、問題が機能不全によって生じているとした場合には、機能不全を生じさせている箇所の機能の回復を目標とした理学療法メニューを検討する。りハビリテーション技術は、獣医師による診断と計画に基づき実践され、飼い主の高すぎる目標など無理な結果を設定しないこと、実施、評価を繰り返す。
			汎用的な技能	臨床現場において研究的視点を持つために必要な技能 研究のプロセスを進めるための技能	担当した事例が過去に同じものがあつたか、その結果はどうなつたか、どんな看護技術を駆使し、結果はどうだったか、広く知らせたいほうが良い方法が見つかったか、希少な事例を知らせるか、なと動物看護師として実践体験できることから意識を持つ。また、困難や危険な看護事例について工夫して効果があつた事例などを集積しておく。「動物看護師の倫理綱領」11.3条を理解して事例を担当した際、動物看護過程の展開を主体とした記録を残すこと。個体の観察、疑問点リサーチ、先人の研究の有無を調べる、経過に沿つた内容の精査、疑問点の抽出と調査、文献整理。
				学会等で研究発表を行うための技能	事例の報告は、多数の同事例を比較検討する場合、希少事例を一例報告する場合、新しい看護方法を知らせる場合などを口頭発表する。また、ポスターとして掲示し解説する方法がある。
				職能団体の社会的意義を理解した活動技能	2009年動物看護師の全国団体である一般社団法人日本動物看護職協会が発足した。動物看護職を支援すると共に動物看護職に係る制度や就業環境整備を図ることを目的として活動を実施している。
				院内における諸課題の把握・解決・共有技能	院内獣医療・動物看護の質をより高めていくために、課題点・不足点などを的確に把握し、それを解決するための学びや訓練が必要であることを理解し、チームに理解醸造していくことは動物病院経営にとって、重要である。
				種々の報告書作成技能	動物看護師は看護記録を残し、必要に応じて求められた報告書を作成することがある。また、外部で参加した学会や講演会等で知り得た内容を上司、スタッフに報告する必要な生じることがある。
				社会との連携や職能団体の活動に参加するための技能	
				社会人としての基礎力技能	

ガイドライン（動物分野） - 認定動物看護師職種

分野	職種	レベル	人材特性	項目	指針
			専門実践技能	QOL向上を目指した動物看護	動物への看護とは、最善の生活の質（QOL）が保てるよう、動物種に合った生態系の中で日常生活が不快感なく自律してできるように援助（ケア）すること。言葉を話さない動物が何を求めているのかを観察判断し、個々の状況に見合った、必要とされている技術を提供できる。擬人化した環境を与え、QOLの向上ではないことを認識できている。「動物看護師の倫理綱領」6条を理解している。
				安全な動物看護	動物への看護はアセスメントによる情報収集と整理により潜在している問題点を抽出し、それを解決する方法を立案することから始まる。安全な看護とは個々の動物の状況を判断し充分修得した技術を駆使することで成り立ち、もしその場で実施されなかった場合には次にどのような危険が生じるのかを予測できる必要がある。
				動物看護の実践介入・評価	動物が自分でできることへの手助けや介入は動物の自立を助けることにはならない。各自の実践した内容の振り返りをし不適切な結果が見えた時にはアセスメントからやり直す。
				急変時対応	入院、手術期、輸液や輸血など予期せぬ時の急変に備えて器材、薬剤の準備、各自の行動確認ができ、それに見合った行動がとれるよう訓練がされている。
			対人技能	退院支援・退院後支援に関する飼主への指導・助言	獣医師の診断により退院や自宅療養が必要になった時、個々の動物への配慮や必要なケアなどが飼主の十分な理解と協力の元で実施できるよう伝えることができる。もし動物に不利な状況や福祉に反するような行為が予測できる場合には他の方法が提示できる。
				院内における人間関係の認識	働く環境の中における上司、同僚、後輩へ適切な区別をした対応ができチーム獣医師としてスタッフ間が潤滑に行動できるよう意識している。「動物看護師の倫理綱領」9、13条を理解している。
				多職種との協業・連携や異業種の方とのコミュニケーション	臨床の場では、チーム獣医師として互いの職務内容を理解し協働できる。外の環境では、One Healthy One Worldの意識を持って公衆衛生の向上に努めるためコメディカルとの連携を持つ。「動物看護師の倫理綱領」13条、14を理解している。
			分析技能	アセスメントや看護計画立案の実施と指導	看護を必要としている個々の動物に対して体系的な情報収集を行い、それを整理分類判断することで動物の現状把握ができ、背後にある潜在的な問題点が把握できる。この問題点を解決するための計画案を作ることができる。
			管理・指導技能	後輩や実習生に対する支援	教育システムの一端としての総合実習やインターンで臨床の場に参加する学生や、それを体験して入社した後輩には現状修得している知識や経験を理解した上で支援ができる。
				院内学習計画の立案	継続学習として院内学習の必要性を理解し積極的に取り組む。学習課題を理解し、業務との関係や意義を見出し、より有用な学習となるよう努めている。「動物看護師の倫理綱領」8、11条を理解している。
				院内資源（人・物・予算・情報）の有効活用を目指した調整	院内の通常シフトのスムーズな展開だけでなく、突発的な事態に遭遇時人の配置管理し、常に新しい情報の収集に努め時に応じた採配ができる。

ガイドライン（動物分野）－ 認定動物看護師職種

分野	職種	レベル	人材特性	項目	指針
			自律性と責任感	動物看護師間のリーダーシップ	勤務年数が多く、知識だけでなく臨床の場で必要な技術を経験して修得している者がリーダーとなって動物看護師だけでなく他業種スタッフとも連携をもって業務が遂行でき、問題解決の手段も理解している。
				社会人また獣医療人としての自覚 組織の一員としての責任感 ジョブアンカー	
			倫理観とプロ意識	「動物看護師職の倫理綱領」への配慮	倫理綱領とは、動物看護師としての自らの行動を律するためのもので、倫理とは道徳の規範となるものであり綱領はその要点を示す。この存在を知り、理解し、行動判断に迷うことがあった場合には自らの規範とする。
				倫理的完成を高める中で、対象者への共感的理解と対応	倫理的配慮をしながら、動物が何を求めているかを常に考え、飼養者との関わり、援助に努めている。
				疾患種類、対象動物の性質	動物看護を実践するためには獣医学的知識を持ち、診断された疾患の内容を理解した上で看護実践をする。看護は個々の動物の状況に合わせた対応が必要であり、その状況は飼育環境、飼い主の接し方、種類、多様性のある動物の性質によって変化することを理解する。
				飼い主の権利	動物は飼い主に所有権があるので飼い主の決定を尊重する。しかしその決定が動物にとって不利益となることがわかった場合には介入し、動物を守る立場となることがある。「動物看護師の倫理綱領」6条を理解している。
動物	動物看護師	5	知識と理解	獣医師の診断結果と看護における問題点に対する理解  院外連携  臨床における疑問・不確実な知識・技術の追求と研鑽	動物看護師としてチーム獣医療の一環となった時、獣医学的知識を持つことによりその診断や治療内容が、その動物にとって適切なものであるか判断ができ、動物を観察することによって問題点を抽出できその解決法を理解し実践することができる。  種々の診療施設の設備や得意とする診療科、対応種などによって連携をとり動物に最適な治療ができるよう情報をもち、信頼関係を持つことが求められる。 獣医師による診断や治療内容、予後について疑問がある時には適切な質問ができるよう獣医師や他スタッフとの信頼関係を構築されている。また、疑問を持ったままや、自身の不確実な知識や技術に不安があるときには適切な指導を求める勇気と責任を持つ。決して不確実な知識や技術のまま動物に接してはならないことを自覚する。

ガイドライン（動物分野） 認定動物看護師職種

分野	職種	レベル	人材特性	項目	指針
			汎用的な技能	成果のとりまとめ技能 研究の基礎知識を蓄積する技能	実践した動物看護の内容を記録に残すことで後輩へと引き継ぐことができ、公表することによって評価を得、動物看護研究へと発展できる。「動物看護師の倫理綱領」11条を理解している。日々実践している動物看護の内容を記録し、わからないことは必ず調べて理解し、先人が同じ事例に対応したことがあるのか調べておく。事例の動物の基本情報、検査内容結果、通常治療内容、方法、症状などカルテ上から収集できる客観的情報を記録しておくこと。
				文献活動、研究発表のための技能	動物看護師は、高度化する獣医療に対応できる知識を自ら吸収し、専門職に必要な情報を収集する活動が必要。また、知り得た情報知識、体験した事例などを論文や報告として発信し、研究した看護技術や事例を広く発表す姿勢を持つ。「動物看護師の倫理綱領」8、10、11条を理解している。
			専門実践技能	動物看護に関する基本的な活動の記録 基準・手順に沿った安全な動物看護 安全管理・感染予防・防災対策	動物看護師は看護記録を残し、必要に応じて報告書を作成する。 動物看護は、アセスメントをすることで情報収集と整理をして実態を正しく伝え、問題点を抽出してそれを解決する計画立案をして実践することで手順にそった安全な看護が実践できる。実践したことを振り返り、評価することで更なる安全につながる。 特に感染のおそれがある疾患をもった動物に触れたり入院管理の場合には、どの動物および他動物に不利益が生じないよう特別な予防策が必要となり、それに対応できる。また、災害発生時には院内の規則に則り迅速で人命第一の対応がとれるよう訓練ができています。
			対人技能	インフォームドコンセント 自分の考えを他者に伝える技能 対象者や他人の意見・考えの尊重	病気や治療について飼い主が説明をもとめ、その求めに応じて獣医師が説明し、その説明に基づき飼い主が治療法の可否や方向性を選択することを理解し、飼い主の決定を尊重するが動物にとって不利益にならないよう監視ができる。 臨床の場において、動物看護師は獣医師によって決定された治療方針、予後が動物にとって不利益がなく適切なものであるかを評価し、他者につたえられなければならない。 飼い主が獣医師からの意見、インフォームドコンセントについて理解できているかを確認し、飼い主側になって、飼い主の知る権利や決定する権利を尊重する必要がある。「動物看護師の倫理綱領」4条を理解している。
				報告・連絡・相談の技能	報告とは指示や命令に対して経過や結果を知らせること。目的を明確に伝える。連絡は情報を関係者に共有し統一された協働ができるようにする。相談はアドバイスが欲しい時に、自分の持っている情報を整理して回答を得やすい状態で上司、先輩に対して行う。
			分析技能	日々の臨床事例の振り返り、課題の明確化	日々の担当した動物看護事例について動物看護過程を展開し、その振り返りと評価をすることで動物に対する最適な実施であったか、そうでない場合には評価をして課題を抽出する。
				実症例の動物看護過程の展開と活用	授業では体験出来なかった実症例について、個々の動物の看護過程の展開を実施する。

ガイドライン（動物分野 - 認定動物看護師職種）

分野	職種	レベル	人材特性 管理・指導技能	項目 組織の理念・方針をよく理解した管理・指導	指針 各自が所属する組織、企業、動物病院などの経営・臨床理念を理解し実行できるよ意識している。
				組織メンバーの役割を理解した行動	教育システムの一部としての総合実習やインターンで臨床の場に参加する実習生には現状修得している知識や経験を理解した上で支援指導できる。また、指導できるよ自身の知識技術の振り返りと確認ができる良い機会としてとらえられる。
				臨床実習の指導 ブレゼンテーション応用技能	論文発表やブレゼンを公開することにより、互いに情報を共有し工夫し合うことで技術が向上し、動物看護研究へと発展することに対する理解がある。
			自律性と責任感	ボランティア活動の指導	自身が持っている動物看護力を有事の際に活かせることは大変意義あることである。積極的な参加活動時に、リーダーの指示に従った後輩への伝達や指導的行動ができる。
			倫理観とプロ意識	実務型動物看護総合実習における自律性と責任感 「動物看護職の倫理綱領」の遵守	動物病院で実際の動物看護業務を体験し、身に付けた知識や技術を総合的に実践する。
				個人の尊厳やプライバシーへの配慮	動物福祉に関する法律を遵守するだけでなく動物看護師の倫理綱領条文、「5つの自由」などに著されていることを念頭において行動する。
				動物福祉への配慮	守秘義務の伴う職であることを理解し、業務上知り得た情報を外部に漏らさないこと。特に動物病院では飼い主の個人情報だけでなくカルテ上にある全ての漏洩をしてはならないと共に飼い主や家族、飼育環境などの必要以上の詮索をしないこと。また、飼い主の知る権利や決定権を尊重する。「動物看護師の倫理綱領」4-5条を理解している。
				守秘義務への理解	動物福祉に関する法律を遵守するだけでなく動物看護師の倫理綱領条文、「5つの自由」などに著されていることを念頭において行動する。「動物看護師の倫理綱領」前文及び1条を理解している。
				動物看護倫理	守秘義務の伴う職であることを理解し、業務上知り得た情報を外部に漏らさないこと。特に動物病院では飼い主の個人情報だけでなくカルテ上にある全ての情報を漏洩をしてはならないと共に飼い主や家族、飼育環境などの必要以上の詮索をしないこと。また、飼い主の知る権利や決定権を尊重する。 動物福祉に関する法律を遵守するだけでなく動物看護師の倫理綱領条文、「5つの自由」などに著されていることを念頭において行動する。

ガイドライン（動物分野 - 認定動物看護師職種）

分野	職種	レベル	人材特性	項目	指針
動物	動物看護師	4	知識と理解	動物形態機能学 動物医療関連法規 公衆衛生 動物疫理 動物臨床検査 動物臨床栄養 伴侶動物 動物看護学概論 動物感染症 動物薬理 動物飼育（動物内科看護） 動物外科 動物繁殖 動物福祉 動物行動 人間動物関係 産業動物・実験動物・野生動物	動物の体を細胞、組織、臓器の各階層で理解し解剖学、生理学、生化学の面から動物の生命維持の仕組みを理解する。 動物や獣医師に関連する様々な法規について学び、社会における動物看護の役割を理解する。 人と動物が共生する環境、食の安全と衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康維持・増進や疾病予防について理解する。 様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する。 様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方、所見の記録方法を理解する。 5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶと共にライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や食事方法を理解する。 伴侶動物とは終生飼養される動物。伴侶動物の歴史や品種、飼育管理法、およびエキゾチック動物の生態について理解する。 獣医師の歴史や動物看護師の職業倫理について理解し、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する。 感染症の原因となる微生物や寄生虫について理解し病気の伝播様式や発病のメカニズムについて知る。衛生的管理、予防・治療法、免疫学の基礎など感染症対策の基礎を理解する。 代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用および副作用について理解し、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられているかを理解する。 犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を理解し、身体検査や採血、投薬、輸液、輸血などについて理解する。 外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を理解する。 繁殖とは動物が生まれてふえることであり、雄と雌の繁殖に関わる器官の違いや性周期、交配方法、遺伝様式について理解する。 国の文化や宗教、国民性の違いによる相違を理解しながら動物愛護や動物福祉（アニマルウェルフェア）、およびその基礎となる生命倫理の考え方について学ぶ。 犬や猫の種としての行動様式の特徴を理解し、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。 動物が人間社会で果たしている役割や背景・歴史について理解し、人と動物の関係を心理学的および社会学的側面から理解する。 人の食の安全に係る産業動物や医学等の研究に役立ってもらうために育てる実験動物、動物園・水族館で飼育されている野生動物たちが健康で福祉に則った管理方法で飼養される方法を理解する。受診依頼があった時には各動物に精通している獣医師に依頼できる。

ガイドライン（動物分野） 認定動物看護師職種

分野	職種	レベル	人材特性	項目	指針
				ターミナルケア	終末医療や緩和ケアと認識されることもある。病を持つ動物の延命を願うだけではなく、飼い主の快適さと尊厳を守ることによって適切な疼痛管理と対症療法、精神的支援、社会的支援を行うということを理解できる。
				安楽死	高度医療による延命や動物と飼い主にとって過酷な現状、改善の見込みがない場合などは安楽死も治療の一端であることを充分理解し、飼い主からの質問に答えたり説明できる。またその行為が動物の福祉に反することなく、決定した飼い主の落ち度ではないことを理解したり伝えられることができる。
			汎用的な技能	ITという言葉の認知	ITとは「情報技術」のことで、コンピューターやデータ通信に関する技術の総称。コンピューターやインターネットを中心とするネットワークを活用し、業務や生活に役立てるための技術を指すことを知っている。また、PC操作や電子カルテ記入などを理解し、活用できる。
				会計学の基礎技能	動物病院の窓口業務として治療費の会計や集計をする時に必要な会計の基礎を知っている。また、キャッシュレスやカード支払いの対応を理解している。
				基本的な情報収集・分析技能	インターネットによる情報収集だけでなく新聞、業会関連誌、学会誌などを読む、関連学会に参加することで広く新しい情報を収集する方法を知っている。氾濫する情報量の中から正確で安全な情報の収集ができる方法を理解している。
				基本的な情報発信技能	動物病院のホームページ作成やインスタグラムなど情報提供やコミュニケーションをとる方法を理解している。
				語学力（英語、中国語など）	飼い主の国籍が多様化しているため他国語での受付や電話対応が可能な程度の語学力がある。
			専門実践技能	動物形態機能学実習技能	動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて理解し顕微鏡操作
				動物臨床検査実習技能	検体検査および生体検査に必要な手技や機器の扱い方など、臨床検査に必要な知識の実践ができる。
				動物内科看護実習技能	口腔管理やグルーミング、保定やバイタルチェック、基本的トレーニング法、飼育環境整備など犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な手技などの実践ができる。
				動物外科看護実習技能	手術準備（動物・手術器具）、術中管理、術後看護、麻酔準備や麻酔監視、救急救命など動物外科学で学んだ知識の実践ができる。
				動物の臨床看護に必要な基本的知識に基づいた技能	教育の場で修得してきた臨床看護に必要な知識を活用し、個別性を重んじ健康維持に必要な技術を修得する。動物看護技術の特殊性は対象が命ある動物であることを理解し実践する。
				機能障害を持つ動物に対する看護技能、評価・介入方法の技能	機能障害をもつ動物が出来るだけ不快感がなく元に近い動きができるようになるために必要なりハビリテーションの知識を理解し、適切な評価と診断の元で介入できることを理解する。

ガイドライン（動物分野 - 認定動物看護師職種）

分野	職種	レベル	人材特性	項目	指針
				術前・後管理技能	動物看護師は周術期全般に関わる業務があり、どのような役割があるかを熟知し行動ができる。獣医師は診断と術者、予後判定が担当業務であることを理解する。
				グルーミング技能	健康な動物を美しくトリミングできるトリマーの担当するグルーミングではなく、機能障害のある動物に負担が無く衛生で清潔にするためのグルーミング技術を持っている。
				トレーニンング技能	犬の基本的な服従訓練法（アイコンタクト、まてなど）を理解し、飼い主に伝えられることにより、犬とのより深い信頼関係を築くことができるようになる。犬（動物）が少しでも不安なく診療を受けられることへの支援ができる。
				バイタルチェック	バイタルサインとは生命徴候を意味し、体温、心拍、呼吸などを適切に測定することにより毎日の健康状態を把握できる。また、通常と異なる時には疾病の早期発見につながることで各個人の健康状態を観察し正確に報告できることが大切である。
			対人技能	グリーフケア技能	グリーフは悲嘆を意味する。かけがえのない大切な存在を喪失した時だけではなくその前に予期した段階から起こる様々な反応の変化をさし、この状態にある飼い主に寄り添うことができる。
				社会人としての基礎的なコミュニケーション技能	動物病院総合実習や研修先では学生としてではなく社会人としてマナーや礼儀作法を認識し、実践することを認識している。
				接遇とホスピタリティの技能	接遇：相手をいたわる心を持ってサービスを提供するためのスキル。 ホスピタリティ：相手が快適と感じられるような対応や環境づくり。相手が喜びを感じていることが主人に伝わることが大切。
				クライアントエージェンション	動物看護師は獣医師が飼い主に説明する病気や治療について適切な知識を持ち、飼い主との対面において情報を提供することができるようにする。飼い主は適切に対応できる動物看護師に信頼を寄せ、安心して動物のケアにあたることができる。
				院内基本コミュニケーション	来院する飼い主や業者、院内のスタッフ全ての人と適切なコミュニケーションをとることができる。良好なコミュニケーションをとるための方法を知っている。
			分析技能	QOLの理解に基づく分析技能	QOL: quality of life、生活の質。動物と飼い主を対象とした生活の質の向上を求め、その初歩的実践ができる。
				観察技能	動物看護技術として一番重要なことは観察。動物に対して動物看護過程の展開するために必要な初動。これに基づいて看護診断、看護計画、実施へと展開される。
				情報の記録技能	動物看護記録：看護で実践した内容を明らかにする。適正な実践であったことを証明するものでもある。
				動物看護過程の展開技能	言葉を持たない動物たちを尊重し看護する動物看護師が動物を観察し、必要とされていることが何かを見極める対応手段・方法論が動物看護過程であることを理解し実践する。
				動物看護記録技能	看護で実践した内容を明らかにし、次に伝える技法。適正な実践であったことを証明するものであり、結果が不適切であった時には振り返りの判断材料となる。チーム獣医師として協働者の理解と飼い主への伝達に必要な記録方法。

ガイドライン（動物分野 - 認定動物看護師職種）

分野	職種	レベル	人材特性 管理・指導技能	項目	指針
			管理・指導技能	プレゼンテーションの初歩的スキル	動物看護総合実習などで体験した事例について検討した内容をわかたことをクラス内や学会の学生向けセッションなどで発表する。
			自律性と責任感	研究発表の基本的スキル	動物看護師の倫理綱領第11条「動物看護師は、看護実践を通して、専門的知識・技術の創造と開発に努め、動物看護学の構築と発展に寄与する」の基本的理解と実践ができる。
			自律性と責任感	体験型動物看護総合実習における自律性と責任感	理解型：動物病院の概要（歴史的背景、地域特性、診療方針、スタッフ構成等）を理解する。体験型：理解した上で、自身がどのように加わるかを考える。
				ボランティア活動体験	良い社会づくりのために社会的認識を深め地域の人々と関わりを持つよう努め、地域の行事への参加、保護犬猫に関する活動、使役犬のケアなど自発的に参加し安全に遂行する。
				社会人としての義務の認識	「社会人とは、社会との関わりの中で一定の責任を持って行動したり、生活したりしている人。社会人は自分で判断して行動し、その結果を自分で決着できることが責任。そのために慎重な行動と他者との関係性が重要。
				成人としての義務の認識	法的な成人とは、単独で法律行為が行えるようになる年齢のこと。義務を果たすことが権利を得ることにつながり、社会保険等の被保険者になる、納税する、投票するなど法的義務の他に勤労の義務など。
				情報収集方法に関する基本的認識	インターネットによる情報収集だけでなく新聞、業会関連誌、学会誌などを読む、関連学会に参加することで広く新しい情報を収集する方法を知っている。
				他者との会話方法に関する基本的認識	電話の適切な受け方かけた、メール、SNSなどを安全に活用する方法、TPOに合った手紙の書き方などを知っている。
				チーム獣医療に対する認識	動物看護師の倫理綱領7条「動物看護師は、自己の意志を持ち、自己の責任と能力を的確に認識しみずからの看護に責任を持つ」。第9条「動物看護師は、他の動物看護師及び動物医療関係者と共同して、良質な動物看護を提供する」の基本を理解する。
			倫理観とプロ意識	「動物看護職の倫理綱領」に対する認識	倫理綱領とは、動物看護師としての自らの行動を律するためのもので、倫理とは道徳の規範となるものであり綱領はその要点を示す。この存在を知り、理解し、行動判断に迷うことがあった場合には自らの規範とする。動物福祉に関する法律を遵守するだけでなく動物看護師の倫理綱領条文、「5つの自由」など、著されていることを念頭に置いて行動する。
				アニマルウェルフェアに対する認識	動物福祉とはアニマルウェルフェアを翻訳したもので、動物の幸福に配慮した良い生活を示すことを理解し、庇護を意味する愛護との違いを理解している。
				獣医療倫理に対する認識	獣医師は獣医師法に基づき行動を基本とし獣医療倫理を規範とするが、チーム獣医療の面輪となる動物看護師もこれを理解している。
				「地球は一つ・ワンヘルス」に関わる「福岡宣言」に対する認識	第2回世界獣医師会―世界獣医師会「OneHealth」に関する国際会議において締結された宣言。医師と獣医師はOneHealthの概念を理解し、健康で安全な社会の構築に協働することなどを誓ったことを知っている。

### 3-4 土木・建築分野－土木施工管理職種

(学修成果指標)

学修成果指標 (土木建築分野) — 土木施工管理職種

学修者プロフィール	知識と理解	技能			責任と自律性		
		汎用的な技能	職務上の技能	管理・指導技能	自律性と責任感	倫理観とプロ意識	
<p>8</p> <p>・専修学校専門課程(2)卒業後15～20年経過(35～40歳)</p> <p>・博士(工学):5年(博士前期/修士課程2年を含む。博士後期課程は3年)</p>	<p>□豊富な実務経験と広い見識</p> <p>□責任ある立場</p> <p>□土木建築分野のみならず、社会に貢献する立場にあり、成果を創出</p> <p>□技術士(総合技術監理部門)</p> <p>□特別上級土木技術者</p>	<p>□幅広い知識と、専門性</p> <p>□情報収集力、コミュニケーション力、実行力、問題解決能力</p> <p>□高度な研究手法・解析手法、技法を独力で用い、新しい問題や課題を解決し、新しい知見・理論を生み出す能力</p>	<p>□高度な専門知識、発揮する能力</p> <p>□複数の分野で高度な専門的研究・設計や実務、改善する能力</p>	<p>□豊富な経験・専門知識の基、技術の最新情報に精通</p> <p>□社会に対し多面的に貢献できる能力</p>	<p>□各工種の専門的技術について高度な指導的能力</p> <p>□部下を育成</p> <p>□専門家が、他の観点から、社会・文化に貢献</p>	<p>□リーダーシップを取る能力</p> <p>□プロ意識及び全面的な責任感</p>	<p>□品位の向上、技術の研究</p> <p>□国際的な視野、公正・誠実な行動規範</p>
<p>7</p> <p>・専修学校専門課程(2)卒業後10～15年経過(30～35歳)</p> <p>・修士(専門職):1～2年</p> <p>・法務博士(専門職):3年</p> <p>・教授修士(専門職):2年</p> <p>・学士(以下分野は6年):医学、法学、薬学(科目別)、獣医学</p>	<p>□建設現場に関わる監理技術者または同、専任技術者を10年以上歴任</p> <p>□学会、協会等に学術論文を発表することや、技術論文を投稿</p> <p>□技術士(各部門)</p> <p>□上級土木技術者</p> <p>□梁検計量士</p> <p>□コンクリート診断士</p>	<p>□観察力、応用力、独創性</p> <p>□主体性・実行力、創造力</p> <p>□有識者としての意見に対し真摯に傾聴し、協働性発揮</p>	<p>□大規模現場の監理技術者歴任</p> <p>□複数現場を統括管理</p> <p>□高度な技術的業務</p> <p>□外国語を使用した仕事や高度な学習能力</p>	<p>□的確な情報収集、分析</p> <p>□断念し、さらなる意思決定する能力</p> <p>□数学的、定量的・定性的な手法を駆使し、分析・評価する技術</p>	<p>□部下を指導、監督する</p> <p>□明確な現場方針を押し、多様な関係者の利害を調整しまとめる能力</p> <p>□チーム、部署内業務などの企画、監督・管理において、責任を持つ立場</p>	<p>□公益を最優先した職業倫理のもと自主性・主体性、さらに責任感を持って行動する能力</p>	<p>□自然を尊重し、安全と福祉、健康に対する責任を最優先</p> <p>□地球環境の保全と関連技術の活用</p> <p>□国際的視野に立った専門的立場で貢献</p>
<p>6</p> <p>・専修学校専門課程(2)卒業後5～10年経過(25～30歳)</p> <p>・学士/学士(専門職):4年</p> <p>・高度専門士:4年</p>	<p>□コンクリート主任技術士</p> <p>□級土木技術者</p> <p>□級土木施工管理技術士</p> <p>□級建築施工管理技術者</p> <p>□級建築施工管理技術士</p> <p>□級電気通信工事施工管理技術士</p>	<p>□計画力</p> <p>□創造力</p> <p>□問題発見能力</p> <p>□ビジネスマナー</p> <p>□読字力</p>	<p>□現場の安全・工程・品質、原価を全て理解し、管理する能力</p> <p>□予算書の作成・管理する能力</p>	<p>□トレードオフ問題に対し、分析し検討をすることができ、合理的な提案ができる能力</p>	<p>□部下を指導する立場</p> <p>□経験豊富で人格があり、部下に模範を示す能力</p> <p>□自主的に仕事をし、各種業務管理におけるリーダーシップとプロ意識</p>	<p>□専門分野のプロとして、しっかりと説明責任を果たすことができる能力</p> <p>□法令・規則、マナーを遵守し、リスク管理能力を発揮</p>	<p>□業務の対象となる地域の法規・条令を遵守し、文化的価値を尊重</p> <p>□多様な環境・業務の中で倫理観を醸成するとともに、専門家としての行動ができる能力</p>
<p>5</p> <p>・専修学校専門課程(2)卒業(20歳)</p> <p>・短期大学士/短期大学士(専門職):2年または3年</p> <p>・准学士:5年 ※船舶に関する学科は5.5年</p> <p>・専門士:2年</p>	<p>□2級土木施工管理技術士(学科試験合格)</p> <p>□2級建築施工管理技術士(学科試験合格)</p> <p>□2級電気通信工事管理技術士(学科試験合格)</p> <p>□2級電気通信工事管理技術士(学科試験合格)</p>	<p>□専門知識、一般常識、社会人としての基礎的能力(語学・聞く・書く)</p> <p>□スキルアップに関わる各種資格取得に向け、前向きに取り組む姿勢</p>	<p>□労働安全衛生法及び同規則に関し、指導・改善することができる能力</p> <p>□施工計画書の立案・指示・作成</p> <p>□建設業法の理解</p>	<p>□出来形管理・工程管理・安全管理をはじめ、一通りの現場管理に関する理解</p> <p>□ITツールやメソディアを使いこなすことができる能力</p>	<p>□部下に指示する立場、及び管理者としての責任</p> <p>□リーダーとして、チーム内の意見をまとめ、的確な判断・指示を下す能力</p>	<p>□自己の専門的能力の向上を図り、学理・工法の研究に励み、技術の発展に貢献</p> <p>□外国の多様な風文化の中においても、仕事や学習を行う能力</p>	<p>□業務上知り得た秘密を正当な理由無く他に漏らしたり、転用したりしない倫理観</p> <p>□地域や社会において、持続可能な社会を創るための貢献</p>

学習者プロフィール	知識と理解	技能				責任と自律性		
		汎用的な技能	専門実践技能	対人技能	分析技能	管理・指導技能	自律性と責任感	倫理観とプロ意識
4 ・専修学校専門課程 (1)卒業、もしくは 在学中(19歳) ・高等学校専攻科:1年以上 ・中等教育学校後期課程専 攻科:1年以上 ・特別支援学校高等専攻 科:1年以上 ・大学別科:1年以上	□ 技術士補 □ 測量士補 □ 専門資格取得に向け 「各種専門科目」を修 学	□ 基礎科学(数学・物 理・化学)の活用 □ 職業理解能力、役割把 握、認識能力、計画実 行能力の発揮	□ CAD等での製図 □ 図面を見て数量を計算 □ 労働安全衛生法及び同 規則の理解	□ 的確な報告・連絡・相 談 □ 単独またはチームメン バーの一員として、管 理者や同僚・部下と効 果的な交流 □ 外国語にての日常の会 話	□ 情報の収集能力があ り、的確な観察力・洞 察力 □ 数値・図表・画像デー タを活用する能力	□ 上司等よりの指示、指 導を受け、広い視点の もと考え方の幅や創造 力を養い、技術者とし ての学識を十分蓄積す る能力 □ 各種チームのまとめ及 び管理を担う能力	□ 指導を受け、責任感と 自主性をもって、仕事 及び専門知識の習得に 専念 □ 地元・地域社会づくり に対し、積極的に参加	□ 常に専門技術の力量並 びに技術と社会が接す る領域の知識を有する □ 倫理的な行動
3 ・高等学校卒業(18歳) ・高等学校:3年(全日制)、3 年以上(定時制・通信制) ・中等教育学校(後期)3年 ・特別支援学校高等部:3年 ・高等専門学校本科:5年(う ち「修了」の対象は本科 1,3年) ・専修学校高等課程:1年 以上	□ 土木技術に対する基礎 的な知見	□ 高等学校学習指導要綱 に基づく十分な学力・ 能力 □ 専門分野の知識修得に 対し意欲旺盛	□ 建築に対する興味 □ 基礎科学(数学・物 理・化学)が得意 □ 教師の監督のもと、適 切な情報や手法を使っ て問題を解決する能力	□ 団体活動、チーム活動 の中において主体的な 役割経験 □ 外国語にての初歩的な 日常の会話	□ 物事の事象に対する論 理的な思考能力 □ ITツールを利用・活 用する能力	□ 豊かな表現力 □ 解決すべき問題を先延 ばししない精神 □ 自主的な学習に対する 成果・成績について真 摯に向き合う姿勢	□ 社会人としての一般知 識、基礎力・マナー	□ 相手の話を良く聞き、 理解し、正確に伝える 能力 □ 素早く記録にとどめる ことができる能力 □ 障害問題について関心 があり、何らかの関り を持った経験

注: 1. 「学習者プロフィール」欄記載修業項目に関しては、標準的な修業年限である。  
 2. 「知識と理解」欄記載の資格に関しては、取得した場合、当該レベルとみなされる目安である。

(ガイドライン)

分野	職種	レベル	人材特性	項目	指針	
土木・建築	土木施工管理職種	8	知識と理解	豊富な実務経験と広汎な見識 責任ある立場 土木建築分野のみならず、社会に貢献する立場にあり、成果を創出	実務経験15年以上あれば、当該レベルとみなされる目安 目標や方針、契約などを決定できる立場であれば、当該レベルとみなされる目安 社会貢献実績	
				技術士(総合技術監理部門) 特別上級土木技術者	取得した場合当該レベルとみなされる目安 取得した場合当該レベルとみなされる目安	
				幅広い知識と、専門性	専門的な知識の幅広さ、奥深さ	
				情報収集力、コミュニケーション力、実行力、問題解決能力	情報収集力、コミュニケーション力、実行力、問題解決能力	
				高度な研究手法・解析手法、技法を独力で用い、新しい問題や課題を解決し、新しい知見・理論を生み出す能力	最先端の知見、技術を入手し、活用し、課題を解決する能力、さらに新しい知見や理論を生み出す能力	
				高度な専門知識、発揮する能力	高度な専門知識の幅広さ、そしてそれを業務などに発揮する能力	
				複数の分野で高度な専門的研究・設計や実施・改善する能力	複数分野での知識を、縦断的・横断的に駆使し、実務で活用できる能力	
				対人技能	知識力、論理力、自己表現力のバランス 内・外関係者に対し信頼関係を築く力 専門的な知見を理路整然と伝える能力	
				分析技能	豊富な経験・専門知識の基、技術の最新情報に精通 社会に対し多面的に貢献できる能力	実務経験や、専門知識に基づく最新の技術情報を公に発信できる能力 社会に対する共有的利益に資する行いができる能力
				管理・指導技能	各工種の専門的技術について高度な指導的能力 部下を育成 専門家レベルの観点から、社会・文化に貢献	専門技術に対する指導ができる能力 部下を育成した実績 専門分野を通して、社会・文化に貢献
				自律性と責任感	リーダーシップを取る能力 プロ意識及び全面的な責任感	管理職であれば、当該レベルとみなされる目安 プロジェクトとしての役割を果たし、その全面的な責任を負う立場であり、遂行する能力
				倫理観とプロ意識	品位の向上、技術の研鑽 国際的な視野、公正・誠実な行動規範	最高位の技術者としてのプライドを持ち、常に技術の研鑽を行っている 国際的な視野をもって、常に公正な行動ができ、且つ誠意を持った対応能力
				知識と理解	建設業法に関わる監理技術者または同、専任技術者を10年以上	監理技術者または専任技術者としての実務を10年以上経験した場合当該レベルとみなされる目安

分野	職種	レベル	人材特性	項目	指針
				学会、協会等に学術論文を発表することや、技術論文を技術士(各部門)上級土木技術者環境計量士コンクリート診断士	学術論文や技術論文を公的に発表若しくは投稿した場合当該レベルとみなされる目安
				洞察力、応用力、獨創性	取得した場合当該レベルとみなされる目安
				主体性・実行力、創造力	取得した場合当該レベルとみなされる目安
				規律良く他の意見に対し真摯に傾聴し、協調性発揮	取得した場合当該レベルとみなされる目安
			専門実践技能	大規模現場の監理技術者歴任	洞察力(本質を見抜く力)、応用力(持っている知識を使い新たな事柄に対応する力)、獨創性(独自の考えで物事を作り出す能力)
				複数現場を統括管理	主体性(自らの判断に基づき責任を持って行動する能力)、実行力(確実に最後までやり遂げる能力)、創造力(自分なりの答えを導き出す能力)
				高度な技術的業務	協調性(利害や立場の異なる者同士、いかに譲り合って協力できる能力)
				外国語を使用しての仕事や高度な学習能力	総請負金(税込み)10億円以上の建設工事における現場監理技術者を経験していれば当該レベルとみなされる目安
			対人技能	折衝能力、交渉能力、説得能力	複数の建設現場を統括的に管理する能力
				内・外関係者に対する信頼度	調査・解析・検討業務や試験・設計など他機関の複数業務をまとめ、プロジェクトとして完遂する能力
				最低一つの外国語を使い、仕事・学習に活用	外国語を使用し、業務や学習に役立たせることが出来る能力
			分析技能	的確な情報収集、分析そして判断、さらに意志決定する能力	折衝・交渉・説得能力(互いの利害が一致しない状態でのコミュニケーションに所属している組織内及び外部組織における信頼度)
				数学的、定量的な手法を駆使し、分析・評価する技術	最低一つの外国語を使い、業務や自らの学習に活用的に的確な情報収集、分析し、だれもが納得するプロセスによる判断・意思決定を導く能力
			管理・指導技能	部下の指導・監督する立場	数個上の解析、要因的な調査などを通じ、数学的、統計的に分析・評価できる能力
				明確な現場方針を持ち、多様な関係者の利害等を調整しまとめる能力	所属している組織において、部下を指導・監督する立場であれば当該レベルとみなされる目安
				チーム、部署内業務などの企画・監督・管理において、責任を持つ立場	現場において、現場方針を遵守し、多様な利害関係を調整し、まとめる能力
			自律性と責任感	公益を最優先した職業倫理のものと自主性・主体性、さらに責任感を持って行動する能力	業務上の企画・監督・管理における責任者としての立場であれば当該レベルとみなされる目安
			倫理観とプロ意識	自然を尊重し、安全と福祉、健康に対する責任を最優先	公益を最優先する姿勢、そして自主性・主体性を持ち、責任感をもって行動できるかの能力
					自然を敬い、安全意識、福祉・健康に対する責任を最優先する行動

分野	職種	レベル	人材特性	項目	指針
土木・建築	土木施工管理職種	6	知識と理解	地球環境の保全と関連技術の活用	地球環境保全に関する意識を高く持ち、関連技術を実践するなどの行動
				国際的視野に立った専門的立場で貢献	国際的視野に立った倫理観に関して、自らの専門分野における立場で実践・貢献
				コンクリート主任技士	取得した場合当該レベルとみなされる目安
				1級土木技術者	取得した場合当該レベルとみなされる目安
				1級土木施工管理技士	取得した場合当該レベルとみなされる目安
				1級舗装施工管理技術者	取得した場合当該レベルとみなされる目安
				1級造園施工管理技士	取得した場合当該レベルとみなされる目安
				1級管工事施工管理技士	取得した場合当該レベルとみなされる目安
				1級建設機械施工技士	取得した場合当該レベルとみなされる目安
				1級電気工事施工管理技士	取得した場合当該レベルとみなされる目安
				汎用的な技能	問題解決に向けたステップを明確にする能力 新しいシステムやツールを作り出す能力 現状を分析して課題を明らかにする能力 ルール遵守・規則遵守・思いやりの心 英語検定2級程度の語学力
				専門実践技能	現場の安全・工程・品質・原価を全て理解し、管理する能力 予算書の作成・管理する能力
				対人技能	マナー、協調性があり顧客はもとより、あらゆる人に対して常に好印象 専門知識のもと、問題点や自らの考えを正確に、理路整然と伝えることができる能力
				分析技能	トレードオフ問題に対し、分析し検討をすることができ、合理的な提案ができる能力
				管理・指導技能	部下を指導する立場 経験豊富で人格があり、部下に模範を示す能力 自主的に仕事をし、各種業務管理におけるリーダーシップとプロ意識
自律性と責任感	専門分野のプロとして、しっかりと説明責任を果たすことができる能力 法令・規則、マナーを遵守し、リスク管理能力を発揮				
				部下を教育し、指導する能力 部下への信頼度 仕事に対し、プロフェッショナルとして、リーダーとして、責任を持って取り組む姿勢 専門事項に関しては常に研究を行い自己啓発を怠らない姿勢と、自己の立場からの説明責任能力 法令遵守、説明責任を理解、実行する能力、リスクを認識してコントロール（保有・低減・回避）する能力	

分野	職種	レベル	人材特性	項目	指針
			倫理観とプロ意識	業務の対象となる地域の法規・条令を遵守し、文化的価値を尊重 多様な環境・実務の中で倫理観を厳守するとともに、専門家としての行動ができる能力	「文化的価値の尊重」を重んじるとともに、関係所轄事務所等をよく調査し地域に貢献する姿勢 トレードオフとなるような事柄に関し、公益優先の立場を遵守できるかどうかの能力
土木・建築	土木施工管理職種	5	知識と理解	2級土木施工管理技士(学科試験合格) 2級造園施工管理技士(学科試験合格) 2級管工事施工管理技士(学科試験合格) 2級電気工事施工管理技士(学科試験合格)	取得した場合当該レベルとみなされる目安 取得した場合当該レベルとみなされる目安 取得した場合当該レベルとみなされる目安 取得した場合当該レベルとみなされる目安
			汎用的な技能	専門知識、一般常識、社会人としての基礎的能力(話す・聞く・書く)	専門知識、一般常識、社会人としての基礎的能力(話す・聞く・書く)
			専門実践技能	スキルアップに関わる各種資格取得し、指導・教育することができる能力	スキルアップに関わる各種資格取得に向け、前向きに取り組む姿勢 労働安全衛生法及び同規則に関する知識、指導・教育できる能力
			対人技能	施工計画書の立案・指示・作成 建設業法の理解 伝える能力・受け取る能力(コミュニケーション能力) 周囲から信頼される人柄 外国語にての会話、文書作成能力	工程・安全・品質等を把握し、施工計画書を立案・作成できる能力 常に良好なコミュニケーションをとれるかどうかの技量 皆に信頼されている人柄 外国語にての会話、文書作成能力
			分析技能	出来形管理・工程管理・安全管理に関する理解度	現場における品質・工程・安全管理が理解できている程度
			管理・指導技能	ITツールやメディアを使いこなすことができる能力 部下に指示する立場、及び管理者としての責任	多様なITツールやメディア、アプリケーションを仕事や学習に使いこなす能力 内容をよく理解し、部下に指示・説明できる能力
			自律性と責任感	リーダーとして、チーム内の意見をまとめ、的確な判断・指示を下す能力 自己の専門的能力の向上を図り、学理・工法の研究に励み、技術の発展に貢献	チーム内における各種意見の分析・取り纏めができ、提言ができる能力 自己の専門的能力の向上を図り、学理を追求し、工法の研究に励み、さらに新工法等技術開発に貢献

分野	職種	レベル	人材特性	項目	指針
				外国の多様な異文化の中においても、仕事や学習を行う能力 業務上知り得た秘密を、正当な理由無く他に漏らしたり、転用したりしない倫理観 地域や社会において、持続可能な社会を創るための貢献	複数の言語が飛び交う多民族・多文化の中においても仕事や学習ができる能力 業務上知り得た情報等に対する秘密厳守
土木・建築	土木施工管理職種	4	知識と理解	技術士補 測量士補 専門資格取得に向け「各種専門科目」を修学 基礎科学（数学・物理・化学）の活用 職業理解能力、役割把握・認識能力、計画実行能力の発揮 CAD等での製図 図面を見て数量を計算 労働安全衛生法及び同規則の理解	地域において、環境保護を前提とした社会貢献活動 取得した場合当該レベルとみなされる目安 取得した場合当該レベルとみなされる目安 各種専門科目の履修に対する取り組み姿勢や理解度 基礎科学（数学・物理・化学）の知識を活用 自らの置かれている立場を十分認識し、なすべき事項、求められている課題を理解し、取り組んでいるか PCを使用し、CADにて各種図面（設計図、施工図、参考図など）を書く能力 図面を見て数量計算書が作成できる能力 労働安全衛生法及び同規則が理解できている
			対人技能	的確な報告・連絡・相談 単独またはチームメンバーの一員として、管理者や同僚・部下と効果的な交流 外国語にての日常の会話 情報の収集能力があり、的確な観察力・洞察力 数値・図表・画像データを活用する能力	報告・連絡・相談を的確に行う能力 単独またはチームメンバーの一員として、管理者や同僚・部下と効果的な交流 日本語のほか最低一つの言語で会話程度ができるかの能力 情報収集のツール・チャネルを持ち、相手をよく知る力があり、ものごとを客観的にとらえる観察・洞察力がある 各種データを活用・分析・解釈し活用する能力
			分析技能	上司等よりの指示、指導を受け、広い視点のもと考え方の幅や創造力を養い、技術者としての学知を十分蓄積する能力 各種チームのまとめめ及び管理を担う能力 指導を受け、責任感と自主性をもって、仕事及び専門知識の習得に専念 地元・地域社会づくりに対し、積極的に参加 常に専門技術の力量並びに技術と社会が接する領域の知識を有する	「学知の蓄積」として、柔軟な考えのもと、臨機応変な対応ができる能力 プロジェクトを進めるにあたり、関連するチーム間の連絡調整をとり、まとめ上げていく能力 課題を与えられたら、良く吟味・理解し計画性・責任感・自主性をもち目づ探求心をもって前向きに取り組んでいる 地元・地域社会づくりにつながる専門的活動や市民活動に関心を持つなどの積極性 社会が必要としている技術についての知識を有している
			管理・指導技能		
			自律性と責任感		
			倫理観とプロ意識		

分野	職種	レベル	人材特性	項目	指針	
土木・建築	土木施工管理職種	3	知識と理解 汎用的な技能 専門実践技能	倫理的な行動	自己の利益にとらわれず、公共の利益を優先することができる能力	
				土木技術に対する基礎的な知見	現場施工技術の基礎的な知識	
				高等学校学習指導要綱に基づく十分な学力・能力	高等学校学習指導要綱に基づく十分な学力・能力	
				専門分野の知識修得に対し意欲旺盛	目的を持って学習に専念する意欲	
				建設に対する興味	建設に興味があり、探求心旺盛である	
				基礎科学（数学・物理・化学）が得意	基礎科学（数学・物理・化学）を得意としている	
				教師の監督のもと、適切な情報や手法を使って問題を解決する能力	教師の監督のもと、適切な情報や手法を使って問題を解決する能力	
				対人技能	団体活動、チーム活動の中において主導的な役割経験 外国語にての初歩的な日常の会話 物事の事象に対する論理的な思考能力	団体活動・チーム活動において、主将やリーダーなど主導的役割経験があるか、または、その資質があるか 日本語以外に最低一つの国際語の初歩的な能力 理路整然と組立て、説明できる能力
				分析技能	ITツールを利用・活用する能力	ITアプリケーションを使用し、学習や仕事に対し使いこなす能力 解りやすく整然と表現できる能力
				管理・指導技能	豊かな表現力 解決すべき問題を先延ばししない精神	問題解決能力の高さ
				自律性と責任感	自主的な学習に対する成果・継続について真摯に向き合う姿勢 社会人としての一般知識、基礎力・マナー	結果に対して評価・分析し、課題を抽出し、前向きに取り組み姿勢 基礎力(話す・聞く・書く)が身につけているか、ルールや規則の遵守・思いやりの心があるか
				倫理観とプロ意識	相手の話を良く聞き、理解し、正確に伝える能力 素早く記録にとどめることができる能力	相手の話を良く聞き、理解し、正確に伝える能力 要点をメモし、正確に報告することができる能力
	環境問題について関心があり、何らかの関りを持った経験	環境問題について地域社会に対し積極的な関りを持っている				

## 4 学修成果情報共有システム

### 4-1 学修成果情報共有システムの概要

本事業では、産業界、専門職高等教育機関、高等学校が、それぞれに所属する人材の情報を共有するシステムについて、図 4-1 のようなイメージを抱いている。すなわち、このシステムは、

- よい人材を獲得したい産業界、
- 産業界が必要とする人材を育成しようとする専門職高等教育機関、
- よい教育機関に人材を送り出したい高等学校、

これらが、「資格枠組のレベル定義（レベルディスクリプター：LD）」にしたがった共通の尺度で学修成果を測定し、その結果を共有することによって、互いにメリットをもたらすことを目指している。

この仕組みの実現に向けて、「資格枠組のレベル定義」という共通の尺度を参照することを前提として、システムに対する産業界と専門学校との間のニーズを詳細にとらえるための調査を、昨年度事業において実施した。

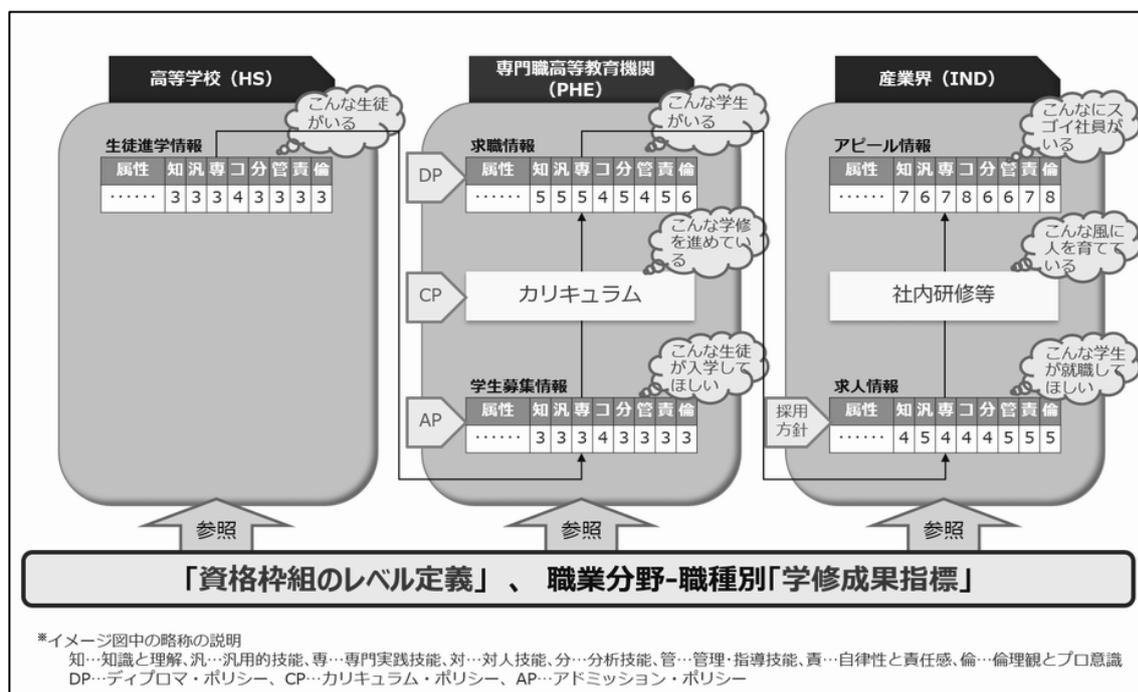


図 4-1 学修成果情報共有システムのイメージ

なお、図中の表内にある「知」「汎」「専」…「倫」と1字で書いてあるものは、学修成果指標の8つの人材特性で、それぞれが表すものは、表 4-1 のとおりである。また、「DP」「CP」「AP」は、教育機関における3つのポリシーで、それぞれが表すものは、表 4-2 のとおりである。

**表 4-1 図中の略号**

知	知識と理解
汎	汎用的技能
専	専門実践技能
対	対人技能
分	分析技能
管	管理・指導技能
責	自律性と責任感
倫	倫理観とプロ意識

**表 4-2 図中の略号**

DP	Diploma Policy (ディプロマ・ポリシー)	卒業認定・学位授与の方針。 教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。
CP	Curriculum Policy (カリキュラム・ポリシー)	教育課程編成・実施の方針。 ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。
AP	Admission Policy (アドミッション・ポリシー)	入学者受け入れ方針。 教育理念、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく教育内容等を踏まえ、どのように入学者を受け入れるかを定める基本的な方針であり、受け入れる学生に求める学習成果を示すもの。

## 4-2 学修成果情報共有システムの開発

本事業では、OSSである「mahara」を活用して、学修成果情報共有システムを構築した。

「mahara」はeポートフォリオシステム（以下、「本システム」）として著名なもので、一般に、学修成果情報を共有するためのシステムとして適切なものであるとされる。

本年度は、

- (1) 本システムの構築
- (2) 本システムを活用した学修成果情報共有に関する理解

を目的として、各分科会での議論を行った。

このうち、(2)を達成するために、3つの資料を用意した（後述資料1～資料3）。さらに、分科会では、事務局が「学修成果情報共有システム」のデモンストレーション操作を行い、理解の促進に努めた。その結果、次ページから示す、分野ごとのヒアリング調査結果を得た。この調査結果を受け、本事業の最終年度に当たる来年度事業において、本システムの完成を目指すこととした。

### 4-3 学修成果情報共有システムに関するヒアリング結果

ヒアリングは、「学修成果情報共有システムの課題」と題する文書を作成して各分科会に提示し、その文書に対する回答を、令和4年1月20日～24日に行った本年度最終分科会を得るという形式で行った。以下は、その回答に関する分科会の論点をまとめたものである。

#### 1. 学修成果指標の項目のグループ化を行う

現在の mahara の仕様は、機能として十分であるが、学修成果指標が現状のままでは、情報の入力量が相当に多くなってしまふ。たとえば、動物分野のレベル4の場合58の項目があり、1つの項目についてテキストでアノテーションを入力すると、入力する内容が決まっていたとしても、それだけで2時間以上を要すると予想される。そこで、58の項目をグループ化するなどして、項目数を1/3にするなどの方法によって、入力の手間を省く方法が考えられる。もちろん、項目数が58になったのはそれなりの理由があったわけであるから、アノテーションの入力の際、各項目に触れることは大切なことなので、そのことをもっと手際よく学生に対して伝える術が必要であることは言うまでもない。

#### 2. Excel の学修成果測定シートを活用する

令和元年度事業では、「学修成果測定シート」を開発した（図1）。

### 4 学修成果測定シート（2019）動物分野－認定動物看護師職種

測定基準	「評価」の欄には、次の測定基準にしたがって、A～Eのいずれにあたるかを評価し、該当する行の該当する列に1を入力してください。	測定日付 (数字を編集してください)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●100点満点評価の場合 A:よくできている B:できている C:ふつう D:やや努力が必要 E:できない</li> <li>●主観的評価の場合 A:大いにそう思う B:そう思う C:だいたいそう思う D:そう思わない E:まったくそう思わない</li> </ul>	yyyy/mm/dd

区分	測定項目	補足説明	評価					測定者 フリーコメント
			A	B	C	D	E	
知識と理解	■動物形態機能： 動物の体の構造と機能	動物の体を細胞、組織、臓器の名稱層で理解し、解剖学、生理学、生化学の面から動物の生命維持の仕組みを理解する。						
	■動物行動： 人と動物の調和に関わること	犬や猫の種としての行動様式の特徴を理解し、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。						
	■人間動物関係： 人と動物の調和に関わること	動物が人間社会で果たしている役割や飼養・歴史について理解し、人と動物の関係を中心学的および社会的側面から理解する。						
	■産業動物・実験動物・野生動物について： 様々な動物の特性と人との関わり	人の食の安全に係る産業動物や医学等の研究に役立ってもらうために育てる実験動物、動物園・水族館で飼育されている野生動物たちが健康で福祉に閉じた管理方法で飼養される方法を理解する。受診依頼があった時には各動物に精通している獣医師に依頼できる。						
	■ターミナルケア：重篤なまたは終末状態の動物と飼い主のQOLを考慮した対応	終末医療や緩和ケアが設けられることある。病を持つ動物の延命を断るだけでは、飼い主の疼痛管理と尊厳を守ることで適切な疼痛管理と対症療法、精神的支援、社会的支援を行っていくことを理解できる。						
	■安楽死： 安楽死も治療の一端であること	高度医療による延命や動物と飼い主にとって最適な現状、改善の兆しがない場合などは安楽死も治療の一環であることを充分理解し、飼い主からの質問に答えたり説明できる。またその行為が動物の福祉に反することなく、決定した飼い主の意向度ではないことを理解したうえで伝えることができる。						

図1 学修成果測定シート（動物分野レベル4の場合）

もう一つの方法として、このシートを活用して、学修成果を mahara システムの外側で学生が管理し、学修成果情報共有システムの上で添付して入力する方法が考えられる。このようにすれば、膨大なテキスト入力が必要であるという欠点を是正することが可能である。もちろん、その場合に弊害もあるので、それを抽出して解決することは必要であるが、

- ・各レベルで達成すべき学修成果を一覧できる
- ・膨大なテキスト入力を避けることができる
- ・教員がそれを承認する手続きには影響を与えない

などのメリットがある。唯一、学修成果測定シートの管理が、学生の責任になるので、そのことに注意する必要があるが、1つの学修成果測定シートを大切に利用する習慣を身につけさせることなどによって、学生にとってメリットも大きいと推察できる。

### **3. mahara の持っているコミュニケーションツールとしての機能はそのまま活用する**

mahara には様々なコミュニケーションツールとしての機能がある。たとえば、アノテーションはともかく、フィードバック機能を活用して、教員と学生がコミュニケーションすることも妨げない。

また、作品の評価が必要となる分野にとっては、たとえば、ゲームシステムの映像を添付するとか、美容分野で作品を写真に撮って添付するなどの機能はそのまま利用できる。

### **4. 1～3で述べたことを事例としてマニュアルを改訂する**

マニュアルは、現状、動物分野の事例のみを取り扱った形で用意されているが、四つの分野の事例を組み込んだ形で調整を行って改訂することにより、取り扱いやすいものにする。

以上を令和4年度事業開始までに行い、令和4年度事業開始時に、実証実験を開始できるようにする。

## 5 国際シンポジウム

### 5-1 国際シンポジウムのプログラム

本年度事業では、「科学技術革新に貢献する専門職高等教育」と題する国際シンポジウムを、次の要領で実施した。

日 時：2022年1月27日（木）

場 所：ハリウッド大学院大学

参 加：会場参加またはオンライン参加

参加人数：約80名（会場参加10名、オンライン参加70名）

プログラム：次ページのとおり

国際シンポジウムで配布した資料については、本事業成果報告書とは別に、本事業の成果物として事業成果ホームページに提示する。

QAPHE 国際シンポジウム 2022  
「科学技術革新に貢献する専門職高等教育」

日時・場所 2022年1月27日(木) 13:00~17:50  
ハリウッド大学院大学 11F(受付) (東京都港区六本木 6-4-1 六本木ヒルズ)

プログラム (日英同時通訳)

- 13:00~13:30 開会挨拶「日本の生産性向上に貢献する専門職高等教育」  
川口昭彦(一般社団法人専門職高等教育質保証機構 代表理事)
- 13:30~14:20 基調講演Ⅰ「台湾における高等教育質保証システム — 科学技術・職業教育へのアプローチ」(オンライン参加)  
容 繼業(社団法人台湾評鑑協会 理事長)
- 14:20~14:50 基調講演Ⅱ「日本の高等教育機関における専門職人材育成の現状」  
小林光俊(学校法人敬心学園 東京保健医療専門職大学 理事長)
- 14:50~15:20 基調講演Ⅲ「日本のプロフェッショナル人材育成はどうあるべきか — 米国FITに学ぶ」  
尾原蓉子(一般社団法人ウイメンズ・エンパワメント・イン・ファッション 名誉会長)
- 15:20~15:40 休憩
- 15:40~16:10 講演「専門学校における職業教育のマネジメント」  
船木茂人(文部科学省総合教育政策局 生涯学習推進課専修学校教育振興室 専門官)
- 16:10~17:40 パネルディスカッション(国内パネリストを交えた意見交換、会場からの質疑応答、総括討論等)  
容 繼業(社団法人台湾評鑑協会 理事長)(オンライン参加)  
小林光俊(学校法人敬心学園 東京保健医療専門職大学 理事長)  
尾原蓉子(一般社団法人ウイメンズ・エンパワメント・イン・ファッション 名誉会長)  
船木茂人(文部科学省総合教育政策局 生涯学習推進課専門官)  
山中祥弘(学校法人メイ・ウシヤマ学園 ハリウッド大学院大学 理事長・学長)  
ファシリテーター:川口昭彦(一般社団法人専門職高等教育質保証機構 代表理事)
- 17:40~17:50 閉会挨拶  
外山公美(一般社団法人専門職高等教育質保証機構 事務局)

文部科学省「令和3年度職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進事業」の支援により開催

図 2 国際シンポジウムのプログラム

## 5-2 国際シンポジウムの結果

国際シンポジウムでは、次のようなアンケートを実施した。アンケートの結果は、事業成果ホームページ上で公開する。

<p>令和3年度文部科学省委託事業</p> <p><b>QAPHE 国際シンポジウム 2022 ～科学技術革新に貢献する専門職高等教育～</b></p> <p><b>アンケートご協力をお願い Survey</b></p> <p>本日は QAPHE 国際シンポジウム 2022 にご参加いただき、誠にありがとうございました。 当機構における今後のイベント実施等に向けての参考といたしたく、お手数ですが下記の設問にお答えくださいますようお願いいたします。</p> <p>Thank you very much for attending the QAPHE International Symposium 2022 Please answer the following questions for our reference in organizing future events.</p> <p><b>問 1.</b> ご所属先について（該当する番号に○を付けてください）</p> <p>所属機関： ① 高等教育機関 ② 評価関係機関 ③ 教育関係機関 ④ 国際関係機関 ⑤ その他</p> <p>職務分野： ① 経営部門 ② 教育・研究部門 ③ 管理部門 ④ 評価部門 ⑤ 国際関係部門 ⑥ その他</p> <p><b>Q1.</b> About attendee (Please circle one)</p> <table><tr><td>Affiliation</td><td>1. Higher education institution</td><td>2. QA Organization</td><td>3. Other educational institution</td></tr><tr><td></td><td>4. International organization</td><td>5. Other</td><td></td></tr><tr><td>Job field</td><td>1. Governance</td><td>2. Education/Research</td><td>3. Management</td></tr><tr><td></td><td>4. Quality Assurance</td><td>5. International relations</td><td>6. Other</td></tr></table> <p><b>問 2.</b> 今回のシンポジウムは、全体としていかがでしたか？（該当する番号に○を付けてください）</p> <p>① とても良かった ② 良かった ③ 普通 ④ あまり良くなかった ⑤ 良くなかった</p> <p><b>Q2.</b> Please summarize your satisfaction level for the symposium (Please circle one)</p> <p>1. Excellent 2. Good 3. Fair 4. Poor 5. Very poor</p> <p>(ご感想等) Please indicate your overall comments or suggestions on the symposium</p> <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div> <p style="text-align: right;">裏面に続きます Please go to the back page.</p>	Affiliation	1. Higher education institution	2. QA Organization	3. Other educational institution		4. International organization	5. Other		Job field	1. Governance	2. Education/Research	3. Management		4. Quality Assurance	5. International relations	6. Other	
Affiliation	1. Higher education institution	2. QA Organization	3. Other educational institution														
	4. International organization	5. Other															
Job field	1. Governance	2. Education/Research	3. Management														
	4. Quality Assurance	5. International relations	6. Other														

**問 3.** 今回のシンポジウムの内容に関して、貴方の職務等に役に立ちそうな点等がありましたか。

また、テーマに関連して、貴組織において今後計画している取組みがありましたら、お教えてください。

**Q3.** Concerning of the symposium, are there any useful points and references that may be applicable to your operation in the future? Does your organization plan to practice related to the theme of this symposium? If yes, please specify.

[ ]

**問 4.** 当シンポジウムの感想や、今後に期待するテーマ、当機構へのご意見・ご要望等、ご自由にご記入ください。

**Q4.** Please tell us what kind of themes and topics you would like to see covered in future QAPHE events. Any other requests and opinions to QAPHE are also welcome.

[ ]

ご協力ありがとうございました  
*Thank you for your kind cooperation!*

アンケートは、Google Formからもご利用いただくことができます。本日から1週間以内に下のURL、または2次元コードからアクセスしてご回答ください。

**【アンケート】QAPHE国際シンポジウム2022**

[https://docs.google.com/forms/d/11RNI4xJ-EL4k27zuAJIDQ9Rf2YoFAqXcz\\_ncOzYHBA/edit](https://docs.google.com/forms/d/11RNI4xJ-EL4k27zuAJIDQ9Rf2YoFAqXcz_ncOzYHBA/edit)



## 資料 1 ポートフォリオ検索システムの概要

令和3年度文部科学省  
職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進事業

学校評価の充実等を目的とした資格枠組の共有化・  
職業分野別展開とその有用性の検証  
学修成果情報共有システム

ポートフォリオ  
検索システム

令和4年2月  
一般社団法人 専門職高等教育質保証機構

# 目次

<b>1 ポートフォリオ検索システムの目的</b> .....	1
1.1 事業計画書上の位置付け.....	1
1.2 ポートフォリオ検索システムの方向性.....	1
1.3 ポートフォリオ検索システム業務フロー.....	2
1.4 ポートフォリオ検索システム登録に必要な情報.....	3
1.4.1 タイトル.....	3
1.4.2 レベル.....	3
1.4.3 検索タグ.....	3
1.4.4 自己アビール.....	4
1.4.5 自己アビール概要.....	4
1.4.6 個人 ID.....	4
1.4.7 氏名.....	4
1.4.8 ポートフォリオ公開 URL.....	4
<b>2 事前準備</b> .....	6
2.1 組織のポートフォリオ公開承認アカウントの作成.....	6
2.2 個人 ID 採番規則の設定.....	6
<b>3 ポートフォリオの登録</b> .....	7
3.1 登録対象者.....	7
3.2 所属する組織の選択.....	7
3.3 ポートフォリオの登録.....	12
<b>4 ポートフォリオの承認</b> .....	17

4.1 ポートフォリオ登録のメール通知.....	17
4.2 ポートフォリオ承認担当のアカウントでログイン.....	17
4.3 ポートフォリオ登録内容の確認.....	20
4.4 ポートフォリオの公開.....	23
<b>5 ポートフォリオの検索</b> .....	27
5.1 検索対象となる分野・職種を選択.....	27
5.2 検索条件の設定.....	29
5.2.1 検索項目間の関係.....	29
5.2.2 同一検索項目内の検索値の関係.....	30
5.2.3 検索結果件数.....	31
5.2.4 所属.....	31
5.2.5 レベル.....	32
5.2.6 タグ.....	32
5.2.7 キーワード.....	33
5.3 検索の実行.....	33
5.4 検索結果一覧の表示.....	34
5.5 自己アビールの表示.....	35
5.6 ポートフォリオの表示.....	37

# 1 ポートフォリオ検索システムの目的

## 1.1 事業計画書上の位置付け

事業計画書上の「学修成果情報共有システム」は、「資格枠組のレベル定義」を行い、「学修成果指標」に合致するかの評価をシステム上で行い、更にその結果を共有するシステムの開発を行うものである。

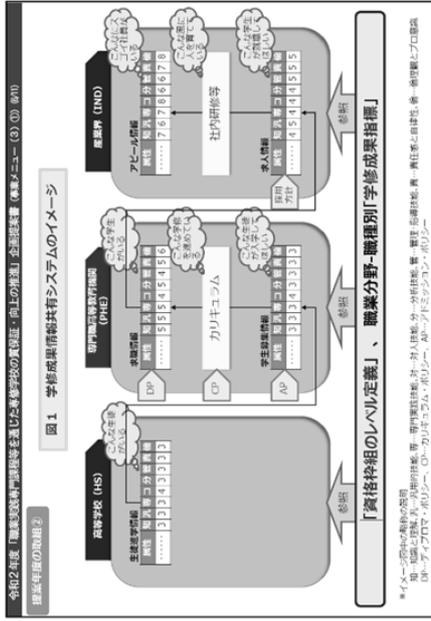


図1 事業計画書

## 1.2 ポートフォリオ検索システムの方向性

本事業において、「学修成果指標」に合致するかの評価を行うシステムの構築を行うが、学校によっては既存の独自のシステムを運用している場合もあり、本事業で開発する「学修成果指標」の評価システムとは異なるシステム上で学修成果が公開されている場合もあると考えられる。

ポートフォリオ検索システムは、多くの情報が存在することで情報検索する利用者にとっての利便性が高まることから、本事業で開発する「学修成果指標」の評価システム以外で公開されている学修成果であったとしても検索対象にできると考えられる。

る。そのため、ポートフォリオ検索システムは、学修成果の公開 URL を存在すれば、本事業で開発した評価システムに限らず、学校や企業など組織の Web サイト上の情報、個人のブログ上の情報などのような学修成果の公開方法であったとしても検索対象にできるとが望ましいと考えられる。

## 1.3 ポートフォリオ検索システム業務フロー

ポートフォリオ検索システムの業務フローを示す。

- ① ポートフォリオの公開  
学生や企業の従業員が、自分自身のポートフォリオを公開する。  
ポートフォリオの公開は、Web 上で特別なアカウントを必要としない状態で公開されているれば、本事業で開発した評価システムに限らず、組織の Web サイト上、個人のブログ上等の公開でも良い。
- ② ポートフォリオ検索システムへの登録  
学生や企業の従業員が、自分のポートフォリオを公開した URL を、ポートフォリオ検索システムに登録する。  
ポートフォリオ公開 URL と併せて、簡単な自己アピールを登録する。  
学生や企業の従業員が自分自身のポートフォリオをポートフォリオ検索システムに登録した段階では、登録した情報は公開されない。
- ③ ポートフォリオ検索システム登録のメール通知  
学生や企業の従業員がポートフォリオ検索システムに自分のポートフォリオを登録した段階で、学校や企業のポートフォリオ承認担当者のメールアドレス宛に、ポートフォリオが登録されたことを通知するメールが送られる。
- ④ ポートフォリオ検索システム登録内容の承認  
学校や企業のポートフォリオ承認担当者が、学生や従業員がポートフォリオ検索システムに登録した情報を承認する。
- ⑤ ポートフォリオ検索システムでの検索  
学校や企業のポートフォリオ承認担当者によって承認された情報は、ポートフォリオ検索システムの検索対象として追加される。

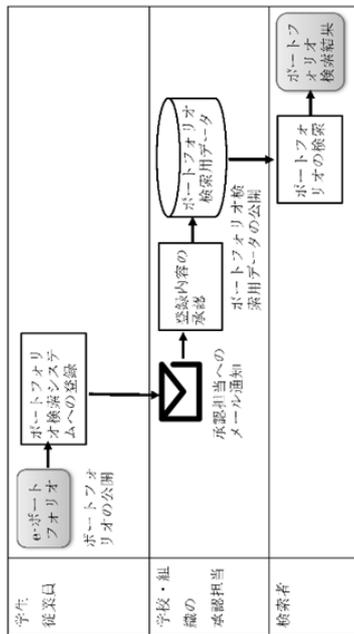


図 2 ポートフォリオ検索システム業務フロー

## 1.4 ポートフォリオ検索システム登録に必要な情報

ポートフォリオ検索システムは、広く外部から情報を検索できることも必要であるが、検索された結果から個人が容易に特定できない個人情報保護の観点も必要である。

### 1.4.1 タイトル

個人のポートフォリオの題名である。

検索結果の一覧に表示された際に、検索した人が興味を持ってもらえるような簡潔なタイトルを設定する。

### 1.4.2 レベル

公開するポートフォリオが合格基準に到達した学修成果指標のレベルである。

### 1.4.3 検索タグ

ポートフォリオを公開する個人が、特にアピールしたいスキルに関連するキーワードである。

ポートフォリオを検索する際のキーワードとしても設定可能である。  
個人の判断で検索タグを追加すると無関係に増加してしまうため、あらかじめ分野・職種ごとに10個程度の検索タグを設定し、その中から選択する。

### 1.4.4 自己アビール

ポートフォリオを検索して、個人のポートフォリオを表示した場合に表示される自己アビールである。

閲覧した人に興味を持ってもらえるようなアビール文を記載する。

氏名・電話番号・メールアドレスのような、個人を特定できる内容は記載しない。

### 1.4.5 自己アビール概要

ポートフォリオを検索した結果の一覧画面上に表示される、短い自己アビールである。

一覧で表示された際に長すぎない50文字程度の文章で簡潔に自己アビールを記載する。

氏名・電話番号・メールアドレスのような、個人を特定できる内容は記載しない。

### 1.4.6 個人ID

ポートフォリオを検索した外部の人からの問い合わせを学校や企業や企業が受けた場合に、そのポートフォリオが誰のものかを識別するためのIDである。

外部から見た場合は個人IDの特定が困難であり、学校や企業組織内のポートフォリオ担当者から見た場合には容易に個人を特定できるよう組織内の個人IDの採番規則を設定する必要がある。

### 1.4.7 氏名

個人が登録したポートフォリオを、学校や企業の承認担当者が確認して、公開可能かどうかを判断する際の情報のひとつである。

個人IDがあれば個人の特定は可能であるが、より容易に組織内部で個人を特定するために氏名を記載する。

記載した氏名は、組織のポートフォリオ承認担当者が個人を特定する際のみ用いられ、外部には公開されない。

### 1.4.8 ポートフォリオ公開URL

自己のポートフォリオの公開先URLである。

ポートフォリオ公開URLは、本事業で開発した評価システムに限らず、特別な権限やアカウントが不要で閲覧できるURLであれば学校や企業のWebサイト上、個人のWebサイト、個人のブログ、SNS上の公開ページなどが利用可能である。

e-ポートフォリオシステムの「mahara」を利用した場合を例にすると、個人が外部に公開することを許可するために共有画像を「パブリック」に設定し、公開先のURLとして「シークレットURL」を発行している場合に、e-ポートフォリオは外部に公開されている

状態となる。

「シークレットURL」は、複雑に設定されたURLであり、知らない外部の人間が辿り着くことは困難であるが、URLさえ知っていれば誰でも公開されたeポートフォリオの閲覧が可能です。

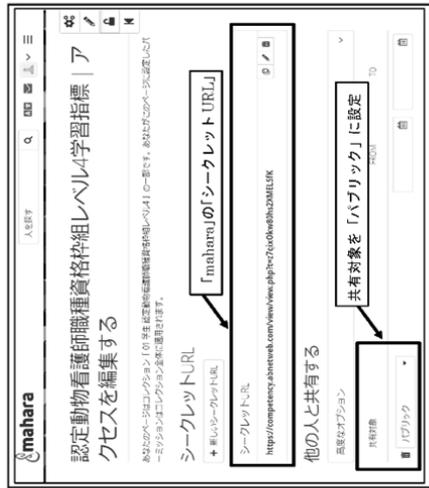


図 3 mahara の公開 URL

## 2 事前準備

### 2.1 組織のポートフォリオ公開承認アカウントの作成

ポートフォリオ検索システムを利用する学校や企業の組織ごと、分野・職種ごとに、ポートフォリオ公開承認担当者のアカウントの作成が必要である。

ポートフォリオ公開承認担当者のアカウントを作成する際には、ポートフォリオが登録されたことを通知するメールアドレスが必要である。

ポートフォリオ公開承認担当者のメールアドレスは、ポートフォリオ検索システム内で重複しないものを設定する。

※同じ組織であっても、分野・職種が異なれば、異なるメールアドレスが必要

### 2.2 個人ID採番規則の設定

ポートフォリオを検索した人から学校や企業に問い合わせがあった場合に、学校や企業が誰のポートフォリオかを識別するためのIDである個人IDの採番規則を、学校や企業内で設定する必要がある。

外部から見た場合は個人IDの特定が困難であり、学校や企業の組織内部のポートフォリオ承認担当者から見た場合にのみ個人IDを特定できるように組織内の個人IDの採番規則を事前に取り決める。

### 3 ポートフォリオの登録

#### 3.1 登録対象者

本システムを利用することを認められている学校や企業に所属する学生や従業員が登録対象者となる。

登録処理自体は誰でも可能であるが、登録しただけでは公開されず、所属する組織の担当者で適切と判断した場合のみ公開される。

recAPTCHAを利用して、ロボットによるシステム登録を防止している。

#### 3.2 所属する組織の選択

ポートフォリオを登録する者は、自己の所属する組織のポートフォリオ登録画面を利用する。

- ① ポートフォリオ検索システムURLを表示  
ポートフォリオ検索システム URL 「<https://compsearch.qaphe.com/>」をブラウザで表示する。



図 4 ポートシステム検索システム URL を表示

- ② 「ポートフォリオ登録」をクリック



図 5 「ポートフォリオ登録」をクリック

- ③ 「分野」を選択  
ポートフォリオの登録を行う分野をクリックする。



図 6 「分野」を選択

- ④ 「職種」を選択  
 ポートフォリオの登録を行う職種をクリックする。



図 7 「職種」を選択

- ⑤ 「組織」を選択  
 ポートフォリオの登録を行う組織(学校や企業)をクリックする。



図 8 「組織」を選択

④ 選択した組織のポートフォリオ登録画面が表示される



図 9 選択した組織のポートフォリオ登録画面が表示される

### 3.3 ポートフォリオの登録

自己の所属する組織のポートフォリオ登録画面を利用して、自己プロフィール等の必要な情報を登録する。

① 「ポートフォリオ」の登録

- タイトル  
個人のポートフォリオの題名である。  
検索結果の一覧に表示された際に、検索した人に興味を持ってもらえるような簡潔なタイトルを設定する。
- レベル  
公開するポートフォリオが合格基準に到達した学修成果指標のレベルを設定する。

- 検索タグ  
特にアビールしたいスキルに関連するキーワードを選択する。ポートフォリオを検索する際のキーワードとして利用される。
- 自己アビール  
ポートフォリオを表示した場に表示される自己アビールを設定する。閲覧した人に興味を持ってもらえるようなアビール文を記載する。氏名・電話番号・メールアドレスのような、個人を特定できる内容は記載しない。
- 自己アビール概要  
ポートフォリオを検索した結果の一覧画面に表示される、短い自己アビールを設定する。一覧で表示された際に取すぎない、50文字程度の文章で簡潔に自己アビールを記載する。氏名・電話番号・メールアドレスのような、個人を特定できる内容は記載しない。
- 個人ID  
ポートフォリオを検索した外部の人からの問い合わせがあった場合に、問い合わせを受けた学校や企業が、そのポートフォリオが誰のものかを識別するためのIDである。外部から見た場合は個人の特定が困難であり、学校や企業の組織内部のポートフォリオ承認担当者から見た場合には容易に個人を特定できるような組織内の個人IDの採番規則を事前に取り決める。
- 氏名  
所属する組織内部で個人を特定するために利用する。記載した氏名は、組織のポートフォリオ承認担当者が個人を特定する際のみ用いられ、外部には公開されない。
- ポートフォリオ公開URL  
自己のポートフォリオの公開先URLを設定する。ポートフォリオ公開URLは、本事業で開発した評価システムに限らず、特別な権限やアカウントが不要で閲覧できるURLであれば学校や企業のWebサイト上、個人のWebサイト、個人のブログ、SNS上の公開ページなどが利用可能である。

## ハリウッド大学院大学

ポートフォリオ作成 / 制作材料 / 制作手順 / ハリウッド大学院大学

ハリウッド大学院大学のポートフォリオを登録します。

「\*」の箇所は必須入力

※標準とのコミュニケーションが得意です

自己アビールなどのスキルを詳細に述べてください。

美容 美容師レベル3

学歴は専修学校のレベルを記載してください。

ITスキル  エステディック  カット  カラー

コミュニケーション  ネイル  パーマ  マッサージ

メイクアップ  経営

自己アビールではまだキーワードが不足しています。検索キーワードとして利用されます。

私は、カットやパーマなどの美容師としての経験にも自信が持てますが、それ以上の美容師としてのコミュニケーション能力に自信がある。美容師としての経験を活かして、美容師としてのスキルを磨き、お客様に満足してもらえるよう努めます。

タイトル\*

レベル\*

検索タグ

自己アビール\*

自己アビールは必須項目に述べてください。  
氏名、組織内、メールアドレスは必ずしも公開されませんが、組織内限定の公開先として使用可能である。

図 10 「ポートフォリオ」の登録

自己プロフィール概要\*

お住まいの国や、言語や文化に関する情報と、その他のプロフィール情報もご入力ください。

個人ID \*

1234567890

氏名 \*

姓 花子

ポートフォリオ公開URL \*

<https://competency.abnetweb.com/view/view.php?tz=eqOkw60ht>

「ポートフォリオ」の入力

「ポートフォリオ登録」ボタンをクリック

「ポートフォリオ」の登録

図 11 「ポートフォリオ」の登録

② 「ポートフォリオ」の登録完了

ポートフォリオ受付完了

香 トップ / ポートフォリオ受付完了

「ポートフォリオ」の登録完了

ポートフォリオの送信が受付されました。  
所属組織の担当者によるチェックの後、問題がなければ公開されます。  
しばらくお待ちください。

図 12 「ポートフォリオ」の登録完了

## 4 ポートフォリオの承認

ポートフォリオ登録者の所属する組織のポートフォリオ承認担当者が、ポートフォリオの公開可否を判断する。

### 4.1 ポートフォリオ登録のメール通知

ポートフォリオが登録されると、当該組織のポートフォリオ承認担当者のメールアドレス宛にポートフォリオが登録されたことの通知メールが送信される。

- ① ポートフォリオ登録のメール通知  
当該組織のポートフォリオ承認担当者のメールアドレス宛にポートフォリオが登録されたことの通知メールが送信される。

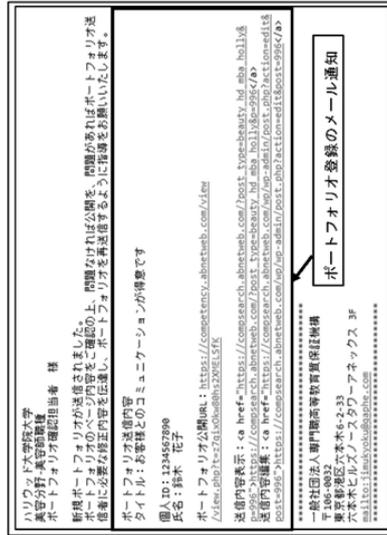


図 13 ポートフォリオ登録のメール通知

### 4.2 ポートフォリオ承認担当のアカウントでログイン

ポートフォリオ登録内容の確認段階では、ポートフォリオは一般公開されていないため、組織に付与されたポートフォリオ承認担当のアカウントでログインしておく必要がある。

- ① ポートフォリオ検索システムログイン用 URL を表示  
ポートフォリオ検索システムログイン用 URL  
「<https://compsearch.qaphe.com/wp/wp-login.php>」をブラウザで表示する。

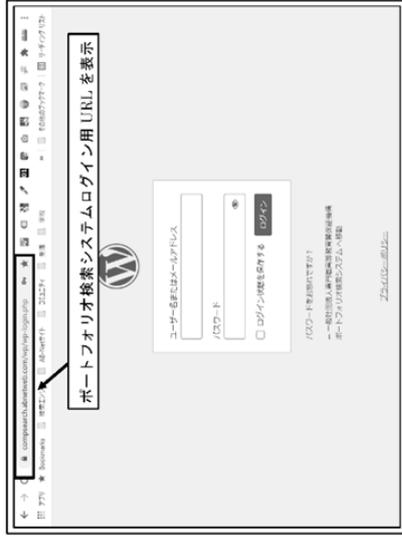


図 14 ポートフォリオ検索システムログイン用 URL を表示

- ② 当該組織のポートフォリオ承認用アカウントでログイン  
当該組織のポートフォリオ承認用アカウントの「ユーザー名」、「パスワード」を入力し、「ログイン」ボタンをクリックする。

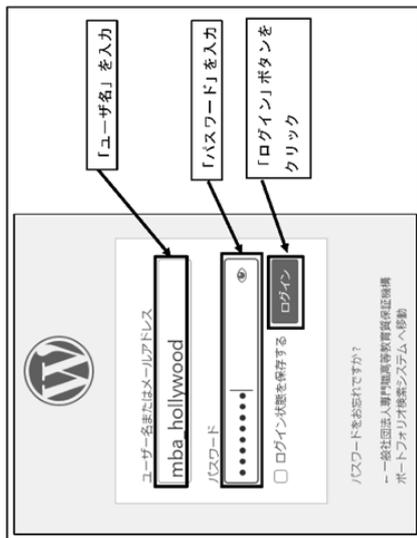


図 15 当該組織のポートフォリオ承認用アカウントでログイン

- ③ 当該組織のポートフォリオ承認用アカウントでログイン完了  
当該組織のポートフォリオ承認用アカウントでのログインが完了し、担当者名が表示される。

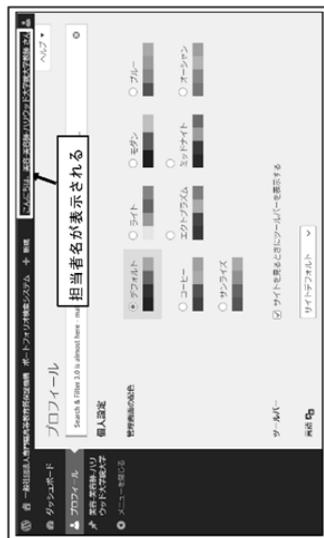


図 16 当該組織のポートフォリオ承認用アカウントでログイン完了

### 4.3 ポートフォリオ登録内容の確認

ポートフォリオ登録の通知メール内の、「送信内容表示」のリンク先を表示することで、実際のポートフォリオ公開画面の表示内容の確認を行う。

※事前にポートフォリオ承認相当のアカウントでログインしておく必要がある。

- ① ポートフォリオ登録の通知メール内の「送信内容表示」のリンク先を表示  
「送信内容表示」のリンク先をクリックする。  
※図例により、「送信内容表示」のリンク先をクリックしてもリンク先が表示されない場合は、ブラウザのアドレスバーにリンク先 URL をコピー＆ペーストする。

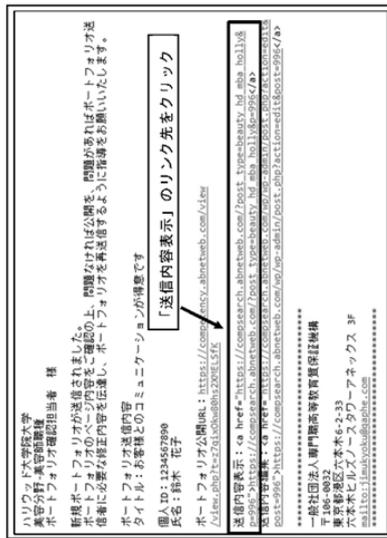


図 17 「送信内容表示」のリンク先を表示

- ② ポートフォリオ登録内容の表示確認  
ポートフォリオ登録内容が、検索された場合にどのようなように表示されるかを確認する。  
※情報に誤りはないか、必要な情報が不足していないか、表現に問題はないか、個人情報が公開されていないか、必要がないか等を必要に応じて確認する。

美容-美容師-ハリウッド大学院大学

ポータルトップ / 美容-美容師-ハリウッド大学院大学 / 美容-美容師-レベル3 / お客様とのコミュニケーションが得意です

**ポータルトップ登録内容の表示確認**

お客様とのコミュニケーションが得意です

自 2021年9月14日 ☎ 2021年9月14日

私は、カットやパーマなどの美容師としての技術にも自信がありますが、それ以上にお客様とのコミュニケーションが得意です。

美容室にいる時間を快適な時間にするように、明るくポジティブな会話ができるよ  
うな情報収集を行っています。

- 個人ID: 1234567890
- ポータルトップ公開URL:  
<https://competency.abnetweb.com/view/view.php?i=z7qk0k680hc2X0MEL5K>

美容-美容師-レベル3  
美容-美容師-レベル3  
美容-美容師-レベル3  
ハリウッド大学院大学  
美容-美容師-レベル3  
美容-美容師-レベル3  
ITスキル、カット、コミュニケーション、ネイル、パーマ、経歴

図 18 ポータルトップ登録内容の表示確認

- ③ 「ポータルトップ公開 URL」 のリンク確認  
「ポータルトップ公開 URL」 のリンクをクリックする。

美容-美容師-ハリウッド大学院大学

ポータルトップ / 美容-美容師-ハリウッド大学院大学 / 美容-美容師-レベル3 / お客様とのコミュニケーションが得意です

**お客様とのコミュニケーションが得意です**

自 2021年9月14日 ☎ 2021年9月14日

私は、カットやパーマなどの美容師としての技術にも自信がありますが、それ以上にお客様とのコミュニケーションが得意です。

美容室にいる時間を快適な時間にするように、明るくポジティブな会話ができるよ  
うな情報収集を行っています。

- 個人ID: 1234567890
- ポータルトップ公開URL:  
<https://competency.abnetweb.com/view/view.php?i=z7qk0k680hc2X0MEL5K>

「ポータルトップ公開 URL」 の  
リンクをクリック

美容-美容師-レベル3  
美容-美容師-レベル3  
美容-美容師-レベル3  
ハリウッド大学院大学  
美容-美容師-レベル3  
美容-美容師-レベル3  
ITスキル、カット、コミュニケーション、ネイル、パーマ、経歴

図 19 「ポータルトップ公開 URL」 のリンク確認

- ④ 公開されたポータルトップ公開 URL の表示確認  
公開されたポータルトップ公開 URL が表示されることを確認する。

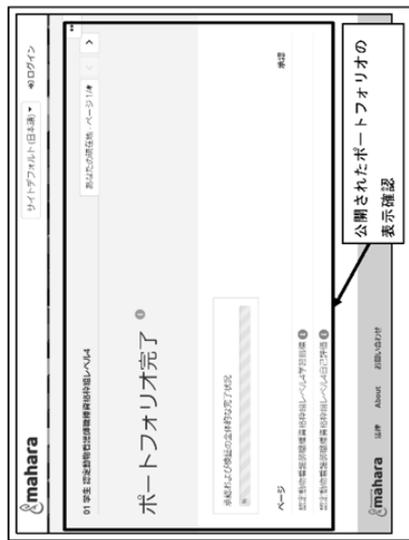


図 20 公開されたポートフォリオの表示確認

#### 4.4 ポートフォリオの公開

ポートフォリオ登録の通知メール内の、「送信内容編集」のリンク先を表示することで、加人名を含めたポートフォリオ登録内容の確認を行い、公開に問題ないと判断できる場合はポートフォリオの公開を行う。

※事前にポートフォリオ承認担当のアカウントでログインしておく必要がある。

- ① ポートフォリオ登録通知メール内の「送信内容編集」のリンク先を表示  
「送信内容編集」のリンク先をクリックする。  
※環境により、「送信内容編集」のリンク先をクリックしてもリンク先が表示されない場合は、ブラウザのアドレスバーにリンク先 URL をコピー&ペーストする。

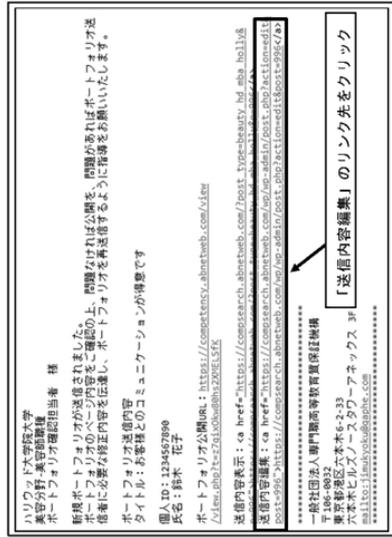


図 21 「送信内容編集」のリンク先を表示

- ② ポートフォリオ登録内容の確認  
ポートフォリオ登録内容に誤りがないか、必要な情報が不足していないか、表示に問題はないか、個人情報公開されていないか等を確認する。

※「氏名」は公開されることはないが、間違いないで公開対象の学生や従業員であることを確認するために利用する。「挨拶」は、検索結果の一覧に表示される内容であり、短い文章で簡潔に表現されていることを確認する。

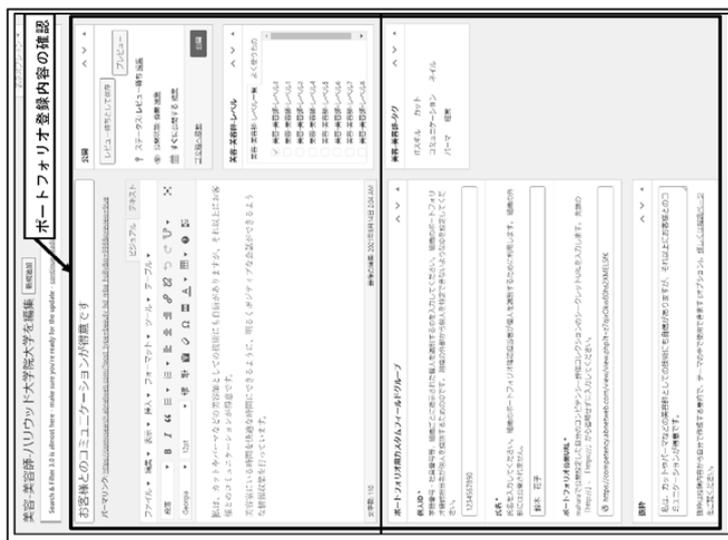


図 22 ポートフォリオ登録内容の確認

- ③ ポートフォリオの公開
- ポートフォリオ登録内容問題がない場合は、「公開」ボタンをクリックし、ポートフォリオを公開する。
- ポートフォリオ登録内容に問題がある場合は、登録した学生や従業員に修正が必要な事項を伝え、再登録を指示する。
- 再登録が確認できた段階で、誤りのあるポートフォリオは削除する。

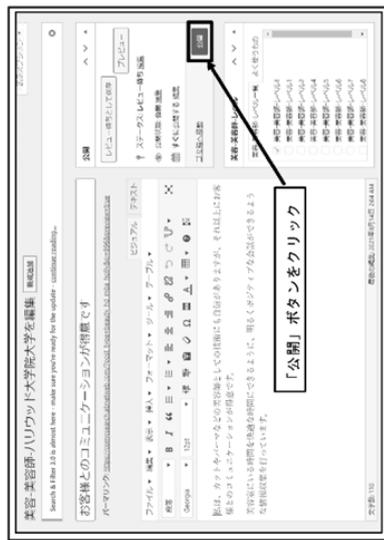


図 23 ポートフォリオの公開

- ④ ポートフォリオの公開確認
- 「投稿を公開しました」のメッセージが表示され、「公開」ボタンが「更新」ボタンに変わっていることを確認する。



図 24 ポートフォリオの公開確認

## 5 ポートフォリオの検索

検索対象となる分野・職種のプロファイル検索画面で検索条件を設定し、条件に合致するポートフォリオを検索する。

### 5.1 検索対象となる分野・職種の選択

ポートフォリオの検索対象とする分野・職種を選択する。

- ① ポートフォリオ検索システム URL を表示  
 ポートフォリオ検索システム URL 「<https://compsearch.qaphe.com/>」 をブラウザで表示する。



図 25 ポートシステム検索システム URL を表示

- ② 検索対象とする「分野」をクリック



図 26 検索対象とする「分野」をクリック

- ③ 検索対象とする「職種」を選択  
 ポートフォリオ検索対象とする「職種」をクリックする。



図 27 検索対象とする「職種」を選択

④ 選択した「分野」、「職種」の検索条件設定画面が表示される

図 28 選択した「分野」、「職種」組織の検索条件設定画面が表示される

## 5.2 検索条件の設定

検索対象となる分野・職種ポートフォリオ検索画面で検索条件を設定し、条件に合致するポートフォリオを検索する。

### 5.2.1 検索項目間の関係

検索条件として設定する複数の項目(「所属」、「レベル」、「タグ」、「キーワード」)は、AND条件(すべての条件を満たすもの)を検索対象とする。

図 29 検索項目間の関係

### 5.2.2 同一検索項目内の検索値の関係

検索条件として設定する1つの項目(「所属」、「レベル」、「タグ」、「キーワード」)内の検索値は、キーワードはAND条件(すべての条件を満たすもの)、キーワード以外はOR条件(いずれかの条件を満たすもの)を検索対象とする。

図 30 同一検索項目内の検索値の関係(キーワード)

美容-美容師-レベル

美容-美容師-レベル1 (0)

美容-美容師-レベル2 (0)

美容-美容師-レベル3 (3)

美容-美容師-レベル4 (1)

美容-美容師-レベル5 (0)

美容-美容師-レベル6 (0)

美容-美容師-レベル7 (0)

美容-美容師-レベル8 (0)

OR条件(いずれかの条件を満たすもの)を検索対象とする

図 31 同一検索項目内の検索値の関係(キーワード以外)

### 5.2.3 検索結果件数

検索条件を設定した結果、検索結果として得られるポートフォリオの件数が検索値の右側の括弧内に表示される。

美容-美容師-レベル

美容-美容師-レベル1 (0)

美容-美容師-レベル2 (0)

美容-美容師-レベル3 (3)

美容-美容師-レベル4 (1)

美容-美容師-レベル5 (0)

美容-美容師-レベル6 (0)

美容-美容師-レベル7 (0)

美容-美容師-レベル8 (0)

検索結果として得られるポートフォリオの件数が括弧内に表示される

図 32 検索結果件数

### 5.2.4 所属

検索対象とする、学生や従業員の所属先を設定する。

所属

ハリウッド美容専門学校 (1)

ハリウッド大学院大学 (3)

検索対象とする学生や従業員の所属先を設定

図 33 所属

### 5.2.5 レベル

検索対象とする、学修評価指標のレベルを設定する。

美容-美容師-レベル

美容-美容師-レベル1 (0)

美容-美容師-レベル2 (0)

美容-美容師-レベル3 (3)

美容-美容師-レベル4 (0)

美容-美容師-レベル5 (0)

美容-美容師-レベル6 (0)

美容-美容師-レベル7 (0)

美容-美容師-レベル8 (0)

検索対象とする学修評価指標のレベルを設定

図 34 レベル

### 5.2.6 タグ

検索対象とする、日己アビールとして登録したタグ(キーワード)を設定する。

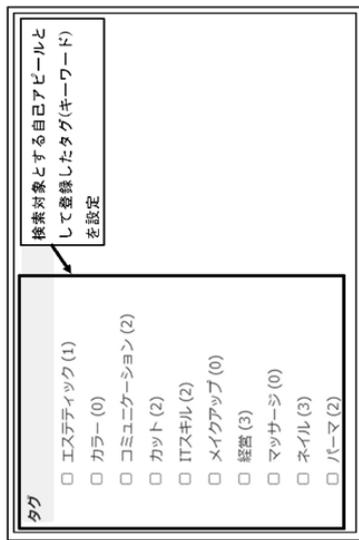


図 35 タグ

### 5.2.7 キーワード

検索対象とするキーワードを設定する。  
多数のキーワードを設定する場合は、キーワード間を半角スペースで区切る。



図 36 キーワード

### 5.3 検索の実行

検索条件を設定し、「検索」ボタンをクリックする。

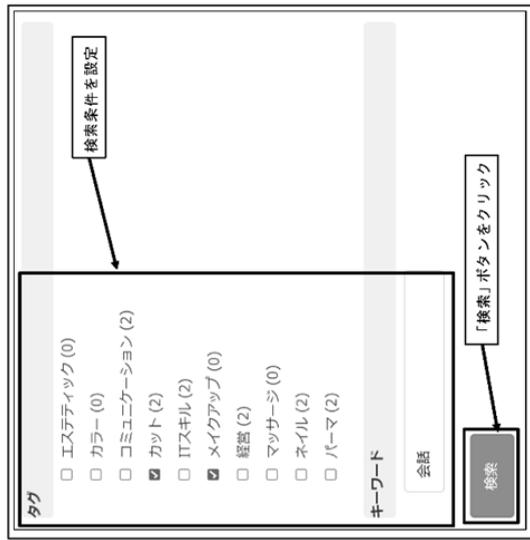


図 37 検索の実行

### 5.4 検索結果一覧の表示

検索結果一覧が表示される。  
検索結果一覧の表示順は、登録日の降順(新しいものから古いものへの順)で表示される。  
登録から7日以内のポートフォリオは、「新着」の文字が表示される。

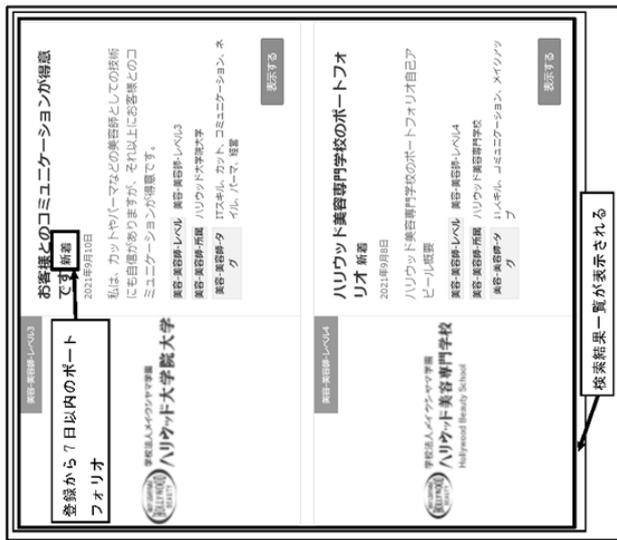


図 38 検索結果一覧が表示される

## 5.5 自己アピールの表示

検索結果一覧から選択したポートフォリオの、自己アピールを表示する。

- ① 検索結果一覧からポートフォリオを選択  
自己アピールを表示する対象のポートフォリオの「表示する」ボタンをクリックする。

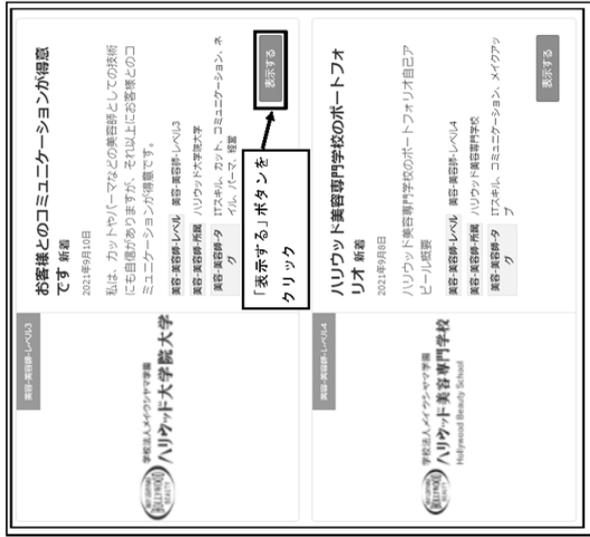


図 39 検索結果一覧からポートフォリオを選択

- ② 自己アピールが表示される

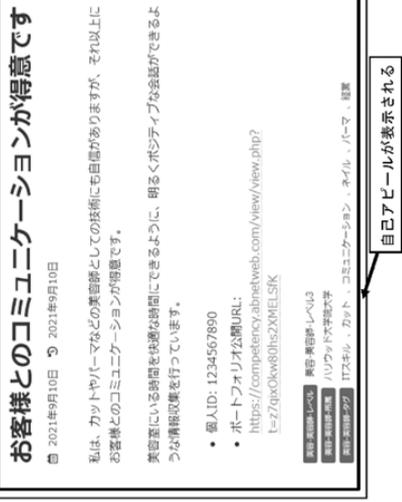


図 40 自己アピールが表示される

## 5.6 ポートフォリオの表示

表示した自己アピール画面の「ポートフォリオ公開 URL」をクリックすることで、公開されたポートフォリオが表示される。

- ① 「ポートフォリオ公開 URL」 をクリック

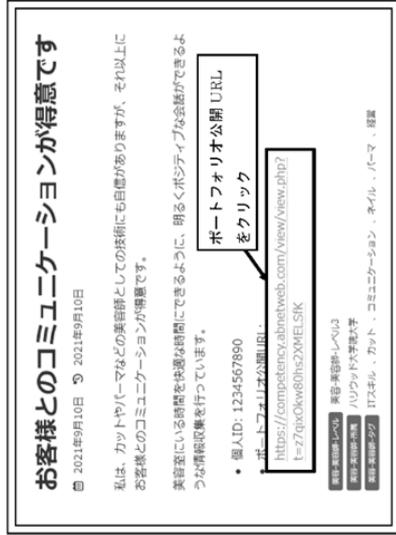


図 41 「ポートフォリオ公開 URL」 をクリック

- ② 公開されたポートフォリオが表示される



図 42 公開されたポートフォリオが表示される

## 資料 2 学修成果情報共有システム操作説明(教員用)

令和3年度文部科学省  
職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進事業

学校評価の充実等を目的とした資格枠組の共有化・  
職業分野別展開とその有用性の検証事業

学修成果情報共有システム  
教員用操作説明書

令和4年2月

一般社団法人専門職高等教育質保証機構

## はじめに

本教材は、令和3年度文部科学省委託事業「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」事業、「学校評価の充実等を目的とした資格特組の共有化・職業分野別展開とその有用性の検証」の成果物である学修成果情報共有システムを利用するための具体的手順・方法・諸注意などをまとめたものである。

## 目次

<b>1 学修成果情報共有システム利用環境</b> .....	<b>1</b>
1.1 学修成果情報共有システムの目的 .....	1
1.2 学修成果情報共有システム .....	2
1.3 利用環境 .....	2
1.4 学修成果情報共有システムの概要 .....	3
1.4.1 スマートエビデンス .....	3
1.4.2 インスタティテューション .....	4
1.4.3 グループ .....	6
<b>2 学修成果情報共有システムのユーザー環境</b> .....	<b>8</b>
2.1 ログイン・ログアウト .....	8
2.1.1 学修成果情報共有システムへのログイン .....	8
2.1.2 学修成果情報共有システムからのログアウト .....	10
2.2 パスワードを忘れた場合 .....	11
2.2.1 パスワードのリセット .....	11
2.3 学修成果情報共有システムの画面 .....	15
2.3.1 ダッシュボード .....	15
2.4 プロファイルの設定 .....	16
2.4.1 氏名の設定 .....	17
2.4.2 メールアドレスの設定 .....	19
<b>3 学修成果情報共有事前準備の確認</b> .....	<b>28</b>
3.1 「コレクション」とは .....	28

3.2 受講者からの「コレクション」共有確認	28
3.2.1 「コレクション」共有のメール通知確認	28
3.2.2 「受信箱」の通知確認	30
3.2.3 自分への共有確認	34

#### 4 学修成果評価 ..... 38

4.1 受講者から提出された自己評価の確認	38
4.1.1 自己評価の提出通知メールの確認	38
4.1.2 「受信箱」の通知確認	41
4.1.3 自分への提出確認	44
4.1.4 グループへの送信確認	46
4.2 学修成果指標の確認	50
4.2.1 学修成果指標の確認	51
4.2.2 学修成果指標の各項目の評価状況の確認	52
4.2.3 学修成果指標の評価状況の表示の意味	53
4.3 受講者の自己評価の確認	54
4.3.1 学修成果指標別の自己評価の確認	55
4.3.2 複数の評価指標に関連する自己評価の確認	59
4.4 学修成果評価	60
4.4.1 学修成果指標別の評価	61
4.4.2 複数の学修成果指標に関連する「コメント」の投稿	67
4.5 学修成果評価結果の返却	71
4.5.1 学修成果指標別の評価の完了確認	71
4.5.2 学修成果指標当該レベルの合否判定	71
4.6 学修成果評価状況の確認	74
4.6.1 学修成果評価状況の確認	74

## 1 学修成果情報共有システム利用環境

### 1.1 学修成果情報共有システムの目的

学修成果情報共有システムは、自分が学校で学び身につけた知識や技術が、国際的に通用する資格枠組のレベル定義(レベルディプロマ)の指標に適合していることを確認するものである。

自分が学んでいる学校・学科・コース・学年に応じて目標とする資格枠組のレベルを設定し、設定した目標の資格枠組のレベル定義の各指標に対して、次の作業を実施することで資格枠組のレベルに適合していることを確認する。

- ① 指標に適合していることに対する受講者自身の自己評価 (資格枠組のレベル定義の各指標に対して繰り返し実施)
- ② 受講者から教員に対する自己評価の提出
- ③ 受講者の自己評価に対する教員による評価 (資格枠組のレベル定義の各指標に対して繰り返し実施)
- ④ 教員による評価結果の受講者への返却
- ⑤ 受講者による自己の学修成果(ポートフォリオ)の公開

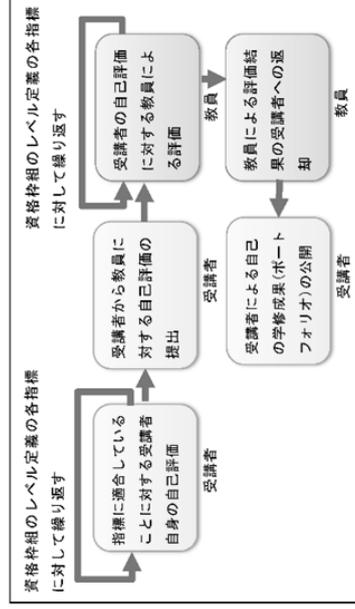


図 1 学修成果情報共有システムの流れ

## 1.2 学修成果情報共有システム

学修成果情報共有システムは、Mahara（マハラ）というオープンソースの e-ポートフォリオシステムを基って構築されている。

Mahara Web サイト： <https://mahara.org/>



図 2 Mahara Web サイト

## 1.3 利用環境

本書での説明は、次の環境であることを前提とした画面キャプチャ等を利用している。

- Windows10 の PC
- Windows10 上で動作するブラウザ(Chrome)

Mahara は Web サーバ上で動作する Web アプリケーションであるため、上記以外の環境であっても、インターネットに接続しておりブラウザが利用可能な環境であれば、Chrome 以外のブラウザや、Mac OS やスマートフォンを利用した場合でも同様の操作が

可能である。

## 1.4 学修成果情報共有システムの概要

### 1.4.1 スマートエビデンス

「資格枠組のレベル定義」により定義されたレベル1から8までの各レベルに相当する能力を、職種・分野ごとに細分化した「学修成果指標」をシステム上で表現したものである。

「学修成果指標」の指標ごとに、その到達状況を自己評価し、さらに教員による学修的評価を行い、指標への到達度を評価する。

図 3 学修成果指標(動物分野-認定動物看護師職種)

2021年度動物分野認定動物看護師職権字修成票指標レベル4

動物看護師職権字修成票の指標レベル4は、以下のとおりです。

- 1. 動物看護師職権字修成票の指標レベル4は、以下のとおりです。
- 2. 動物看護師職権字修成票の指標レベル4は、以下のとおりです。
- 3. 動物看護師職権字修成票の指標レベル4は、以下のとおりです。
- 4. 動物看護師職権字修成票の指標レベル4は、以下のとおりです。
- 5. 動物看護師職権字修成票の指標レベル4は、以下のとおりです。
- 6. 動物看護師職権字修成票の指標レベル4は、以下のとおりです。
- 7. 動物看護師職権字修成票の指標レベル4は、以下のとおりです。
- 8. 動物看護師職権字修成票の指標レベル4は、以下のとおりです。
- 9. 動物看護師職権字修成票の指標レベル4は、以下のとおりです。
- 10. 動物看護師職権字修成票の指標レベル4は、以下のとおりです。

動物看護師職権字修成票の指標レベル4は、以下のとおりです。

指標レベル4	動物看護師職権字修成票の指標レベル4
動物看護師職権字修成票の指標レベル4	動物看護師職権字修成票の指標レベル4

図 4 スマートエビデンス

### 1.4.2 インスタティテューション

「インスタティテューション」は、同じ職種・分野の学修をする集団を示し、学修成果情報共有システム上では、「インスタティテューション」は1つの学修集団を示し、特定の学校の特定の学科・コースの特定の学年といった、1つのクラスと同等の扱いとなる。

受講者の場合は、「インスタティテューション」は1つのクラスを示すが、教員の場合は複数のクラスを相当することが通常であることから、受講者とは別の、学校単位の「インスタティテューション」に所属する。

1つのインスタティテューションには、複数のスマートエビデンスを関連付け評価することができ、

Mahara の仕様上、インスタティテューション名は半角英小文字、半角数字だけが利用できる。

※2021年10月1日現在の Mahara Ver.21.01 での仕様

インスタティテューションを管理する

インスタティテューション	名称	メンバー	グループ	管理者
2019ac11grade	2019ac11grade	5	0	0
2019ac20grade	2019ac20grade	5	0	0
2019myakajpet1grade	2019myakajpet1grade	5	0	0
2019myakajpet2grade	2019myakajpet2grade	5	0	0
2020animalnursframewo1template	2020animalnursframewo1template	6	2	0
insteacher	insteacher	3	0	0
myakajpetteacher	myakajpetteacher	3	0	0
qphk021	qphk021	11	0	0
qphk020	qphk020	6	0	0
No Institution	maluk	2	0	2

図 5 インスタティテューション

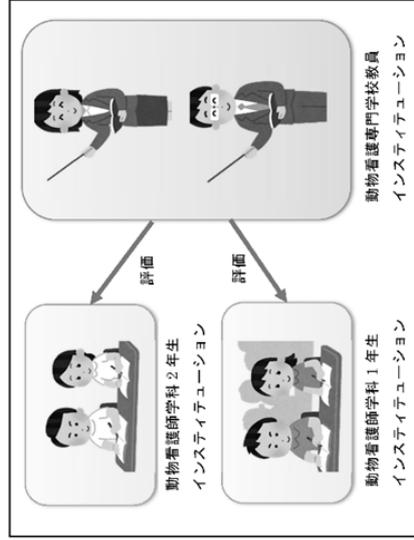
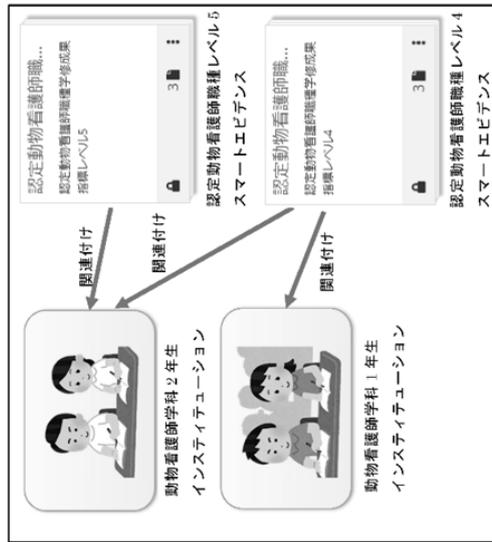


図 6 インスタティテューション分単位



### 1.4.3 グループ

「グループ」は、特定の特性を持った集団を示す、学修成果情報共有システム上では、「グループ」は学修する側と評価する側を1つにまとめた集団を示し、特定の学校の特定の学年の学生の受講者および教員といった集団と同等の扱いとなる。

一般に、一人の受講者は一つのグループに所属し、一人の教員は複数のグループに所属する。

グループ内では、「メンバ―」と「チュ―ター」の2つの役割が存在する。

「メンバ―」は評価される立場であり、受講者は「メンバ―」の役割が割り当てられる。「チュ―ター」は評価する立場であり、教員は「チュ―ター」の役割が割り当てられる。Mahara の仕様上、グループ名は半角英小文字、半角数字、「\_」「\_」だけが利用できる。

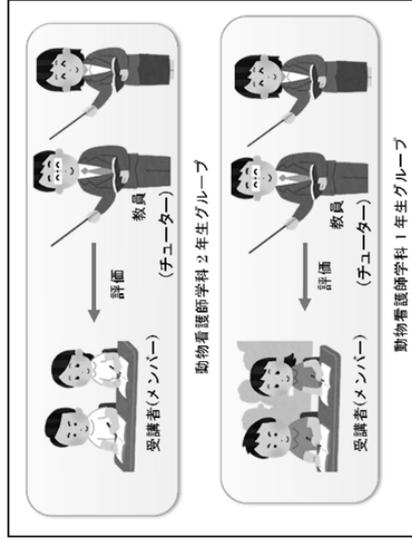
※2021年10月1日現在の Mahara Ver.21.04 での仕様

### グループを管理する

検索: 全てのインスタティセッション グループカテゴリ: 全てのインスタティセッション 検索

グループ名	グループ	役割	グループカテゴリ	作成者	作成日時	グループタイプ	グループ説明	グループ説明	グループ説明	グループ説明
2019秋 1st grade	2019秋 1st grade	メンバ―	コース 1	2019秋 1st grade	2019秋 1st grade	コース 1	動物看護学科1年生	動物看護学科1年生	動物看護学科1年生	動物看護学科1年生
2019秋 2nd grade	2019秋 2nd grade	メンバ―	コース 2	2019秋 2nd grade	2019秋 2nd grade	コース 2	動物看護学科2年生	動物看護学科2年生	動物看護学科2年生	動物看護学科2年生
2019春 1st grade	2019春 1st grade	メンバ―	コース 1	2019春 1st grade	2019春 1st grade	コース 1	動物看護学科1年生	動物看護学科1年生	動物看護学科1年生	動物看護学科1年生
2019春 2nd grade	2019春 2nd grade	メンバ―	コース 2	2019春 2nd grade	2019春 2nd grade	コース 2	動物看護学科2年生	動物看護学科2年生	動物看護学科2年生	動物看護学科2年生
2020秋 1st grade	2020秋 1st grade	メンバ―	コース 1	2020秋 1st grade	2020秋 1st grade	コース 1	動物看護学科1年生	動物看護学科1年生	動物看護学科1年生	動物看護学科1年生
2020秋 2nd grade	2020秋 2nd grade	メンバ―	コース 2	2020秋 2nd grade	2020秋 2nd grade	コース 2	動物看護学科2年生	動物看護学科2年生	動物看護学科2年生	動物看護学科2年生
2021春 1st grade	2021春 1st grade	メンバ―	コース 1	2021春 1st grade	2021春 1st grade	コース 1	動物看護学科1年生	動物看護学科1年生	動物看護学科1年生	動物看護学科1年生
2021春 2nd grade	2021春 2nd grade	メンバ―	コース 2	2021春 2nd grade	2021春 2nd grade	コース 2	動物看護学科2年生	動物看護学科2年生	動物看護学科2年生	動物看護学科2年生

図 8 グループ



## 2 学修成果情報共有システムのユーザーザ環境

### 2.1 ログイン・ログアウト

#### 2.1.1 学修成果情報共有システムへのログイン

- ① ブラウザから、学修成果情報共有システムのサイトを表す学修成果情報共有システムサイト  
<https://competency.qaphe.com/>



図 10 QRコード



図 11 学修成果情報共有システムサイト

- ② 「ユーザー名(ユーザーID)」、「パスワード」を入力し、「ログイン」ボタンをクリック

※ 「ユーザー名」は「ユーザーID」のことである。

- ※ パスワードには、「大文字」、「小文字」の区別がある。
- ※ 「ユーザー名」、「パスワード」ともに半角文字を入力する。

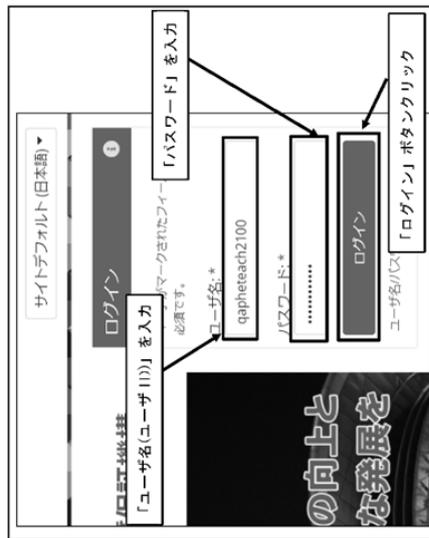


図 12 ログイン情報を入力

- ③ ログイン完了



図 13 ログイン完了

### 2.1.2 学修成果情報共有システムからのログアウト

- ① 画面右上の「アカウントメニュー」アイコンをクリック

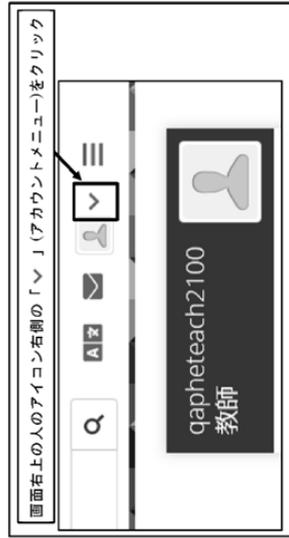


図 14 画面右上の「アカウントメニュー」アイコンをクリック

- ② 「ログアウト」をクリック



図 15 「ログアウト」をクリック

- ③ ログアウト完了



図 16 ログアウト完了

## 2.2 パスワードを忘れた場合

パスワードを忘れた場合にパスワードのリセットをするためには、学修成果情報共有システムにあらかじめ自分のメールアドレスを設定しておく必要がある。  
自分のメールアドレスを設定していない状態でパスワードがわからなくなった場合は、担当の教員に連絡する。

### 2.2.1 パスワードのリセット

- ① 「ユーザー名がパスワード喪失」をクリック

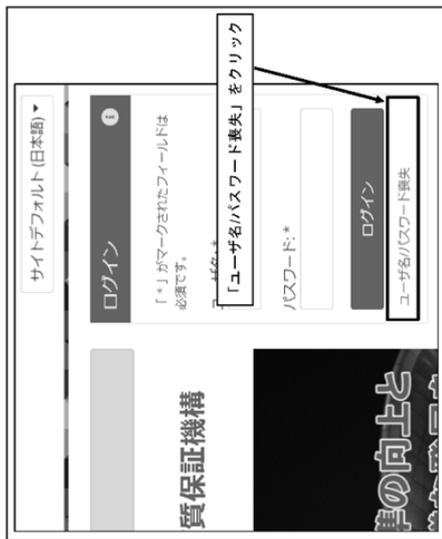


図 17 「ユーザー名/パスワード喪失」をクリック

- ② 「メールアドレス」または「ユーザー名(ユーザー ID)」を入力して「リクエストを送信する」ボタンをクリック

※ 「ユーザー名」は「ユーザー ID」のことである。

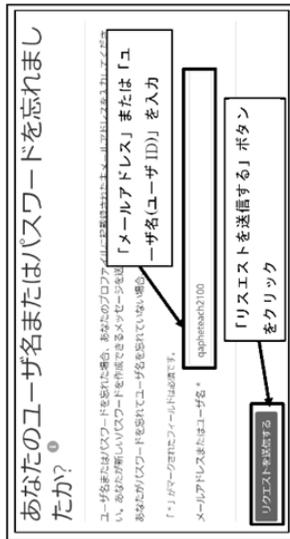


図 18 「メールアドレス」または「ユーザー名」を入力して「リクエストを送信する」

- ③ パスワードリセット用メール送信メッセージを確認



図 19 パスワードリセット用メール送信メッセージを確認

- ④ パスワードリセット用メールのリンクをクリック

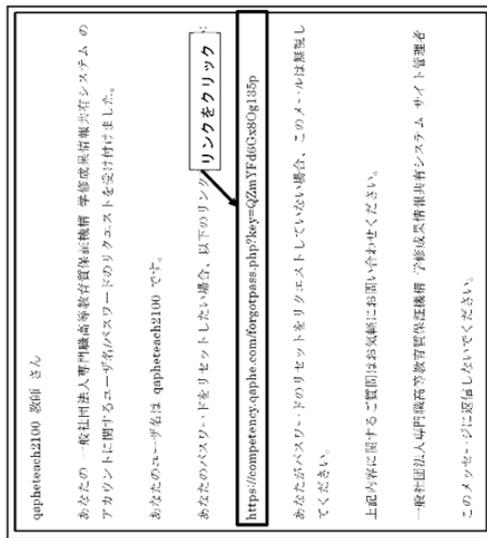


図 20 パスワードリセット用メールのリンクをクリック

- ⑤ 新しいパスワードを 2 箇所に入力し、「変更」ボタンをクリック

※パスワードの文字数は 8 文字以上である必要がある。

※パスワードには、漢字、小文字、大文字、特殊文字(＃のような文字)をすべて含む必要がある。

※パスワードのリセット用メールが送信されてから、30分以内に処理を行う。



図 21 新しいパスワードの入力

⑥ パスワードのリセット完了



図 22 パスワードリセット完了

## 2.3 学修成果情報共有システムの画面

### 2.3.1 ダッシュボード

ログインした直後に表示されている画面を、「ダッシュボード」と呼ぶ。自分に対して共有されている情報に対する変更や、自分に対して送信されたメッセージなど、ユーザーに必要な情報が表示される。

① ダッシュボード

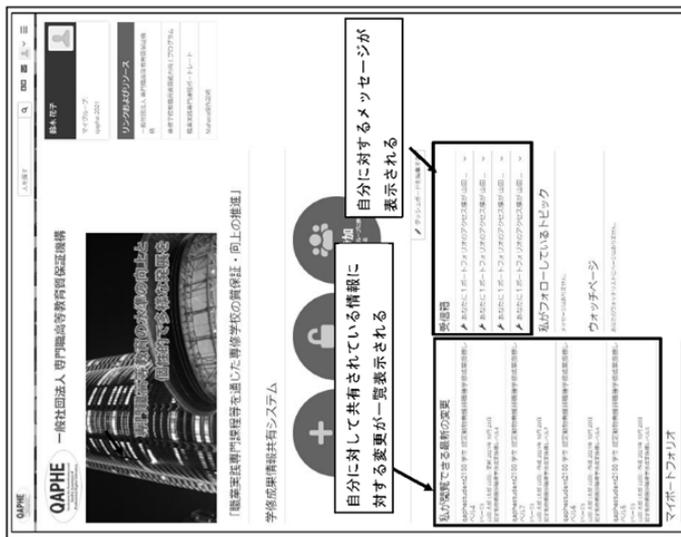


図 28 ダッシュボード

## 2.4 プロファイルの設定

- ユーザーのプロファイル(氏名やメールアドレス)を設定する。
- ※学籍成果情報共有システムを使い始めたら、すぐに自分のメールアドレスと氏名を選択すること。
- ※氏名は本姓を、メールアドレスは自分が毎日見るメールアドレスを設定すること。
- ※自分が毎日見るメールアドレスが存在しない場合は、メールアドレスの変更はしなく

でも良いが、本読研書で利用される各種通知メールは届かない。

### 2.4.1 氏名の設定

- ① 画面右上の「アカウントメニュー」アイコンをクリック

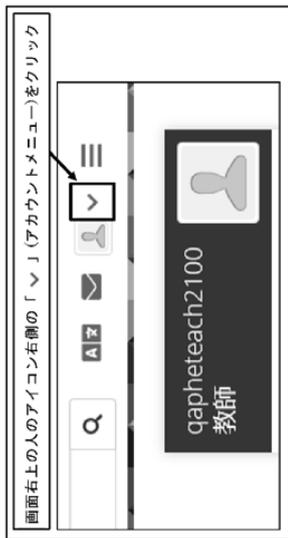


図 24 画面右上の「アカウントメニュー」アイコンをクリック

- ② 「プロフィール」をクリック



図 25 「プロフィール」をクリック

- ③ 「氏名」、「学籍番号(従業員番号等)」を入力

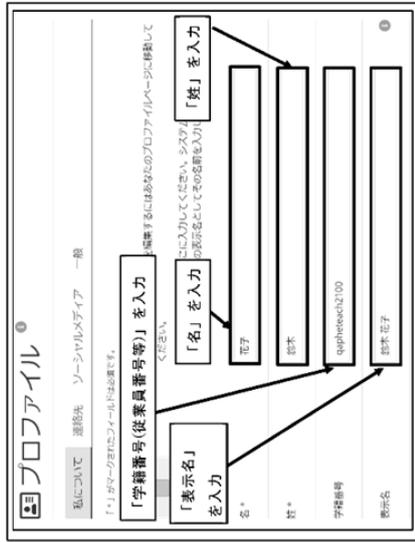


図 26 「氏名」、「学籍番号(従業員番号等)」を入力

① 「自己紹介」を入力し、「プロフィールを保存する」ボタンをクリック

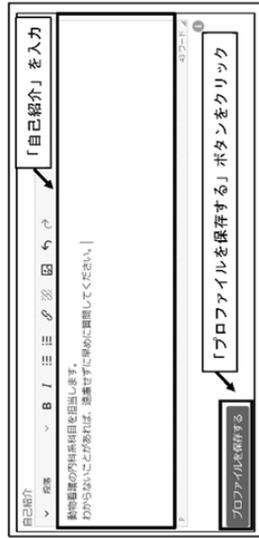


図 27 「自己紹介」を入力し、「プロフィールを保存する」ボタンをクリック

② プロフィールが保存される

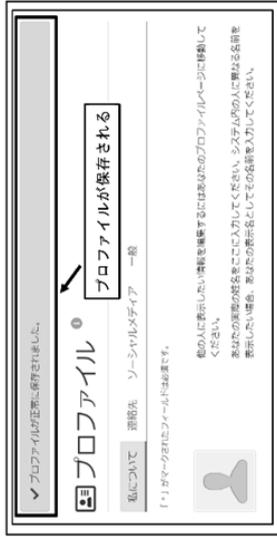


図 28 プロフィールが保存される

## 2.4.2 メールアドレスの設定

① 画面右上の「アカウントメニュー」アイコンをクリック

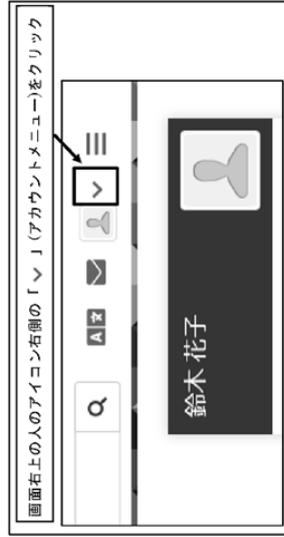


図 29 画面右上の「アカウントメニュー」アイコンをクリック

② 「プロフィール」をクリック



図 30 「プロフィール」タブをクリック

③ 「連絡先」タブをクリック



図 31 「連絡先」タブをクリック

④ 「メールアドレスを追加する」ボタンをクリック



図 32 「メールアドレスを追加する」ボタンをクリック

⑤ 「メールアドレス」を入力し、「追加」ボタンをクリック



図 33 「メールアドレス」を入力し、「追加」ボタンをクリック

⑥ 「プロフィールを保存する」ボタンをクリック

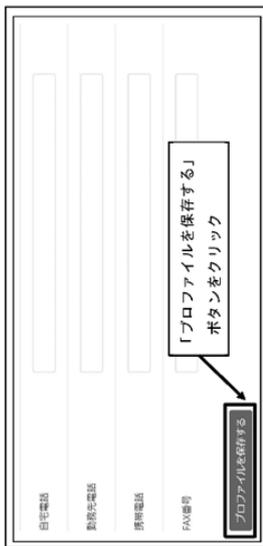


図 34 「プロフィールを保存する」ボタンをクリック

⑦ プロファイルが保存され、確認メールが送信される

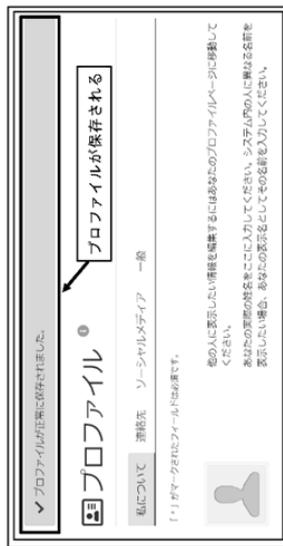


図 35 プロファイルが保存され、確認メールが送信される

⑧ メールアドレス追加確認メールを受信し、メール内の有効化リンクをクリック

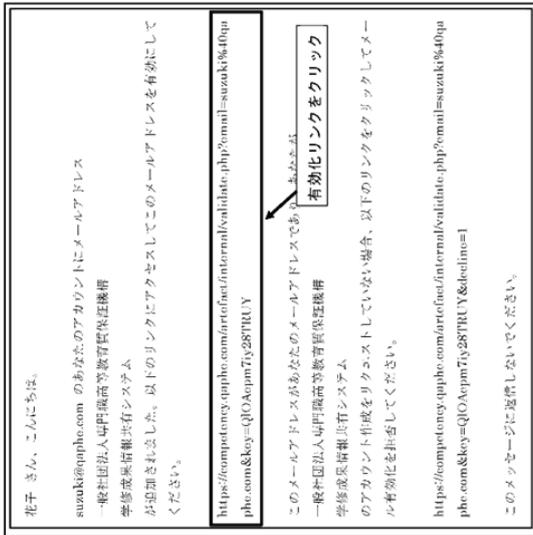


図 36 メールアドレス追加確認メール内の有効化リンクをクリック

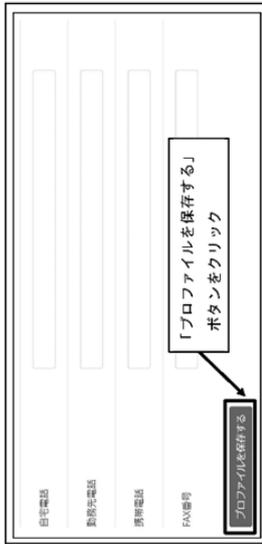
⑨ メールアドレスの有効化確認



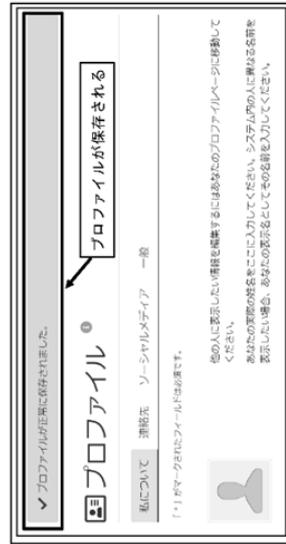
⑩ メインのメールアドレス変更  
自分のメールアドレスのラジオボタンを「オン」に設定する。



⑪ 「プロフィールを保存する」ボタンをクリック



⑫ プロファイルが保存される



⑬ 「連絡先」タブをクリック

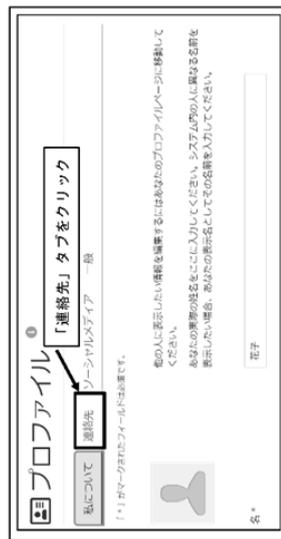


図 41 「連絡先」タブをクリック

⑩ 不要なメールアドレスの「ゴミ箱」アイコンをクリック

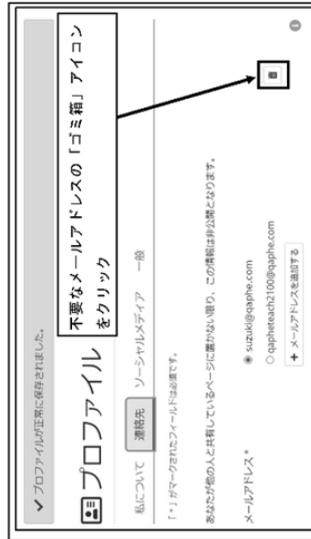


図 42 不要なメールアドレスの「ゴミ箱」アイコンをクリック

⑪ 「プロフィールを保存する」ボタンをクリック

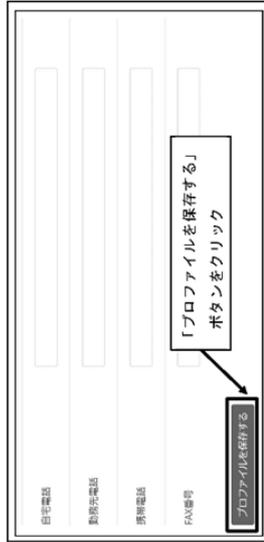


図 43 「プロフィールを保存する」ボタンをクリック

⑫ プロファイルが保存される

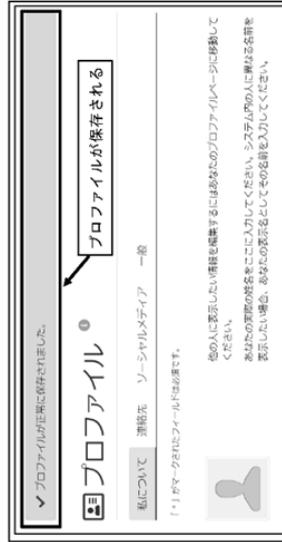


図 44 プロファイルが保存される

### 3 学修成果情報共有事前準備の確認

受講者が学修成果の人力を開始する前、事前準備として受講者のコネクションがグループのチャーターに含めて共有されていることの確認を行う。

#### 3.1 「コネクション」とは

「コネクション」は、「スワートエビデンス」を部々の受講者用にコピーしたものである。受講者は、「コネクション」に対して学修成果の入力を行う。受講者が、自分の「コネクション」を共有するグループのチャーターに対して共有することで、教員は受講者の「コネクション」を確認することができるようになる。受講者が、学修成果の人力を開始する前に、事前準備として自分のコネクションを共有していることを確認しておく必要がある。

#### 3.2 受講者からの「コネクション」共有確認

教員は、自分の担当する受講者が、「コネクション」をグループのチャーターに対して共有していることを確認しておく必要がある。

##### 3.2.1 「コネクション」共有のメール通知確認

受講者が「コネクション」を共有すると、共有した相手のメールアドレス宛に通知メールが送信される。

通知メールを確認することで、受講者の「コネクション」が共有されたことを確認する。

- ① 事前に「学修成果情報共有システム」にログインしておく
- ② 受講者が「コネクション」を共有したことを伝える通知メールを確認

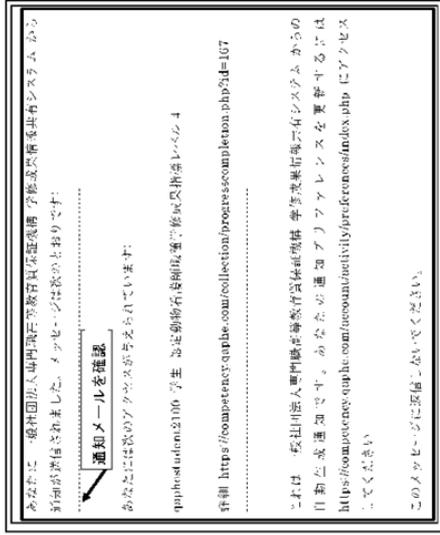


図 45 受講者が「コネクション」を共有したことを伝える通知メールを確認

- ③ 通知メールの共有へのリンクをクリック

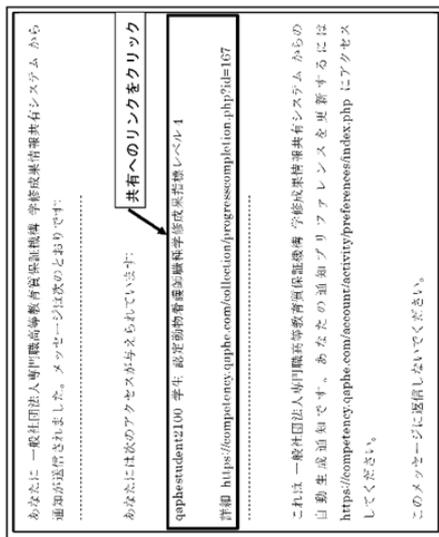


図 46 通知メールの共有へのリンクをクリック

① 受講者の共有した「コレクション」が表示される



図 47 受講者の共有した「コレクション」が表示される

3.2.2 「受信箱」の通知確認

受講者が「コレクション」を共有すると、ダッシュボードの「受信箱」に通知が表示される。

① ダッシュボードの「受信箱」の通知を確認

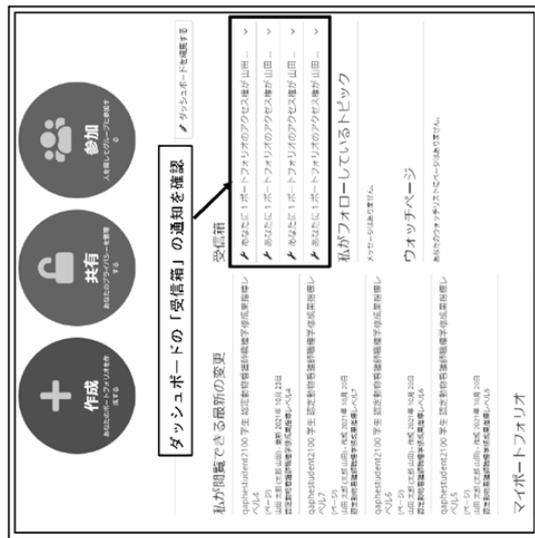


図 48 ダッシュボードの「受信箱」の通知を確認

② 詳細を確認する「通知」をクリック

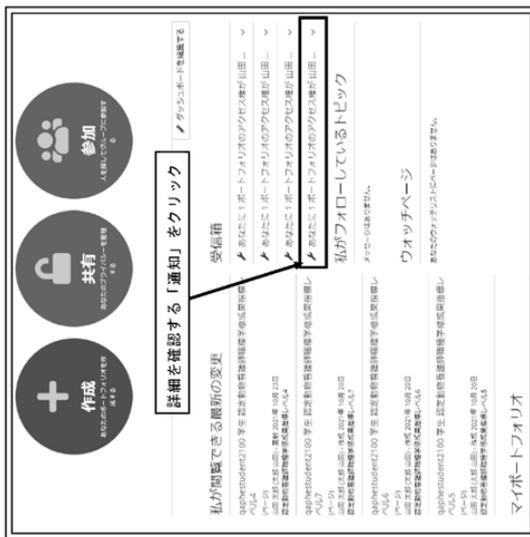


図 49 詳細を確認する「通知」をクリック

③ 「通知」の詳細が表示される

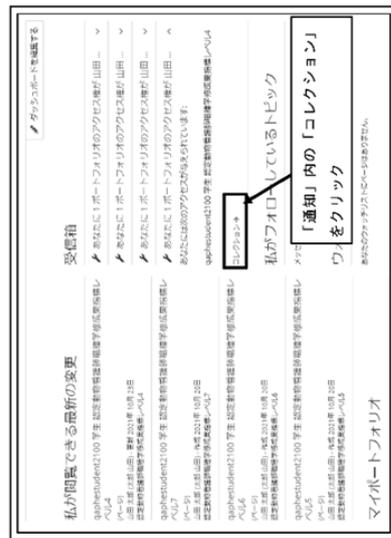


図 51 「通知」内の「コレクション」をクリック

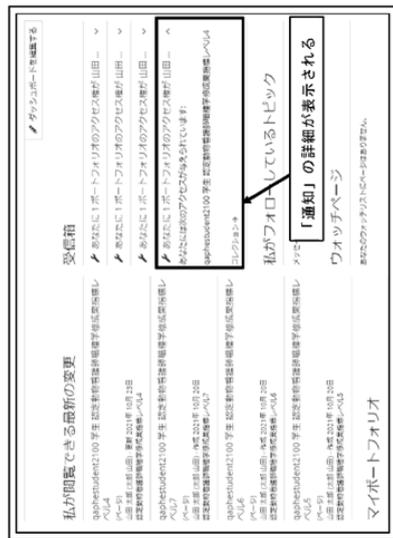


図 50 「通知」の詳細が表示される

④ 「通知」内の「コレクション」をクリック

- ② 受講者の共有した「コレクション」が表示される



図 52 受講者の共有した「コレクション」が表示される

### 3.2.3 自分への共有確認

教員が、自分に対して共有された「コレクション」を確認する。

- ① 「メインメニュー」をクリック



図 53 「メインメニュー」をクリック

- ② 「共有」をクリック

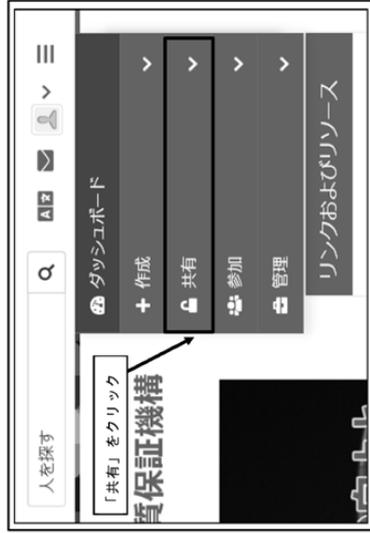


図 54 「共有」をクリック

- ③ 「私への共有」をクリック

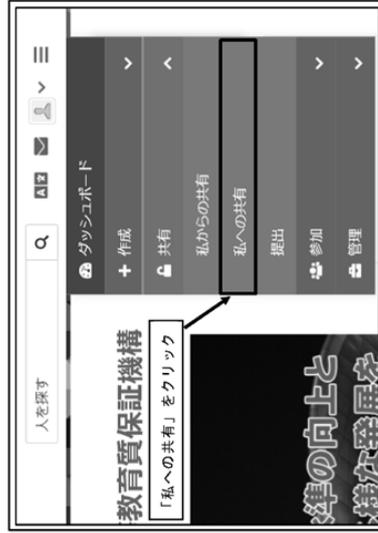


図 55 「私への共有」をクリック

- ④ 自分に対して共有された「コレクション」が一覧表示される

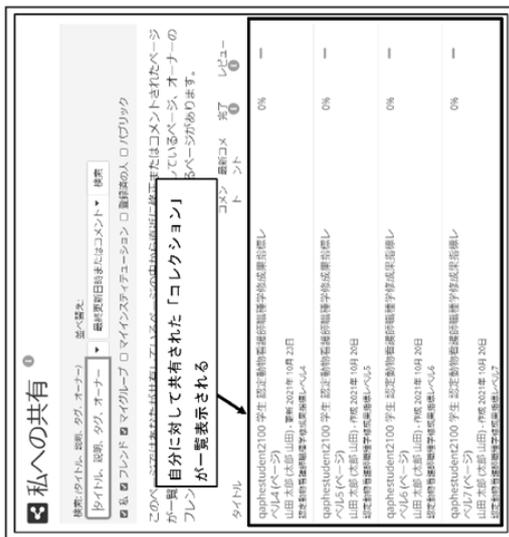


図 56 自分に対して共有された「コレクション」が一覧表示される

- ⑤ 「コレクション」をクリック



図 58 受講者の共有した「コレクション」が表示される

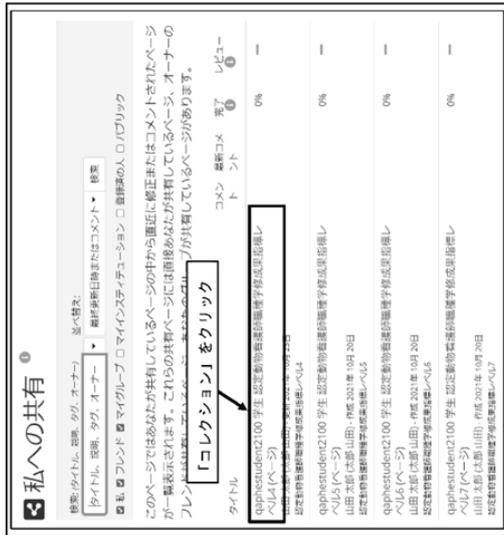


図 57 「コレクション」をクリック

- ⑥ 受講者の共有した「コレクション」が表示される

## 4 学修成果評価

受講者が身につけた知識や技術が、国際的に通用する資格枠組のレベル定義(レベルディスタクリプター)の様々な指標に合致しているか、合致していないかを評価する。

### 4.1 受講者から提出された自己評価の確認

受講者から教員に対して提出された自己評価を確認する。

※受講者から教員に対して自己評価を提出してから、教員が確認できるようになるまでに10分程度の時間を要する。(バックグラウンドでデータ受け渡しの処理が行われる)

次のいずれかの方法で、受講者が共有した自己評価を表示する。

※本来は自己評価を表示できるはずの方法が、一部については機能していない。

※2021年10月1日現在の Mahara Ver.21.04 での仕様

#### 4.1.1 自己評価の提出通知メールの確認

受講者から自己評価が提出されると、提出されたグループのチャーター(教員)に対して、自己評価の提出を通知するメールが送信される。

- ① 事前に「学修成果情報共有システム」にログインしておく
- ② 受講者が自己評価を提出したことを伝える通知メールを確認

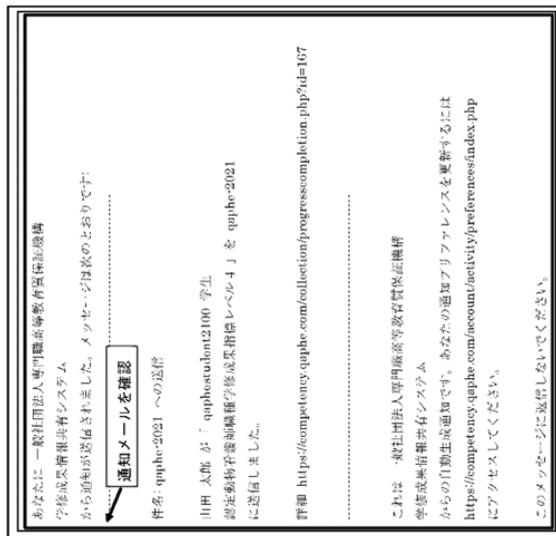


図 69 受講者が自己評価を提出したことを伝える通知メールを確認

- ③ 通知メールの詳細へのリンクをクリック

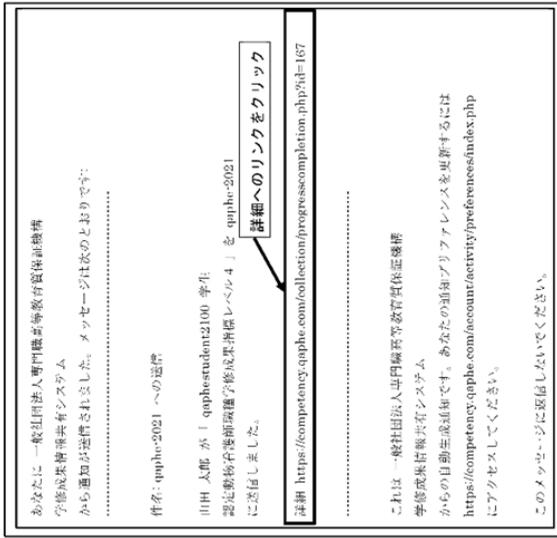


図 60 通知メールの詳細へのリンクをクリック

④ 受講者の共有した自己評価が表示される



図 61 受講者の共有した自己評価が表示される

#### 4.1.1.2 「受信箱」の通知確認

受講者が自己評価を共有すると、ダッシュボードの「受信箱」に通知が表示される。

① ダッシュボードの「受信箱」の通知を確認

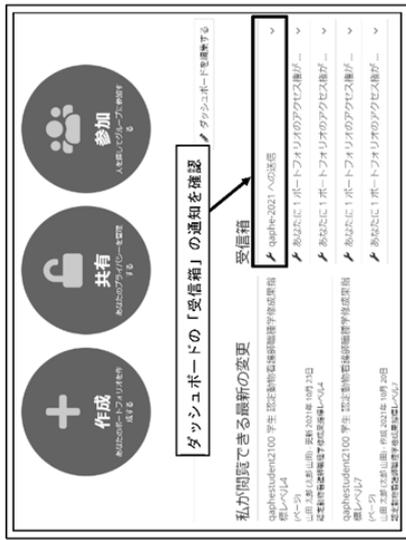


図 62 ダッシュボードの「受信箱」の通知を確認

② 詳細を確認する「通知」をクリック

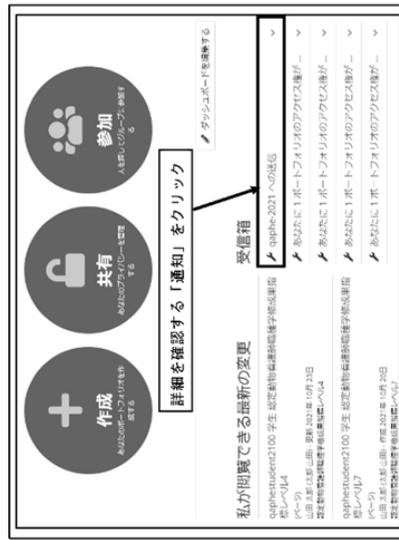


図 63 詳細を確認する「通知」をクリック

③ 「通知」の詳細が表示される

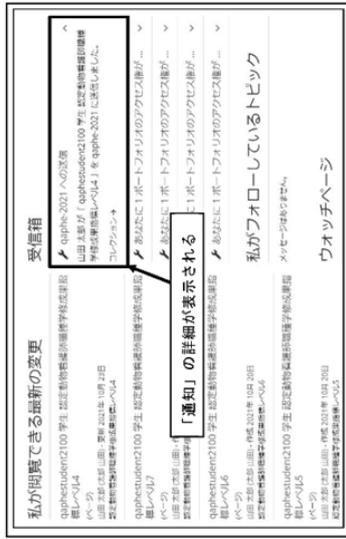


図 64 「通知」の詳細が表示される

④ 「通知」内の「コレクション」をクリック

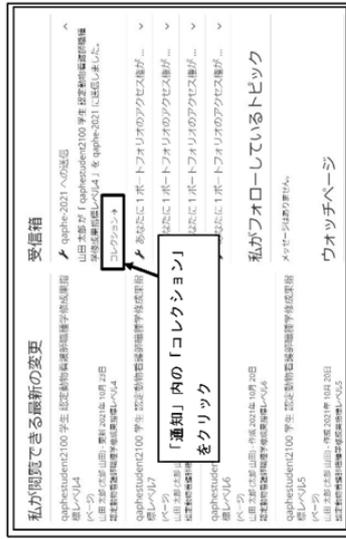


図 65 「通知」内の「コレクション」をクリック

⑤ 受審者の共有した自己評価が表示される



図 66 受講者の共有した自己評価が表示される

#### 4.1.3 自分への提出確認

教員が、自分に対して提出された自己評価を確認する。  
 ※本手順で自分への提出を一覧表示することは可能であるが、自己評価の詳細を表示する機能は正常動作していないため、操作は一覧表示までにとどめる。

※2021年10月1日現在の Mahara Ver.21.04 での仕様

- ① 「メインメニュー」をクリック



図 67 「メインメニュー」をクリック

- ② 「共有」をクリック

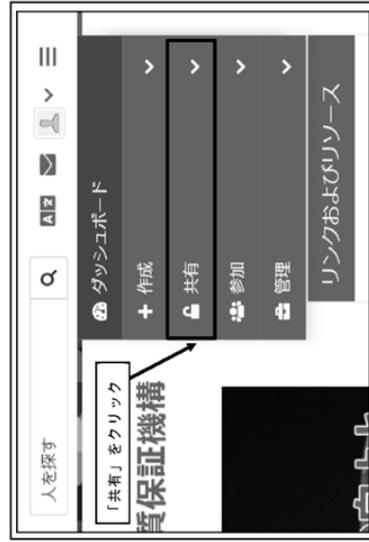


図 68 「共有」をクリック

- ③ 「提出」をクリック

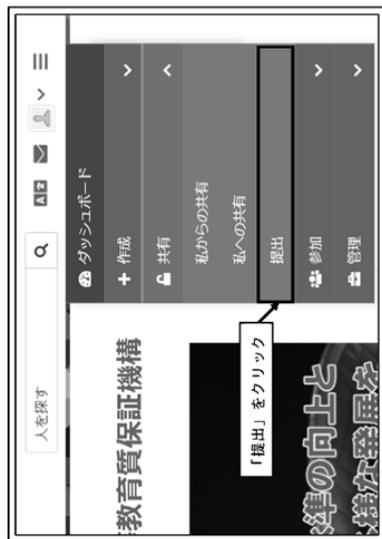


図 69 「提出」をクリック

① 自分に対して提出された自己評価が一覧表示される

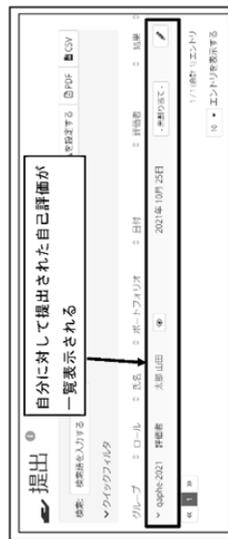


図 70 自分に対して提出された自己評価が一覧表示される

#### 4.1.4 グループへの送信確認

教員が、自分が所属するグループに対して送信された自己評価を確認する。

① 「メインメニュー」をクリック



図 71 「メインメニュー」をクリック

② 「参加」をクリック

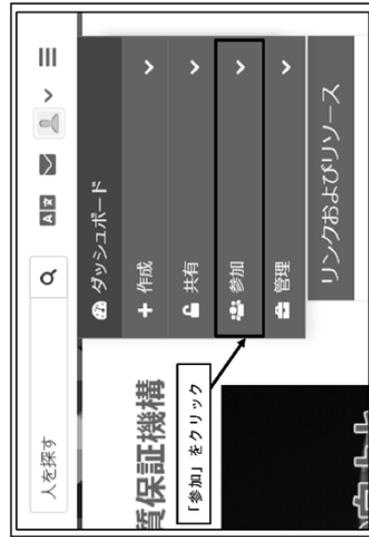


図 72 「参加」をクリック

③ 「グループ」をクリック

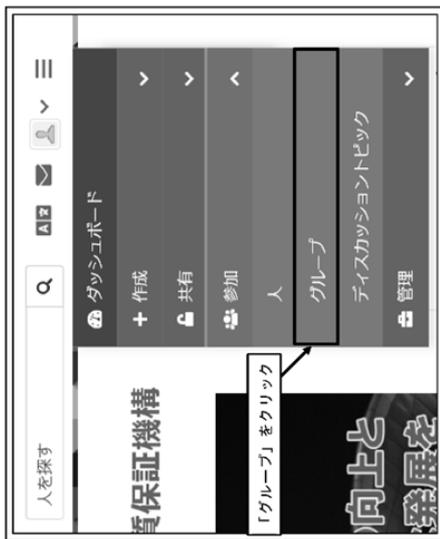


図 73 「グループ」をクリック

- ① 自分が参加しているグループが 一覧表示される



図 74 自分が参加しているグループが一覧表示される

- ⑤ 送信された自己評価を確認するグループ名をクリック

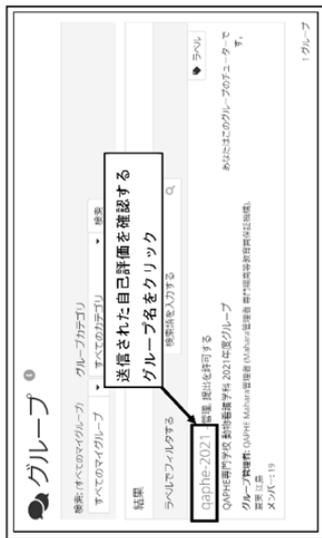


図 75 送信された自己評価を確認するグループ名をクリック

- ⑥ 「このグループへの送信」が表示される、送信された自己評価を確認

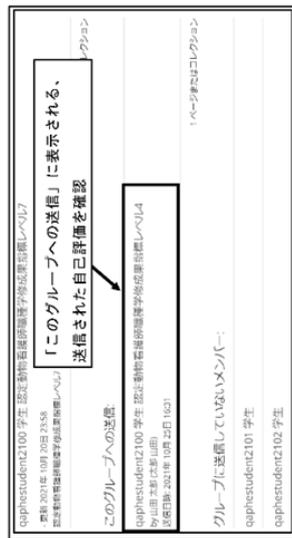


図 76 「このグループへの送信」が表示される、送信された自己評価を確認

- ⑦ 送信された自己評価をクリック

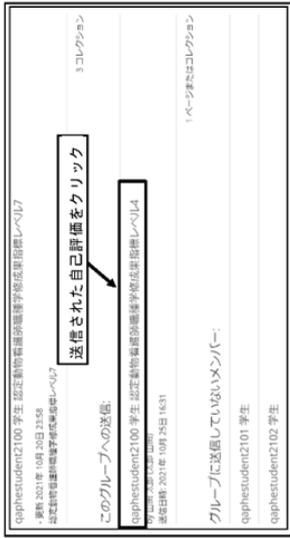


図 77 送信された自己評価をクリック

⑧ グループに送信された自己評価が表示される



図 78 グループに送信された自己評価が表示される

## 4.2 学修成果指標の確認

資格枠組のレベル定義(レベルデイスクリプター)のレベルごとの、学修成果指標を確認する。

※事前に、前節のいずれかの方法で、提出された自己評価を表示しておく。

### 4.2.1 学修成果指標の確認

評価を行うレベルの学修成果指標を確認する。

① 「次のページ」ボタンをクリック



図 79 「次のページ」ボタンをクリック

② 当該レベルに求められる成果の概要、学習者プロフィールの確認

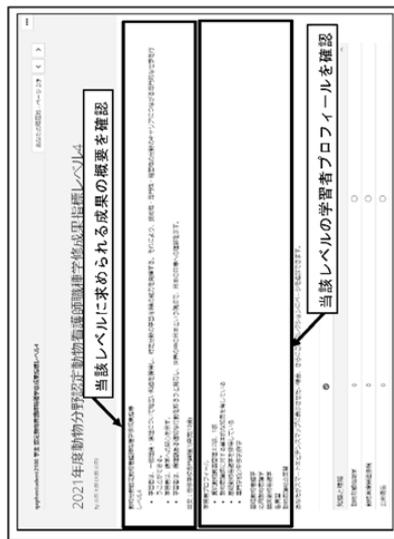


図 80 当該レベルに求められる成果の概要、学習者プロフィールの確認

- ③ 学修成果指標の各項目の説明を確認  
学修成果指標の各項目の文字の上でマウスを停止させることで、各項目の説明を表示する。

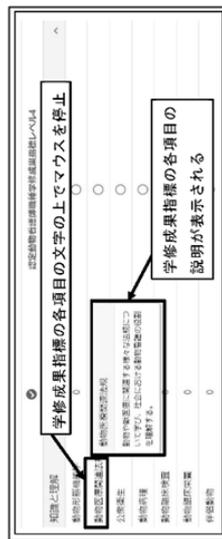


図 81 学修評価指標の各項目の説明を確認

#### 4.2.2 学修成果指標の各項目の評価状況の確認

学修成果指標の各評価項目の評価状況を確認する。

- ① 「次のページ」ボタンをクリック



図 82 「次のページ」ボタンをクリック

- ② 学修成果指標の各項目の評価状況の確認

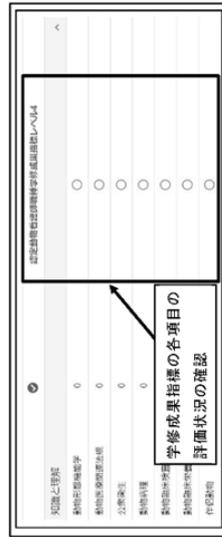


図 83 学修評価指標の各項目の評価状況の確認

#### 4.2.3 学修成果指標の評価状況の表示の意味

- ① 学修成果指標の各項目の評価状況の表示

学修成果指標の各項目の 評価状況の表示	
成果指標、対象動物の性質	0
飼い主の権利	1
獣医師の診断結果と畜種にお ける問題点に対する理解	1
疫外運搬	0
臨床における疑問・不確実な 知識・技術の追求と研鑽	0
汎用的な技能	0
成果のとりまとめ技能	0
研究の基礎知識を継承する技 能	0

図 84 学修評価指標の各項目の評価状況の表示

② 学修成果指標の各項目の評価状況の表示の意味

表が	意味
● (灰色のドット)	自己評価が未入力
○ (輪郭が灰色の白い丸)	自己評価が入力済 教員による評価が未完了
● (緑の丸の中の白い✓印)	教員による評価の結果、評価基準を満たし ていると評価された
● (赤い丸の中の白い×印)	教員による評価の結果、評価基準を満たし ていないと評価された
● (輪郭が黄色い丸の中の半円)	教員による評価の結果、評価基準を部分的 に満たしていると評価された

図 85 学修評価指標の各項目の評価状況の表示の意味

## 4.3 受講者の自己評価の確認

受講者が提出した自己評価を確認する。

※事前に、提出された自己評価を表示しておく。

### 4.3.1 学修成果指標別の自己評価の確認

学修成果指標の各評価指標別に、受講者が提出した自己評価を確認する。

① 「次のページ」ボタンをクリック



図 86 「次のページ」ボタンをクリック

② 「次のページ」ボタンをクリック



図 87 「次のページ」ボタンをクリック

③ 学修成果指標の各評価指標別に自己評価を確認

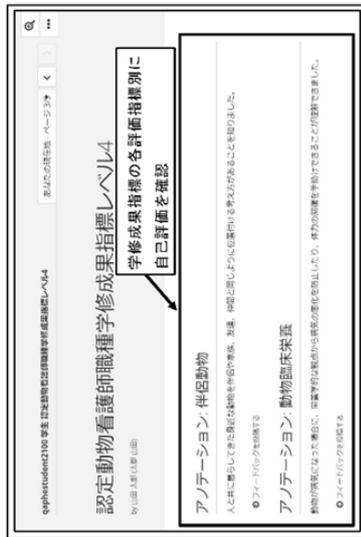


図 88 学修成果指標の各評価指標別に自己評価を確認

- ④ 「フィードバック」の有無を確認
- 学修成果指標の各成果指標の、「フィードバック」の存在の有無を確認する、フィードバックが存在する場合は、「フィードバック(1)」のように、存在する「フィードバック」の数が表示される。
- 入力を完了した学修成果の自己評価を修正する機能は、Mahara には存在しない、学修成果の自己評価の修正は、入力した自己評価に刻して「フィードバック」に補正箇所を追記することで実質的な修正を行うことから、「フィードバック」の確認が必要である。

※2021年10月1日現在の Mahara Ver.21.04 での仕様

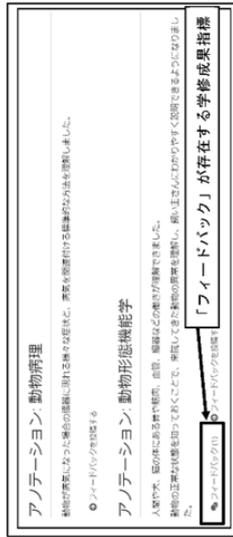


図 89 「フィードバック」の有無を確認

- ⑤ 「フィードバック」の表示
- 「フィードバック」の存在する学修成果指標の、「フィードバック(1)」のような表示をクリックする。

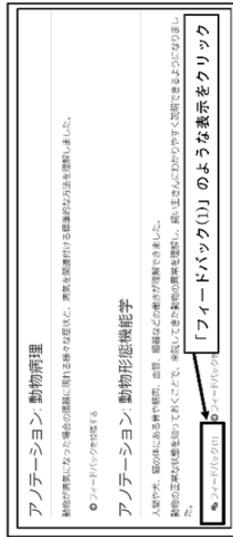


図 90 「フィードバック」の表示

- ⑥ 「フィードバック」の確認
- 表示された「フィードバック」を確認する。

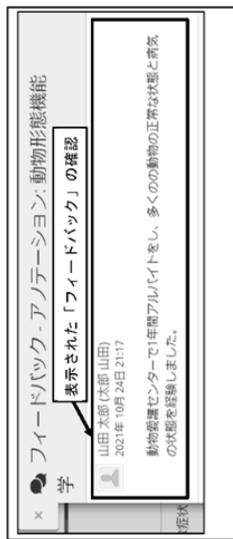


図 91 「フィードバック」の確認

- ⑦ 「フィードバック」を閉じる  
「×(閉じる)」アイコンをクリックする。

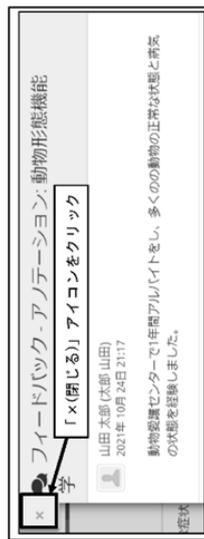


図 92 「フィードバック」を閉じる

- ⑧ 「フィードバック」が格納される

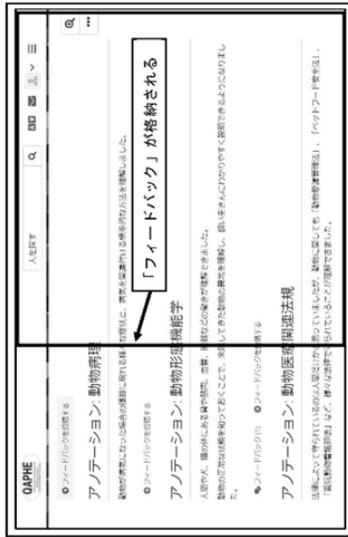


図 93 「フィードバック」が格納される

#### 4.3.2 複数の評価指標に関連する自己評価の確認

複数の成果指標に関連する自己評価やファイル添付が必要な自己評価は、資格枠組のレベル(同一レベル内の全ての評価指標)に対するコメントとして入力されている。

- ① 「次のページ」ボタンをクリック



図 94 「次のページ」ボタンをクリック

- ② 「次のページ」ボタンをクリック

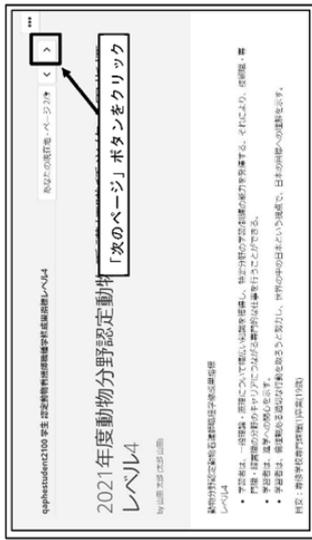


図 95 「次のページ」ボタンをクリック

③ 「コメント」を確認



図 96 「コメント」を確認

## 4.4 学修成果評価

受講者の自己評価を参考に、受講者が身につけた知識や技術が資格体系のレベル定義の指標に適合しているかどうかの評価を行う。

※事前に、提出された自己評価を表示しておく。

### 4.4.1 学修成果指標別の評価

受講者から提出された資格体系のレベル定義内の各学修成果指標に対して、評価を繰り返す。

① 「次のページ」ボタンをクリック



図 97 「次のページ」ボタンをクリック

② 学修成果指標の中から評価を行う成果指標を選択  
学修成果指標の中から、評価を行う学修成果指標の評価状況をクリックする。

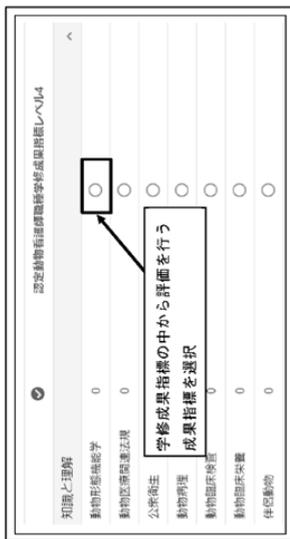


図 98 学修評価指標の中から評価を行う成果指標を選択

- ③ 学修成果指標に対する自己評価・フィードバックを確認

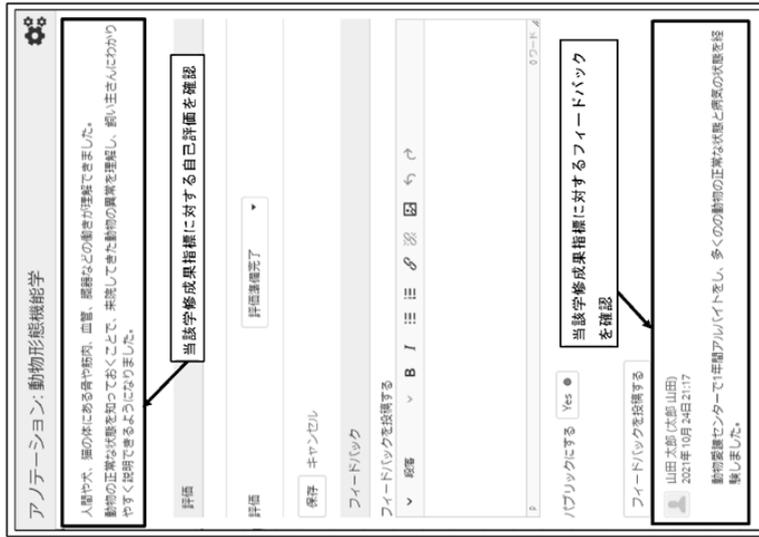


図 99 学修評価指標に対する自己評価・フィードバックを確認

- ① 教員から受講者への「フィードバック」を投稿する  
教員から受講者への「フィードバック」入力し、「フィードバックを投稿する」ボタンをクリックする。

※「フィードバック」を投稿してもシステムが無反応な場合は、先に評価の入力を行う。

※学修成果情報共有システムでポートフォリオを公開した際に、公開を希望しない「フィードバック」の場合のみ、「パブリックにする」を「No」に設定する。

アノテーション: 動物形態機能学

人間や犬、猫の体にある骨や筋肉、血管、臓器などの働きが理解できました。  
動物の正常な状態を知っておくことで、床屋してきた動物の異常を理解し、飼いさんにわかりやすく説明できるようにになりました。

評価

評価 評価準備完了

保存 キャンセル

フィードバック

フィードバックを投稿する

公開を希望しないフィードバックの場合のみ「No」に設定

「フィードバックを投稿する」ボタンをクリック

「フィードバック」が投稿される

図 100 「フィードバック」を投稿する

⑤ 「フィードバック」が投稿される

アノテーション: 動物形態機能学

フィードバック

フィードバックを投稿する

公開

パブリックにする Yes

フィードバックを投稿する

「フィードバック」が投稿される

鈴木 花子  
2021年 10月 26日 01:07  
学校で学ぶだけでなく、動物愛護センターでアルバイトをして経験をすることで、単なる知識から自分しがない技術としてスキルアップできていると感じます。

山田 太郎 (太郎 山田)  
2021年 10月 24日 21:17  
動物愛護センターで1年間アルバイトをし、多くの動物の正常な状態と病気の状態を経験しました。

図 101 「フィードバック」が投稿される

⑥ 「フィードバック」の投稿確認メールの発信  
自己評価を提出した受講者のメールアドレスに対して、「フィードバック」投稿確認メールが送信される。

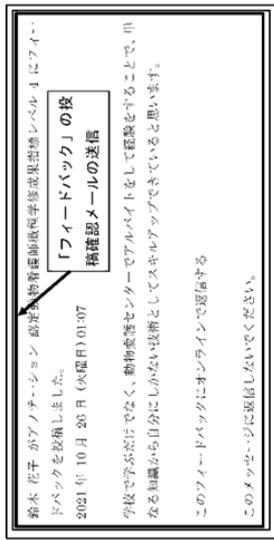


図 102 「フィードバック」の投稿確認メールの送信

- ⑦ 学修成果指標の評価の入力  
評価を、「標準に合致する」、「標準に一部合致する」、「標準に合致しない」から選択し、「保存」ボタンをクリックする。

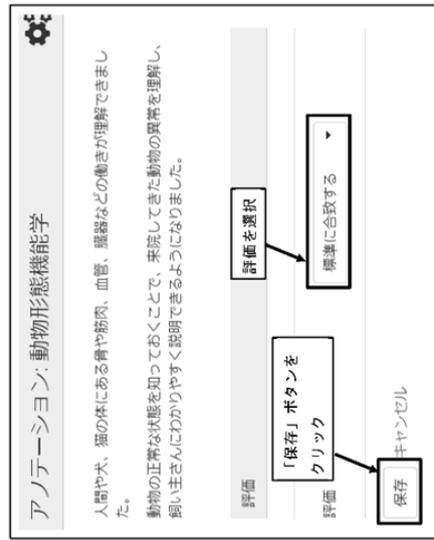


図 103 学修成果指標の評価の入力

- ⑧ 学修成果指標の評価状況が、評価に応じた表示に変わる

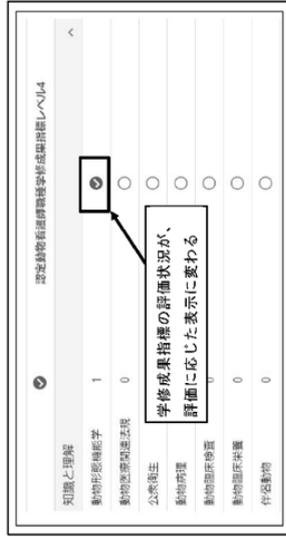


図 104 学修評価指標の評価状況が、評価に応じた表示に変わる

- ⑨ 全ての学修成果指標に対して、評価の入力を繰り返す

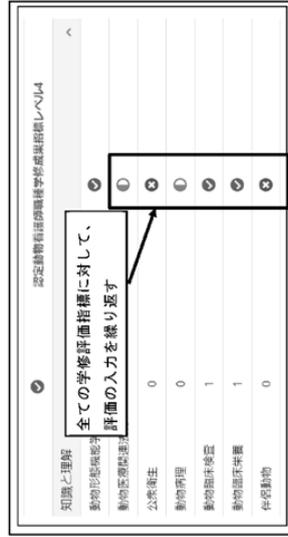


図 105 全ての学修評価指標に対して、評価の入力を繰り返す

#### 4.4.2 複数の学修成果指標に関係する「コメント」の投稿

複数の学修成果指標に関連する「コメント」やファイル添付が必要な評価は、資格枠組のレベル(同一レベル内の全ての評価指標)に対するコメントを投稿する。

- ① 「次のページ」ボタンをクリック



図 106 「次のページ」ボタンをクリック

② 「次のページ」ボタンをクリック

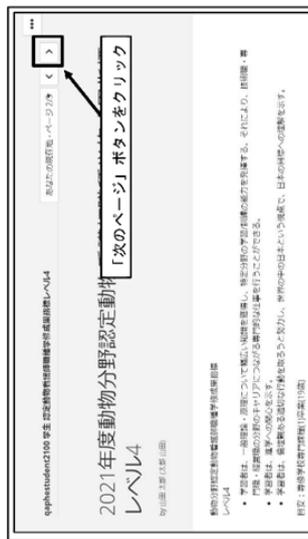


図 107 「次のページ」ボタンをクリック

③ 「コメント」を投稿  
 コメントを入力し、ファイル添付が必要な場合は「ファイルを選択」ボタンをクリックして添付するファイルを選択し、「コメント」ボタンをクリックする。  
 ※学修成果情報共有システムで受講者のポートフォリオを公開した際に、公開を希望する「コメント」の場合は「コメントをパブリックにする」を「Yes」に、公開を希望しない「コメント」の場合は「コメントをパブリックにする」を「No」に設定

する。

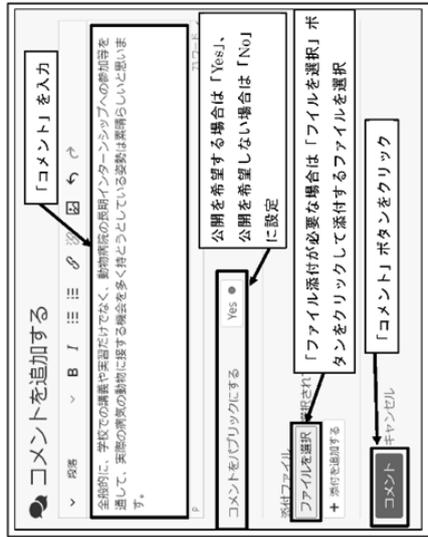


図 108 「コメント」を投稿

④ 「コメント」が投稿される



図 109 「コメント」が投稿される

- ⑤ 「コメント」の投稿確認メールの送信  
自己評価を提出した受講者のメールアドレスに対して、「コメント」投稿確認メールが送信される。

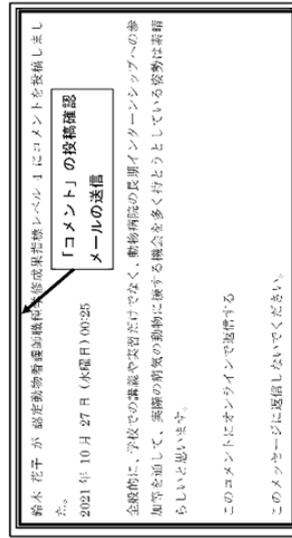


図 110 「コメント」の投稿確認メールの送信

## 4.5 学修成果評価結果の返却

学修成果の個別の指標に対する評価とは別に、全評価指標を総体的に判断して、当該レベルに合格していると判断できるかどうかを評価し、教員から受講者に評価結果を返却する。

### 4.5.1 学修成果指標別の評価の完了確認

受講者から提出された資格枠組のレベル定義内のすべての学修成果指標に対して、評価が完了していることを確認する。

学修成果指標によって評価する教員が分散している場合等、評価漏れがないように注意する。

### 4.5.2 学修成果指標当該レベルの合否判定

学修成果指標の全評価指標を網羅的に判断して、当該レベルに合格しているかどうかを判断し、評価結果を受講者に返却する。

※事前に、提出された自己評価を表示しておく。

- ① 「次のページ」ボタンをクリック



図 111 「次のページ」ボタンをクリック

- ② 「次のページ」ボタンをクリック

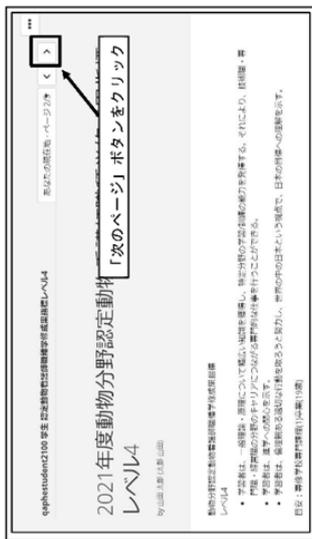


図 112 「次のページ」ボタンをクリック

- ③ 当該レベルの合格結果を選択  
 学修成果指標の全詳細指標を網羅的に判断して、当該レベルに合格しているかどうかを判断し、「合格」、「不合格」、「見直し」の中から結果を判定する。  
 ※「合格」、「不合格」と判定した適合、レベルの評価は確定し、再提出はできない。  
 ※「見直し」と判定した場合、受講者は自己評価を修正し、再提出ができる。

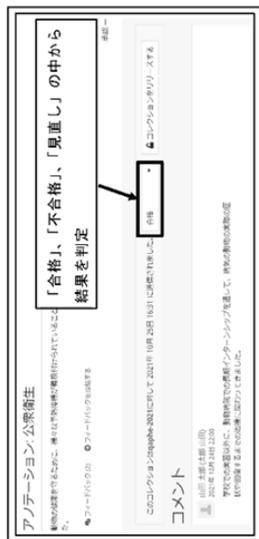


図 113 当該レベルの合格結果を選択

- ④ 評価結果の受講者への返却  
 「コレクションをリリースする」ボタンをクリックする。



図 114 評価結果の受講者への返却

- ⑤ 評価結果の受講者への返却完了  
 ※評価結果の受講者への返却処理をしてから、実際に受講者に返却されるまで10分程度を要する。

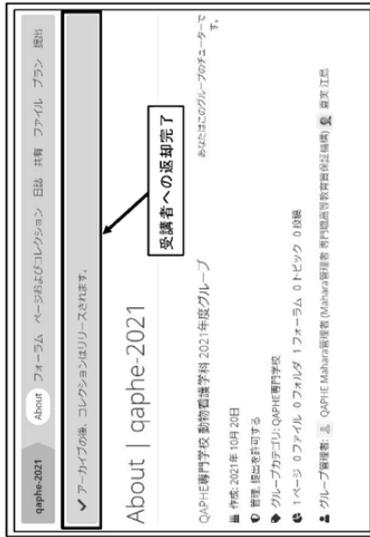


図 115 評価結果の受講者への返却完了

- ⑥ 評価結果の返却通知メールの送信  
 自己評価を提出した受講者のメールアドレスに対して、評価結果が返却されたことを通知するメールが送信される。

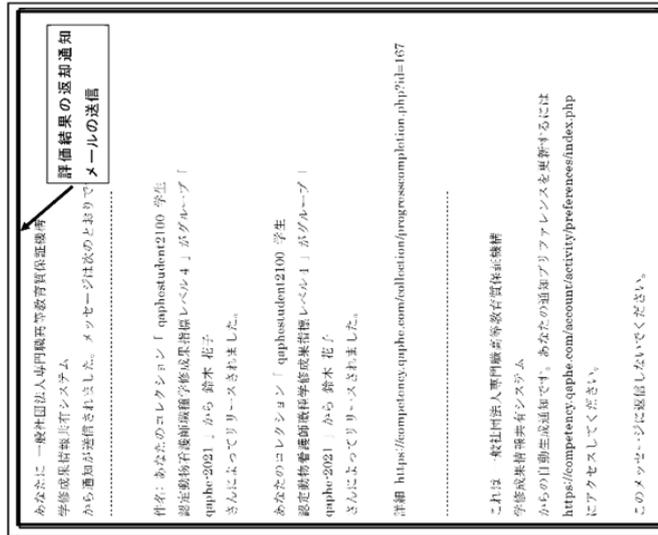


図 116 評価結果の送付通知メールの送信

## 4.6 学修成果評価状況の確認

受講者から提出された学修成果の評価状況を確認する。

### 4.6.1 学修成果評価状況の確認

本手順で半分への提出を一覧表示することは可能であるが、学修成果の詳細を表示する機能は正常動作していないため、操作は一覧表示までにとどめる。

※2021年10月1日現在の Mahara Ver.21.04 での仕様

① 「メインメニュー」をクリック



図 117 「メインメニュー」をクリック

② 「共有」をクリック

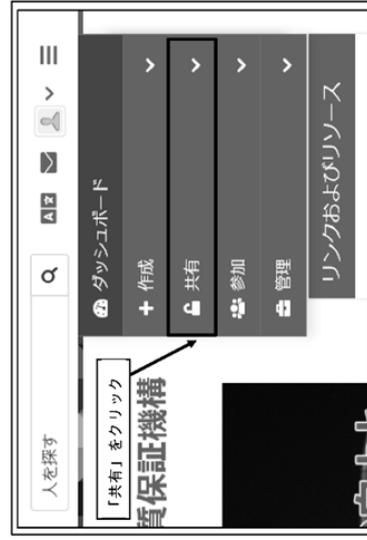


図 118 「共有」をクリック

③ 「提出」をクリック

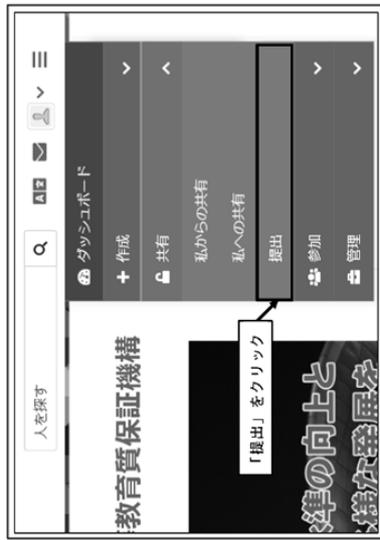


図 119 「提出」をクリック

④ 自分に対して提出された学修成果の評価が一覧表示される

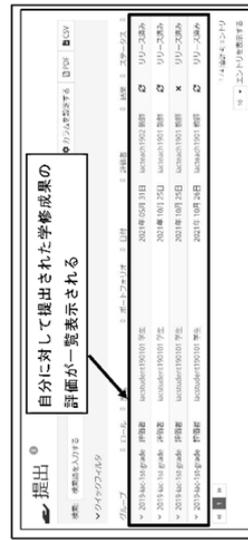


図 120 自分に対して提出された学修成果の評価が一覧表示される

⑤ 学修成果の評価結果の表示の意味

表示	意味
✓ (√印)	合格 結果は確定し、再提出はできない
✕ (×印)	不合格 結果は確定し、再提出はできない
↻ (回転する矢印)	見直し 自己詳細を再計算し、再提出することができる

図 121 学修評価の評価結果の表示の意味

### 資料 3 学修成果情報共有システム操作説明(受講者用)

令和 3 年度文部科学省  
職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進事業

学校評価の充実等を目的とした資格枠組の共有化・  
職業分野別展開とその有用性の検証事業

学修成果情報共有システム  
受講者用操作説明書

令和 4 年 2 月  
一般社団法人専門職高等教育質保証機構

## はじめに

本教材は、令和3年度文部科学省委託事業「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」事業、「学校評価の充実等を目的とした資格枠組の共有化・職業分野別展開とその有用性の検証」の成果物である学修成果情報共有システムを利用するための具体的手順・方法・諸注意などをまとめたものである。

## 目次

<b>1 学修成果情報共有システム利用環境</b> .....	<b>1</b>
1.1 学修成果情報共有システムの目的 .....	1
1.2 学修成果情報共有システム .....	2
1.3 利用環境 .....	2
1.4 学修成果情報共有システムの概要 .....	3
1.4.1 スマートエビデンス .....	3
1.4.2 インスタティチューション .....	4
1.4.3 グループ .....	6
<b>2 学修成果情報共有システムのユーザ環境</b> .....	<b>8</b>
2.1 ログイン・ログアウト .....	8
2.1.1 学修成果情報共有システムへのログイン .....	8
2.1.2 学修成果情報共有システムからのログアウト .....	10
2.2 パスワードを忘れた場合 .....	11
2.2.1 パスワードのリセット .....	11
2.3 学修成果情報共有システムの画面 .....	15
2.3.1 ダッシュボード .....	15
2.4 プロファイルの設定 .....	16
2.4.1 氏名の設定 .....	17
2.4.2 メールアドレスの設定 .....	19
<b>3 学修成果情報共有事前準備</b> .....	<b>28</b>
3.1 「コレクション」の並べ替え .....	28

3.1.1 「コレクション」の共有	28
3.2 「コレクション」の共有	30
3.2.1 「コレクション」の共有	31
<b>4 学修成果評価</b>	<b>39</b>
4.1 学修成果指標の確認	39
4.1.1 学修成果指標の確認	39
4.1.2 学修成果指標の各項目の評価状況の確認	42
4.1.3 学修成果指標の評価状況の表示の意味	44
4.2 学修成果自己評価	45
4.2.1 学修成果自己評価の入力	45
4.2.2 学修成果自己評価の修正	49
4.2.3 複数の成果指標に関係する自己評価の入力	54
4.2.4 入力した自己評価の確認	58
4.2.5 自己評価の表示設定	61
4.3 自己評価の提出	66
4.3.1 自己評価の教員への提出	66
4.3.2 自己評価が提出済であることの確認	73
4.4 教員からの「フィードバック」通知	77
4.4.1 種々の学修成果指標への「フィードバック」通知	77
4.4.2 複数の学修成果指標に関係する「コメント」通知	78
4.5 学修成果評価結果が返却されたことの確認	79
4.5.1 学修成果評価が返却されたことのお知らせメール受信	79
4.5.2 学修成果の提出状況確認	80
4.5.3 「受信箱」の通知確認	83
4.5.4 「コレクション」の確認	85
4.6 学修成果評価結果の確認	87
4.6.1 学修成果指標の各指標の評価の確認	87

4.6.2 学修成果指標の各指標の「フィードバック」の確認	89
4.6.3 複数の成果指標に関係する「コメント」の確認	93
4.6.4 学修成果評価結果の承認	96
4.7 学修成果の公開	100
4.7.1 「シークレットURL」の発行	100

# 1 学修成果情報共有システム利用環境

## 1.1 学修成果情報共有システムの目的

学修成果情報共有システムは、自分が学校で学び身につけた知識や技術が、国際的に通用する資格枠組のレベル定義(レベルデザインクリプター)の指標に適合していることを確認するものである。

自分が学んでいる学校・学科・コース・学年に応じて目標とする資格枠組のレベルを設定し、設定した目標の資格枠組のレベル定義の各指標に対して、次の作業を実施することで資格枠組のレベルに適合していることを確認する。

- ① 指標に適合していることに対する受講者自身の自己評価 (資格枠組のレベル定義の各指標に対して繰り返し実施)
- ② 受講者から教員に対する自己評価の提出
- ③ 受講者の自己評価に対する教員による評価 (資格枠組のレベル定義の各指標に対して繰り返し実施)
- ④ 教員による詳細結果の受講者への返却
- ⑤ 受講者による自己の学修成果(ポートフォリオ)の公開

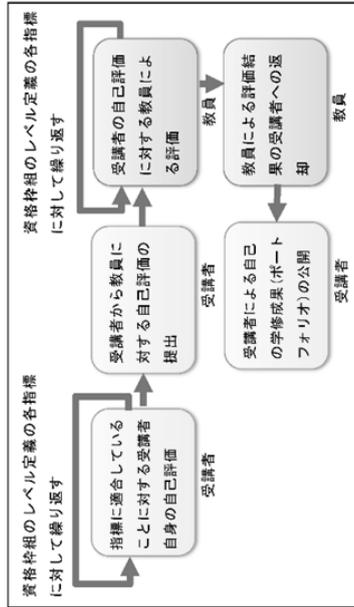


図 1 学修成果情報共有システムの流れ

## 1.2 学修成果情報共有システム

学修成果情報共有システムは、Mahara (マハラ) というオープンソースのレポート生成システムを使って構築されている。

Mahara Web サイト : <https://mahara.org/>



図 2 Mahara Web サイト

## 1.3 利用環境

本書での説明は、次の環境であることを前提とした画面キャプチャ等を利用している。

- Windows10 の PC
- Windows10 上で動作するブラウザ(Chrome)

Mahara は Web サービス上で動作する Web アプリケーションであるため、上記以外の環境であっても、インターネットに接続しておりブラウザが利用可能な環境であれば、Chrome 以外のブラウザや、Mac OS やスマートフォンを利用した場合でも同様の操作が

可能である。

## 1.4 学修成果情報共有システムの概要

### 1.4.1 スマートエビデンス

「資格枠組のレベル定義」により定義されたレベル1から8までの各レベルに相当する能力を、職種・分野ごとに細分化した「学修成果指標」をシステム上で表示したものである。

「学修成果指標」の指標ごとに、その到達状況を自己評価し、さらに教員による客観的評価を行い、指標への到達度を評価する。

図 3 学修成果指標(動物分野-認定動物看護師職種)

図 4 スマートエビデンス

### 1.4.2 インステイテーション

「インステイテーション」は、同じ職種・分野の学修をする集団を示す。学修成果情報共有システム上では、「インステイテーション」は1つの学修集団を示し、特定の学校の特定の学科・コースの特定の学年といった、1つのクラスと同等の扱いとなる。

受講者の場合は、「インステイテーション」は1つのクラスを示すが、教員の場合は複数のクラスを担当することが通常であることから、受講者とは別の、学校単位の「インステイテーション」に所属する。

1つのインステイテーションには、複数のスマートエビデンスを関連付け評価することができる。

Mahara の仕様上、インステイテーション名は半角英小文字、半角数字だけが利用できる。

※2021年10月1日現在の Mahara Ver.21.04 での仕様

①

### ① インスタティテュエーションを管理する

検索

+ インスタティテュエーションを追加する

検索	種別	種別名	メンバ 数	スタッフ 数	管理 者
2019ac1tgrade	インスタティテュエーション	2019ac1tgrade	5	0	0
2019ac2tgrade		2019ac2tgrade	5	0	0
2019myakiket1tgrade		2019myakiket1tgrade	5	0	0
2019myakiket2tgrade		2019myakiket2tgrade	5	0	0
2020amamahurdfamewordtemplate		2020amamahurdfamewordtemplate	6	2	0
lacteach		lacteach	3	0	0
myakipreacher		myakipreacher	3	0	0
qphs2021		qphs2021	11	0	0
qphsteach		qphsteach	6	0	0
No Institution		malara	2	0	2

図 5 インスタティテュエーション

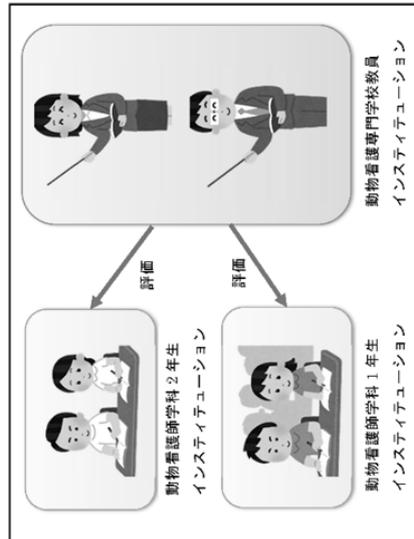


図 6 インスタティテュエーション分割単位

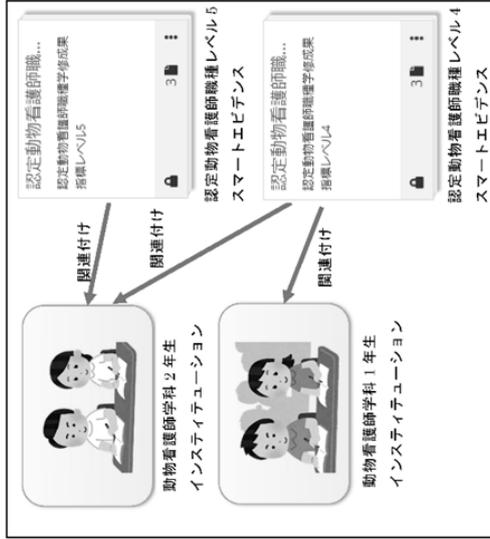


図 7 インスタティテュエーションとスマートエビデンス

### 1.4.3 グループ

「グループ」は、特定の特性を持った集団を示す。学修成果情報共有システム上では、「グループ」は学修する側と評価する側を 1 つにまとめた集団を示し、特定の学校の学修・コースの特定の学年の受講者および教員といった集団と同等の扱いとなる。

概に、一人の受講者は一つのグループに所属し、一人の教員は複数のグループに所属する。

グループ内では、「メンバ」と「チャーター」の 2 つの役割が存在する。「メンバ」は評価される立場であり、受講者は「メンバ」の役割が割り当てられる。「チャーター」は評価する立場であり、教員は「チャーター」の役割が割り当てられる。Mahara の仕様上、グループ名は半角英小文字、半角数字、「\_」「|」だけが利用できる。

※2021 年 10 月 1 日現在の Mahara Ver.21.04 での仕様

グループを管理する

検索 (すべてのシステムメニュー) グループカテゴリ

すべてをシステムメニューから探す

グループ名	種別	メンバー数	グループタイプ	作成者	作成日時	状態	操作
2019-hac-186	グループ	8	コース管理	システム管理者	2019/06/18	有効	編集
2019-hac-204	グループ	8	コース管理	システム管理者	2019/06/18	有効	編集
2019-hac-205	グループ	8	コース管理	システム管理者	2019/06/18	有効	編集
2019-hac-206	グループ	8	コース管理	システム管理者	2019/06/18	有効	編集
2019-hac-207	グループ	8	コース管理	システム管理者	2019/06/18	有効	編集
2019-hac-208	グループ	8	コース管理	システム管理者	2019/06/18	有効	編集
2019-hac-209	グループ	8	コース管理	システム管理者	2019/06/18	有効	編集
2019-hac-210	グループ	8	コース管理	システム管理者	2019/06/18	有効	編集
2019-hac-211	グループ	8	コース管理	システム管理者	2019/06/18	有効	編集

図 8 グループ

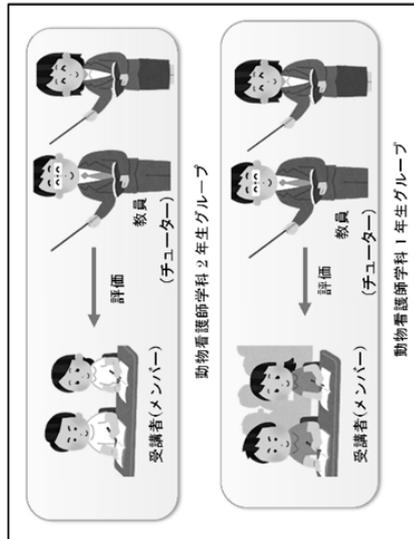


図 9 グループ分割単位

## 2 学修成果情報共有システムのユース環境

### 2.1 ログイン・ログアウト

#### 2.1.1 学修成果情報共有システムへのログイン

① ブラウザから、学修成果情報共有システムのサイトを表が

<https://competency.graphic.com/>



図 10 QRコード



図 11 学修成果情報共有システムサイト

② 「ユーザ名(ユーザID)」、「パスワード」を入力し、「ログイン」ボタンをクリック

※ 「ユーザ名」は「ユーザID」のことである。

※パスワードには、「大文字」、「小文字」の区別がある。  
 ※「ユーザー名」、「パスワード」ともに半角英字を入力する。

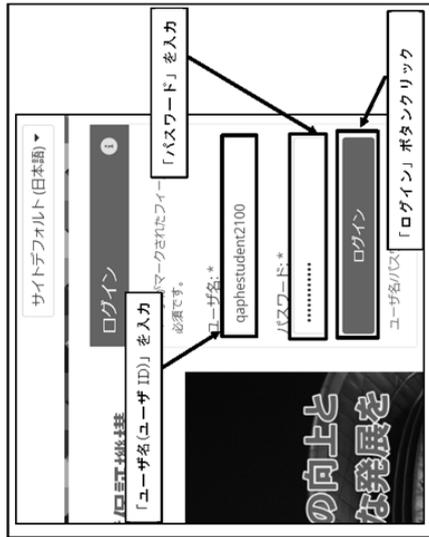


図 12 ログイン情報を入力

③ ログイン完了



図 18 ログイン完了

9

## 2.1.2 学修成果情報共有システムからのログアウト

① 画面右上の「アカウントメニュー」アイコンをクリック

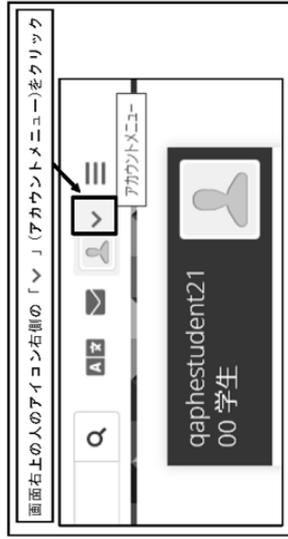


図 14 画面右上の「アカウントメニュー」アイコンをクリック

② 「ログアウト」をクリック

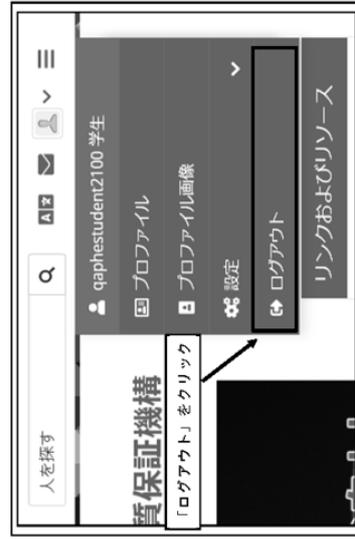


図 16 「ログアウト」をクリック

③ ログアウト完了

10



図 16 ログイン完了

## 2.2 パスワードを忘れた場合

パスワードを忘れた場合にパスワードのリセットをするためには、学修成果情報共有システムにあらかじめ自分のメールアドレスを設定しておく必要がある。  
自分のメールアドレスを設定していない状態でパスワードがわからなくなった場合は、担当の教員に連絡する。

### 2.2.1 パスワードのリセット

- ① 「ユーザー名/パスワード喪失」をクリック

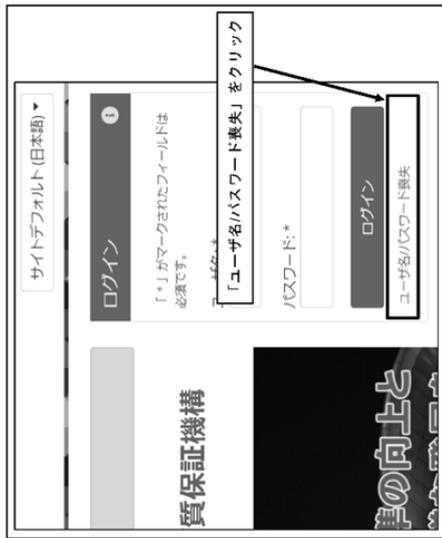


図 17 「ユーザー名/パスワード喪失」をクリック

- ② 「メールアドレス」または「ユーザー名(ユーザーID)」を入力して「リクエストを送信する」ボタンをクリック

※「ユーザー名」は「ユーザーID」のことである。



- ③ 「メールアドレス」または「ユーザー名」を入力して「リクエストを送信する」

- ③ パスワードリセット用メール送信メッセージを確認



図 19 パスワードリセット用メール送信メッセージを確認

- ④ パスワードリセット用メールのリンクをクリック

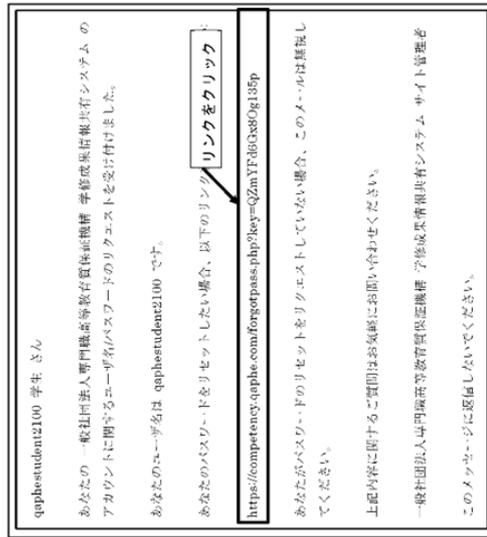


図 20 パスワードリセット用メールのリンクをクリック

- ⑤ 新しいパスワードを 2 箇所に入力し、「変更」ボタンをクリック  
※パスワードの文字数は 8 文字以上である必要がある。

- ※パスワードには、数字、小文字、大文字、特殊文字(#)のような文字をすべて含む必要がある。

- ※パスワードのリセット用メールが送信されてから 30 分以内に処理を行う。



図 21 新しいパスワードの入力

- ⑥ パスワードのリセット完了



図 22 パスワードリセット完了

## 2.3 学修成果情報共有システムの画面

### 2.3.1 ダッシュボード

ログインした直後に表示される画面を、「ダッシュボード」と呼ぶ。自分のポートフォリオや、自分に対して送信されたメッセージなど、ユーザーに必要な情報が表示される。

- ① ダッシュボード

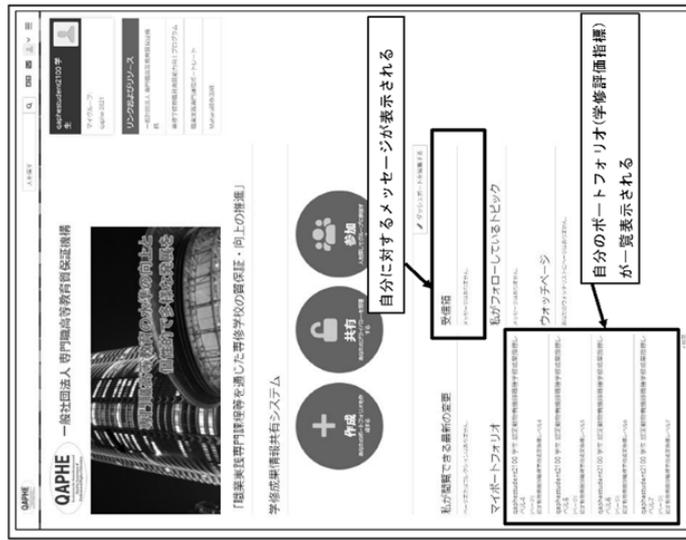


図 28 ダッシュボード

## 2.4 プロファイルの設定

ユーザーのプロファイル(氏名やメールアドレス)を設定する。  
※学修成果情報共有システムを使い始めたら、すぐに自分のメールアドレスと氏名を設定すること。  
※氏名は本名を、メールアドレスは自分が毎日見るメールアドレスを設定すること。  
※自分が毎日見るメールアドレスが存在しない場合は、メールアドレスの変更はしなく

でも良いが、本説明書で利用される各種通知メールは届かない。

## 2.4.1 氏名の設定

- ① 画面右上の「アカウントメニュー」アイコンをクリック

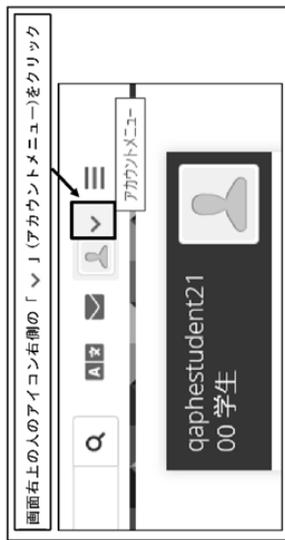


図 24 画面右上の「アカウントメニュー」アイコンをクリック

- ② 「プロフィール」をクリック



図 25 「プロフィール」をクリック

- ③ 「氏名」、「学籍番号」を入力

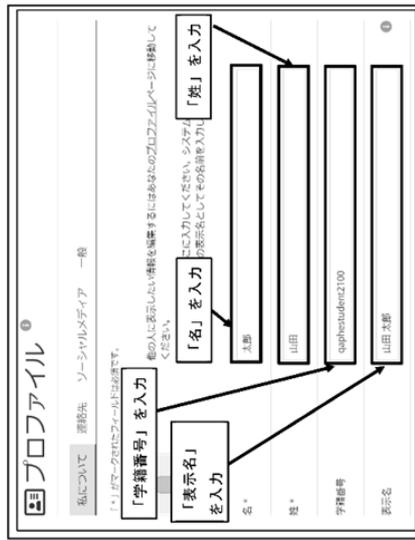


図 26 「氏名」、「学籍番号」を入力

- ④ 「自己紹介」を入力し、「プロフィールを保存する」ボタンをクリック



図 27 「自己紹介」を入力し、「プロフィールを保存する」ボタンをクリック

- ⑤ プロフィールが保存される

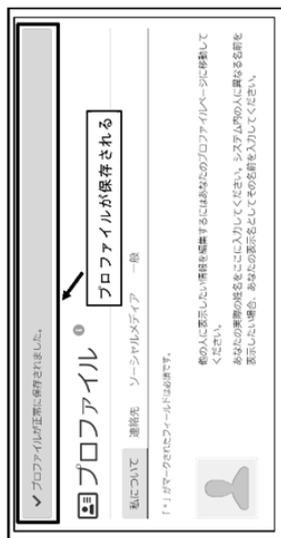


図 28 プロファイルが保存される

## 2.4.2 メールアドレスの設定

- ① 画面右上の「アカウントメニュー」アイコンをクリック

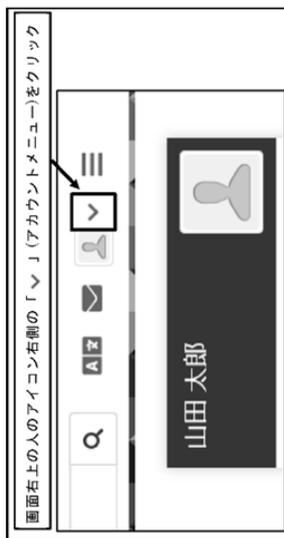


図 29 画面右上の「アカウントメニュー」アイコンをクリック

- ② 「プロフィール」をクリック

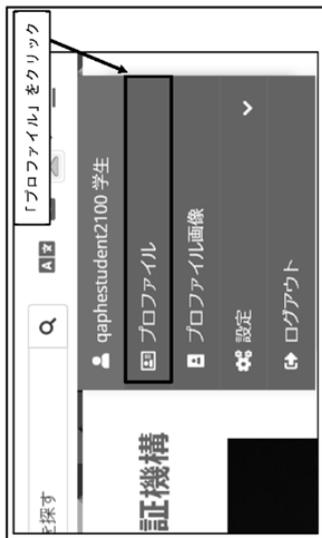


図 30 「プロフィール」をクリック

- ③ 「連絡先」タブをクリック



図 31 「連絡先」タブをクリック

- ④ 「メールアドレスを追加する」ボタンをクリック



図 32 「メールアドレスを追加する」ボタンをクリック

⑤ 「メールアドレス」を入力し、「追加」ボタンをクリック



図 33 「メールアドレス」を入力し、「追加」ボタンをクリック

⑥ 「プロフィールを保存する」ボタンをクリック

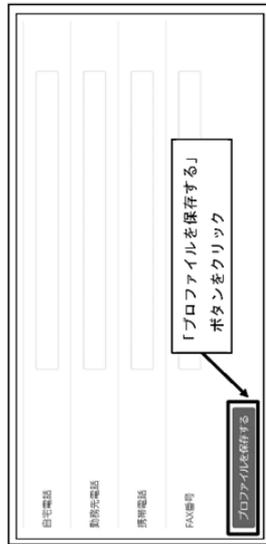


図 34 「プロフィールを保存する」ボタンをクリック

⑦ プロフィールが保存され、確認メールが送信される

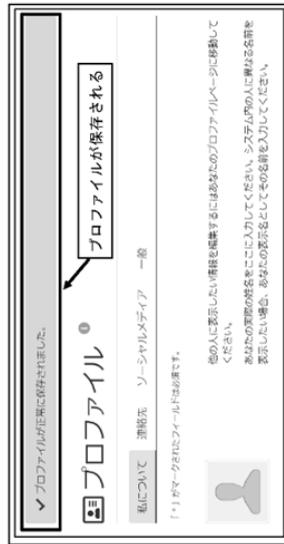


図 35 プロフィールが保存され、確認メールが送信される

⑧ メールアドレス追加確認メールを受信し、メール内の有効化リンクをクリック

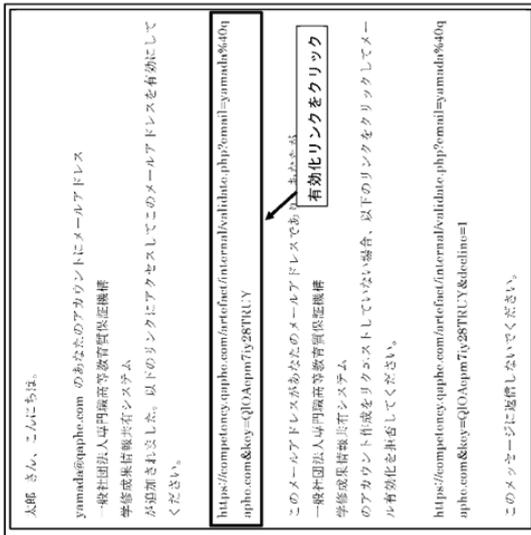


図 36 メールアドレス追加確認メール内の有効化リンクをクリック

⑩ メールアドレスの有効化確認



図 37 メールアドレスの有効化確認

⑪ メインのメールアドレス変更  
 自分のメールアドレスのラジオボタンを「オン」に設定する。



図 38 メインのメールアドレス変更

⑫ 「プロフィールを保存する」ボタンをクリック

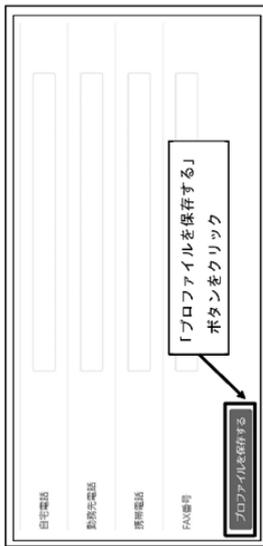


図 39 「プロファイルを保存する」ボタンをクリック

⑫ プロファイルが保存される

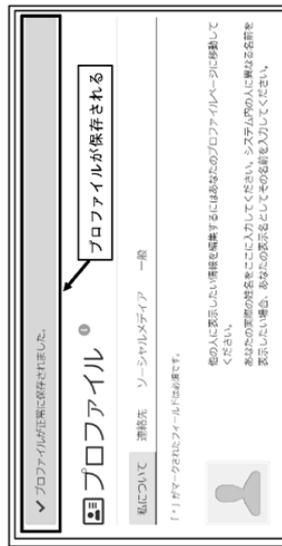


図 40 プロファイルが保存される

⑬ 「連絡先」タブをクリック



図 41 「連絡先」タブをクリック

⑭ 不要なメールアドレスの「ゴミ箱」アイコンをクリック



図 42 不要なメールアドレスの「ゴミ箱」アイコンをクリック

⑮ 「プロフィールを保存する」ボタンをクリック

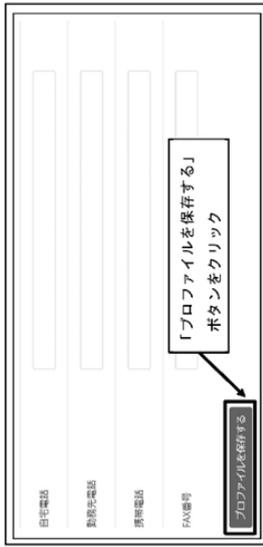


図 43 「プロフィールを保存する」ボタンをクリック

⑩ プロフィールが保存される

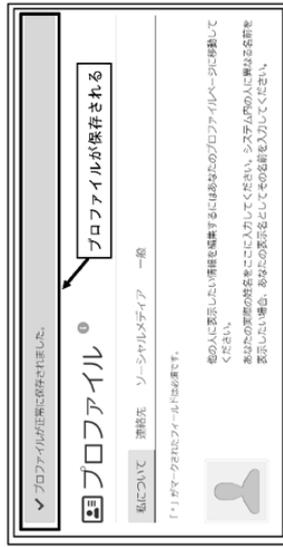


図 44 プロフィールが保存される

### 3 学修成果情報共有事前準備

学修成果の入力を開始する前に実施する、事前準備を行う。  
**準備手順を完了させてから、学修成果の入力を行う。**

#### 3.1 「コレクシヨ」の並べ替え

「コレクシヨ」は、「スマートエビデンス」を個々の受講者用にコピーしたものである。受講者は、「コレクシヨ」に対して学修成果の入力を行う。「コレクシヨ」は、「学修成果指標」の低位のレベルから順に入力することが一般的であることから、入力時に混乱しないように、「コレクシヨ」を「学修成果指標」の低位レベルから順に表示するように並べ替えを行う。

##### 3.1.1 「コレクシヨ」の共有

① ダッシュボードから「作成」ボタンをクリック

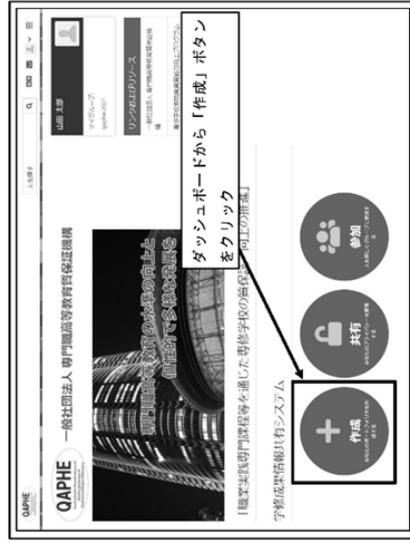


図 45 ダッシュボードから「作成」ボタンをクリック

② 「並べ替え」 リストボックスをクリック

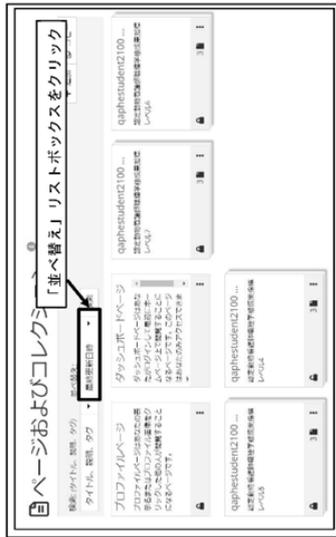


図 46 「並べ替え」 リストボックスをクリック

③ 「アルファベット順」 をクリック

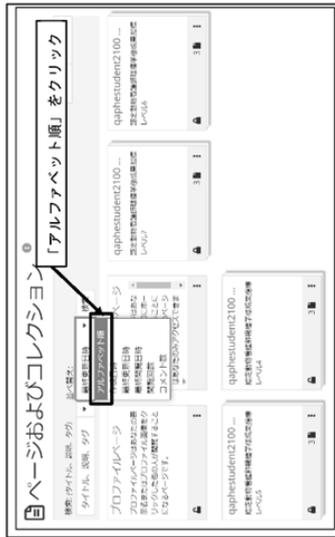


図 47 「アルファベット順」 をクリック

④ 「検索」 ボタンをクリック

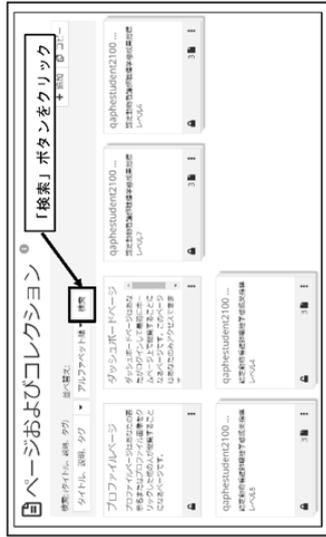


図 48 「検索」 ボタンをクリック

⑤ 「学修成果指標」 の下位レベルから順に表示される



図 49 「学修成果指標」 の下位レベルから順に表示される

### 3.2 「コレクション」 の共有

受講者が「コレクション」に対して入力した学修成果は、受講者が「メンバー」として所属するグループの「チャーター」として所属している教員と共有することで、受講者のコレクションを教員が評価できるようになる。

### 3.2.1 「コレクション」の共有

自分の所着するすべてのコレクションに対して、同じ処理を繰り返す。

- ① ダッシュボードから「共有」ボタンをクリック

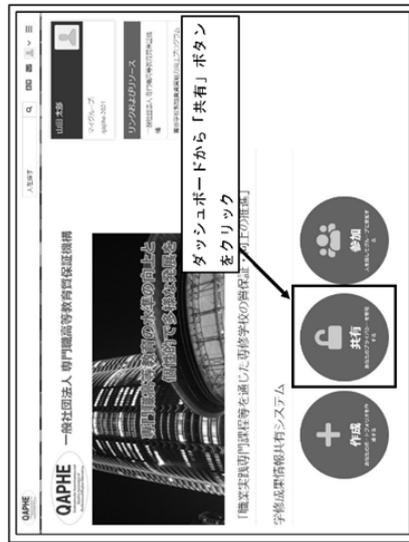


図 50 ダッシュボードから「共有」ボタンをクリック

- ② コレクションの「アクセスを編集する」ボタン(鍵のアイコン)をクリック



図 51 コレクションの「アクセスを編集する」ボタン(鍵のアイコン)をクリック

- ③ 「高度なオプション」をクリック



図 52 「高度なオプション」をクリック

- ④ 「コメントをモデルシートする」を「Yes」に設定



図 53 「コメントをモデレートする」を「Yes」に設定

⑤ 「共有対象」をクリック



図 54 「共有対象」をクリック

⑥ 「検索」階層の「グループ」をクリック  
 ※「グループ」階層のグループ名をクリックしないこと。グループ内のチャーター(教員)以外にメンバー(受講者)対しても権限が付与されてしまう。



図 55 「検索」階層の「グループ」をクリック

⑦ 「検索」をクリック

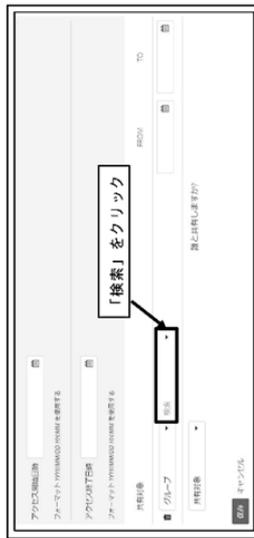


図 56 「検索」をクリック

⑧ 自分の所属するグループをクリック

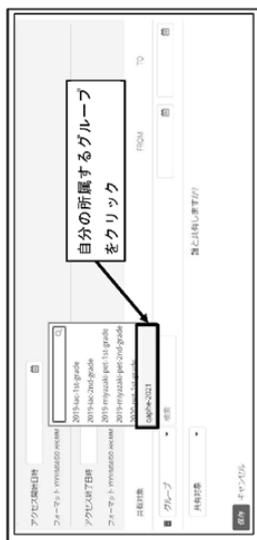


図 57 自分の所属するグループをクリック

③ 「グループ内の誰でも」をクリック

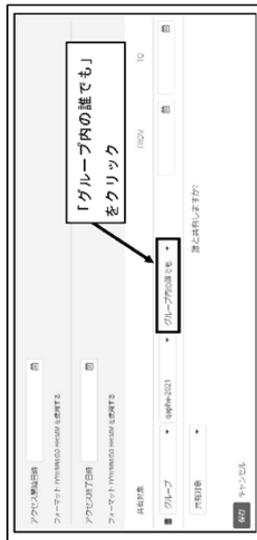


図 58 「グループ内の誰でも」をクリック

④ 「チャーター」をクリック

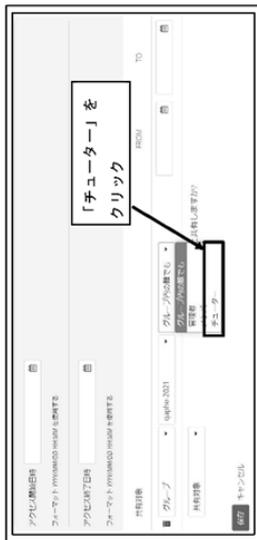


図 59 「チャーター」をクリック

⑤ 「保存」ボタンをクリック



図 60 「保存」ボタンをクリック

⑥ 「アクセスリスト」に自分の所属するグループのチャーターが表示される

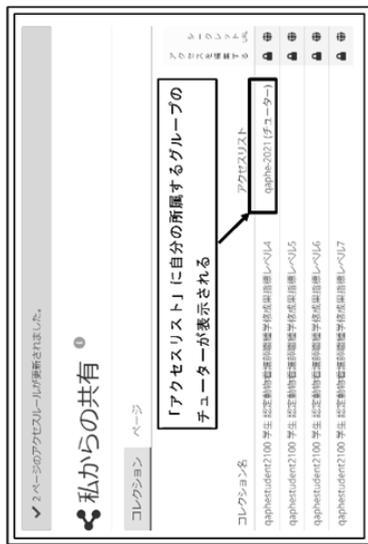


図 61 「アクセスリスト」に自分の所属するグループのチャーターが表示される

⑥ 自分の所有するすべてのコレクションに対して、①から⑤を繰り返し返す

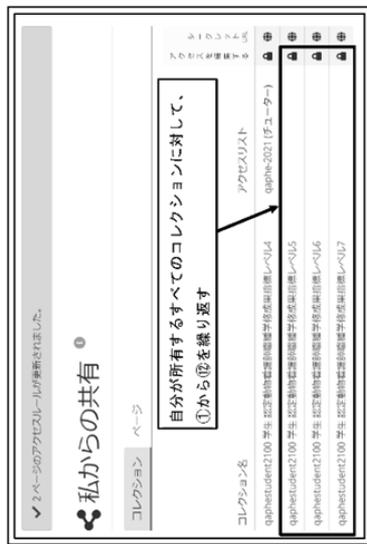


図 62 自分の所有するすべてのコレクションに対して、①から⑤を繰り返し返す

⑦ 自分の所有するすべてのコレクションが、自分の所属するグループのチャーターと共有される

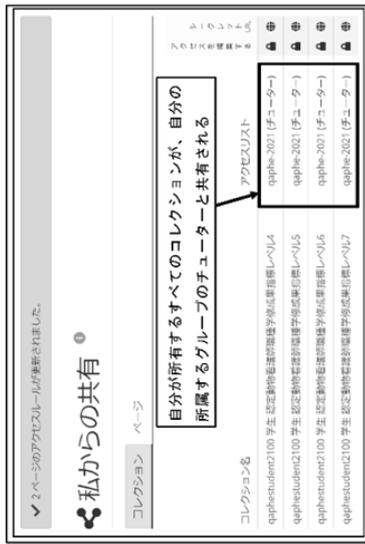


図 63 自分の所有するすべてのコレクションが、グループのチャーターと共有される

## 4 学修成果評価

自分が身につけた知識や技術が、国際的に通用する資格枠組のレベル定義(レベル定義クリプター)の指標に合致しているか、合致していないかを自己評価する。

### 4.1 学修成果指標の確認

資格枠組のレベル定義(レベル定義クリプター)のレベルごとの、学修成果指標を確認する。

#### 4.1.1 学修成果指標の確認

評価を行うレベルの学修成果指標を確認する。

- ① ダッシュボードから「作成」ボタンをクリック

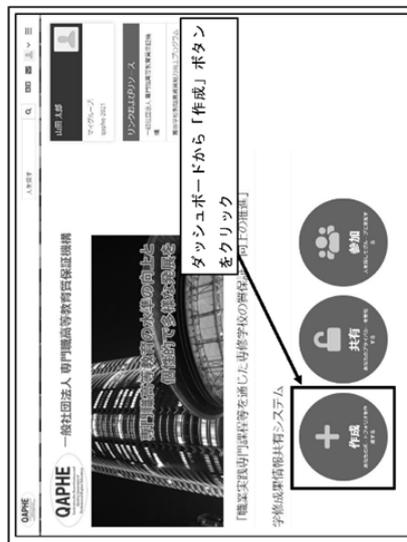


図 64 ダッシュボードから「作成」ボタンをクリック

- ② 確認を行うレベルの「コレクション名」をクリック

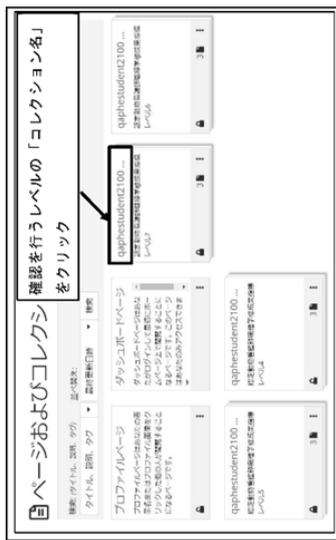


図 65 確認を行うレベルの「コレクション名」をクリック

- ③ 「次のページ」ボタンをクリック



図 66 「次のページ」ボタンをクリック

- ④ 当該レベルに求められる成果の概要、学習者プロフィールの確認

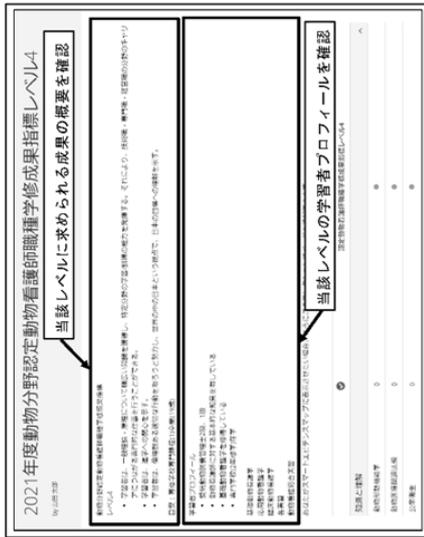


図 67 当該レベルに求められる成果の概要、学習者プロフィールの確認

- ⑤ 学修成果指標の各項目の説明を確認  
学修成果指標の各項目の文字の上でマウスを停止させることで、各項目の説明を表示する。

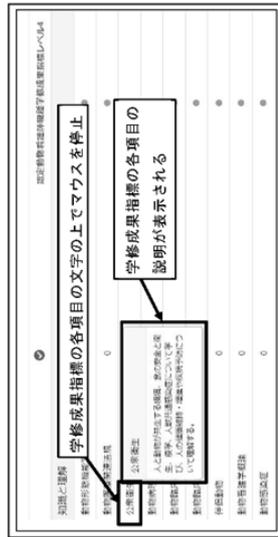


図 68 学修評価指標の各項目の説明を確認

#### 4.1.2 学修成果指標の各項目の評価状況の確認

学修成果指標の各評価項目の評価状況を確認する。

- ① ダッシュボードから「作成」ボタンをクリック

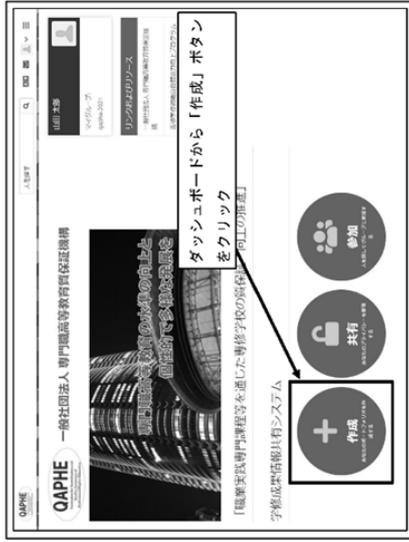


図 69 ダッシュボードから「作成」ボタンをクリック

- ② 確認を行うレベルの「コレクション名」をクリック



図 70 確認を行うレベルの「コレクション名」をクリック

③ 「次のページ」ボタンをクリック



図 71 「次のページ」ボタンをクリック

① 学修成果指標の各項目の評価状況の確認

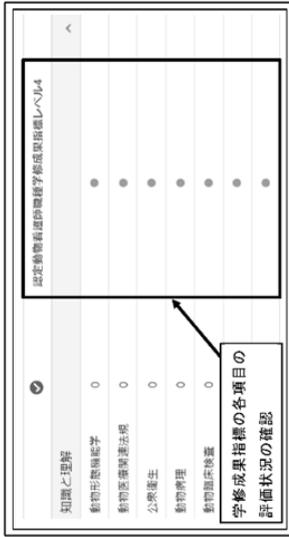


図 72 学修評価指標の各項目の評価状況の確認

#### 4.1.3 学修成果指標の評価状況の表示の意味

① 学修成果指標の各項目の評価状況の表示

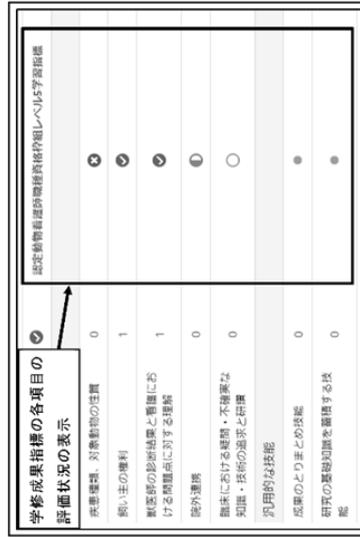


図 73 学修評価指標の各項目の評価状況の表示

② 学修成果指標の各項目の評価状況の表示の意味

表示	意味
----	----

● (灰色のドット)	自己評価が未入力
○ (輪郭が青の白い丸)	自己評価が未入力 教員による評価の結果、評価基準を満たしている
● (緑の丸の中の白い✓印)	教員による評価の結果、評価基準を満たしている
✖ (赤い丸の中の白い×印)	教員による評価の結果、評価基準を満たしていない
● (輪郭が黄色い丸の中の半円)	教員による評価の結果、評価基準を部分的に満たしている

図 74 学修評価指標の各項目の評価状況の表示の意味

## 4.2 学修成果自己評価

自分が身につけた知識や技術が、資格枠組のレベル定義の指標に適合していることを示すために、受講者自身の手により自己評価を行う。

### 4.2.1 学修成果自己評価の入力

特定レベルの資格枠組のレベル定義内の各学修成果指標に対して、自己評価の入力を繰り返す。

- ① ダッシュボードから「作成」ボタンをクリック

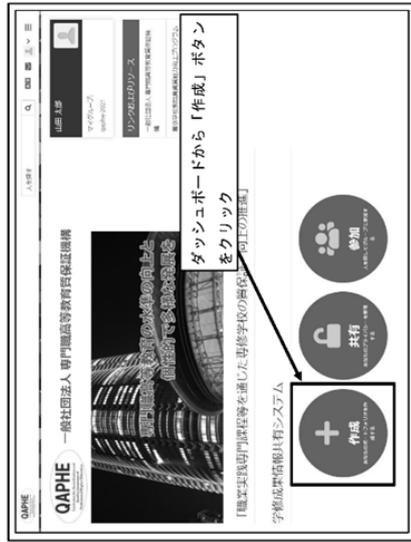


図 75 ダッシュボードから「作成」ボタンをクリック

- ② 確認を行うレベルの「コレクション名」をクリック



図 76 確認を行うレベルの「コレクション名」をクリック

- ③ 「次のページ」ボタンをクリック



図 77 「次のページ」ボタンをクリック

- ① 学修成果指標の中から自己評価を行う成果指標を選択  
評価状況が未入力(灰色のドット)の学修成果指標の中から、自己評価を行う学修成果指標の評価状況(灰色のドット)をクリックする。

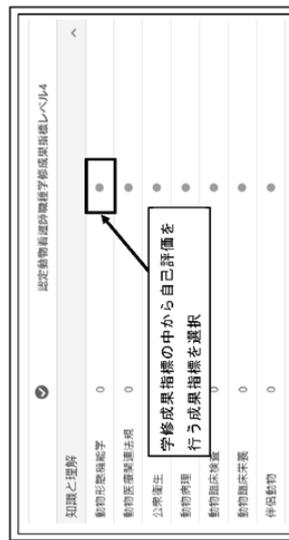


図 78 学修成果指標の中から自己評価を行う成果指標を選択

- ⑤ 学修成果指標に対する自己評価を入力  
「アンテーション」に当該学修成果指標に対する自己評価を入力し、「保存」ボタンをクリックする。

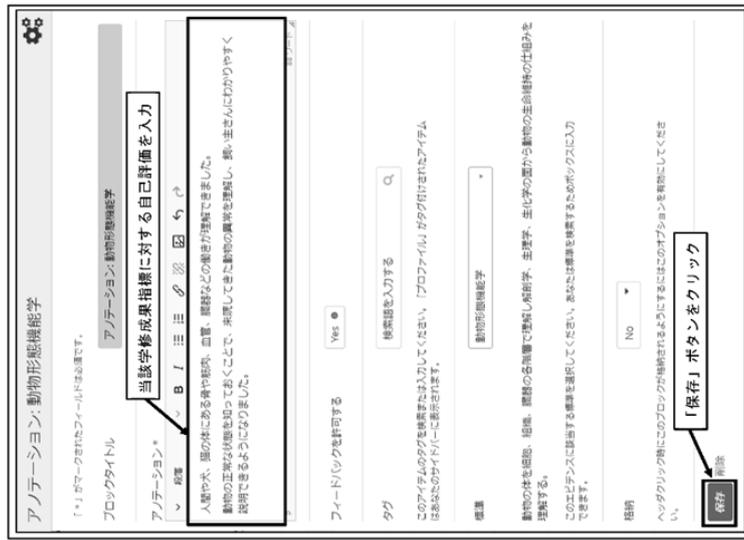


図 79 学修成果指標に対する自己評価を入力

- ⑥ 学修成果指標の評価状況が、自己評価入力済(緑色が青の白い丸)に変わる

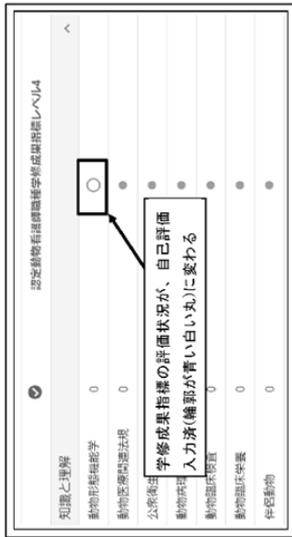


図 80 学修評価指標の評価状況が、自己評価入力済(輪郭が青の白丸)に変わる

⑦ 全ての学修成果指標に対して、自己評価の入力を繰り返す

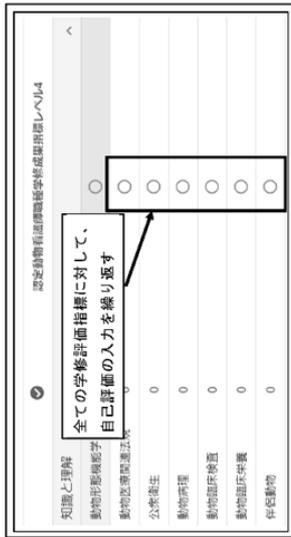


図 81 全ての学修評価指標に対して、自己評価の入力を繰り返す

#### 4.2.2 学修成果自己評価の修正

入力を完了した学修成果の自己評価を修正する機能は、Mahara には存在しない。  
学修成果の自己評価の修正は、入力した自己評価に対して「フィードバック」に補足説明を追記することで、実質的な修正を行う。

※2021年10月1日現在の Mahara Ver.21.04 での仕様

① 学修成果指標から自己評価の修正を行う成果指標を選択

評価状況が自己評価入力済(輪郭が青い白丸)の学修成果指標の中から、自己評価の修正を行う学修成果指標の評価状況(輪郭が青い白丸)をクリックする。

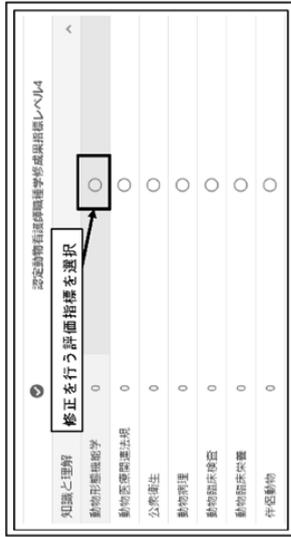


図 82 学修成果指標から自己評価の修正を行う評価指標を選択

② 「フィードバック」を投稿する  
「フィードバック」に補足説明を記入し、「フィードバックを投稿する」ボタンをクリックする。

※学修成果管理共有システムで自分のポートフォリオを公開した際に、公開を希望しない「フィードバック」の場合のみ、「パブリックにする」を「No」に設定する。



図 88 「フィードバック」を投稿する

③ 「フィードバック」が投稿される



図 84 「フィードバック」が投稿される

① 「フィードバック」の投稿確認メールの受信  
送信者のメールアドレスに対して、フィードバック投稿確認メールが送信される。

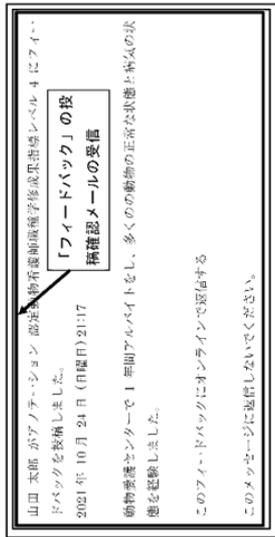


図 85 「フィードバック」の投稿確認メールの受信

- ⑤ 「フィードバック」投稿画面を閉じる  
「×(閉じる)」アイコンをクリックする。



図 86 「フィードバック」投稿画面を閉じる

- ⑥ 「フィードバック」投稿画面が格納される



図 87 「フィードバック」投稿画面が格納される

#### 4.2.3 複数の成果指標に関する自己評価の入力

複数の成果指標に関する自己評価やファイル添付が必要な自己評価は、資格検定のレベル(同レベル内の全ての評価指標)に対するコメントの人力で表現する。

- ① ダッシュボードから「作成」ボタンをクリック

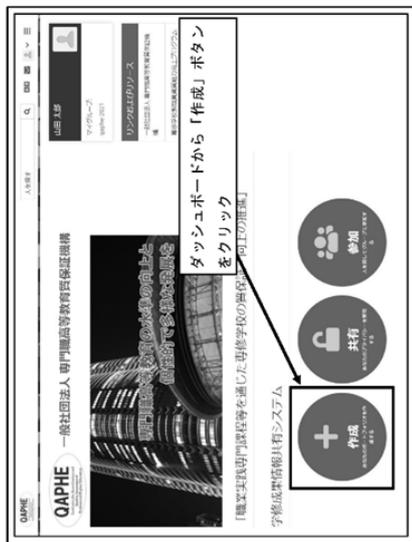


図 88 ダッシュボードから「作成」ボタンをクリック

② 確認を行うレベルの「コレクション名」をクリック



図 89 確認を行うレベルの「コレクション名」をクリック

③ 「次のページ」ボタンをクリック



図 90 「次のページ」ボタンをクリック

④ 「次のページ」ボタンをクリック



図 91 「次のページ」ボタンをクリック

⑤ 「コメント」を投稿

コメントを入力し、ファイル添付が必要な場合は「ファイルを選択」ボタンをクリックして添付するファイルを選択し、「コメント」ボタンをクリックする。

※学修成果情報共有システムで自分のポートフォリオを公開した際に、公開を希望しない「コメント」の場合のみ、「コメントをバブリックにする」を「No」に設定

する。

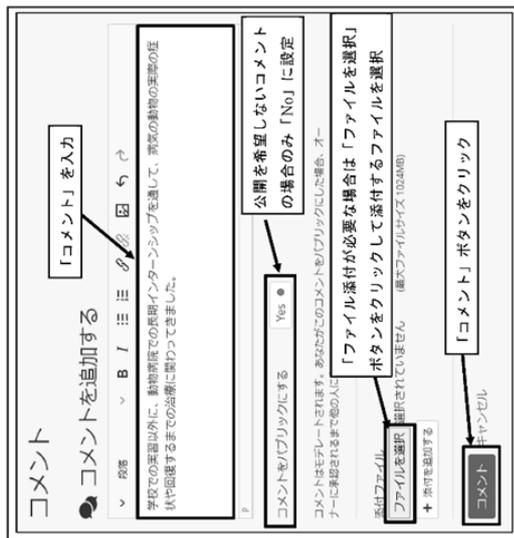


図 92 「コメント」を投稿

④ 「コメント」が投稿される



図 93 「コメント」が投稿される

#### 4.2.4 入力した自己評価の確認

入力した自己評価やコメントを確認する。

① ダッシュボードから「作成」ボタンをクリック

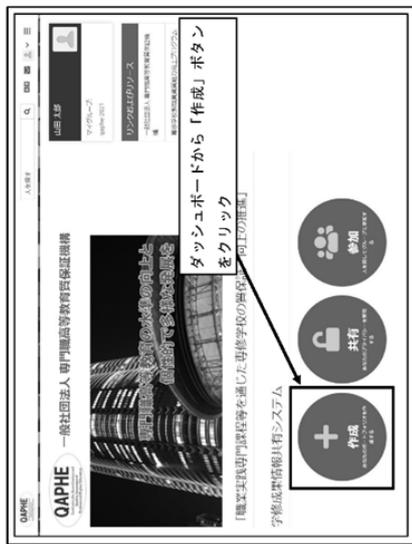


図 94 ダッシュボードから「作成」ボタンをクリック

② 確認を行うレベルの「コレクション名」をクリック



図 95 確認を行うレベルの「コレクション名」をクリック

③ 「次のページ」ボタンをクリック



図 96 「次のページ」ボタンをクリック

④ 「次のページ」ボタンをクリック



図 97 「次のページ」ボタンをクリック

⑤ 入力した自己評価の職務  
入力した自己評価やコメントが表示される。

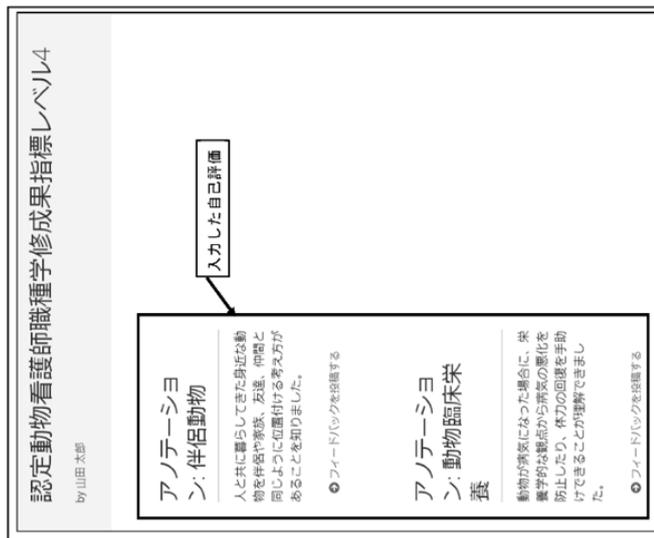


図 98 入力した自己評価の確認

#### 4.2.5 自己評価の表示設定

入力した自己評価の表示が、初期状態では横幅が狭い状態で表示される。自己評価の表示を画面の横幅いっぱいになるように設定を変更する。

- ① 入力した自己評価の確認画面を表示



図 99 入力した自己評価の確認画面を表示

- ② 「編集(鉛筆の形) アイコンをクリック



図 100 「編集(鉛筆の形) アイコンをクリック

- ③ 成果指標の「サイズ変更(斜めの矢印)」アイコンを画面の右端までドラッグ  
 ※横幅を広げるだけでなく、縦の高さについても文字が表示できる最低限の高さに  
 変更する

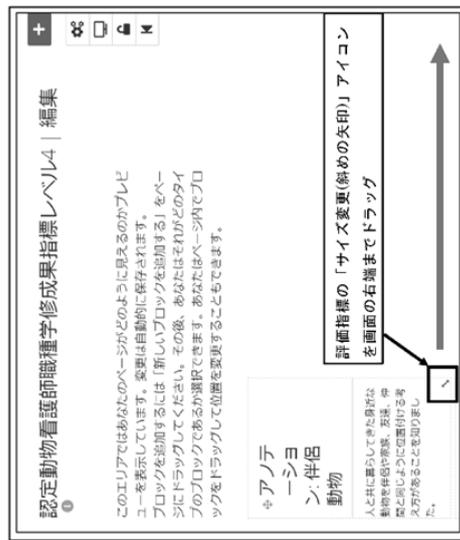


図 101 成果指標の「サイズ変更(斜めの矢印)」アイコンを画面の右端までドラッグ

- ④ 成果指標のサイズが変更される

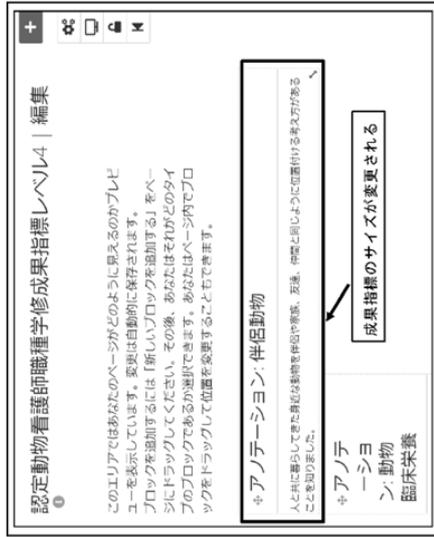


図 102 成果指標のサイズが変更される

- ⑤ 全ての成果指標のサイズを同時に変更する

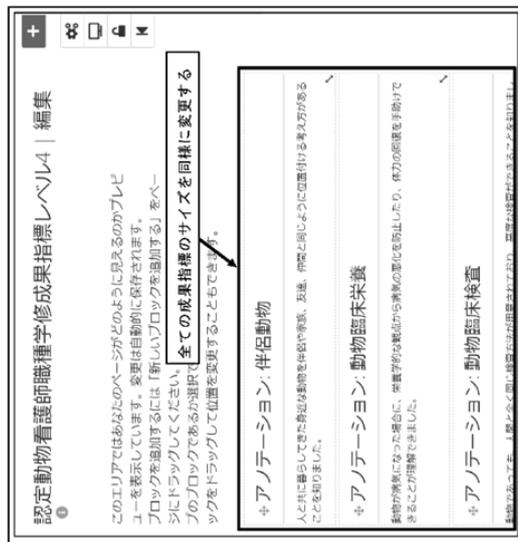


図 108 全ての成果指標のサイズを同様に変更する

⑥ 「ページを表示する(ディスプレイの形)」アイコンをクリック

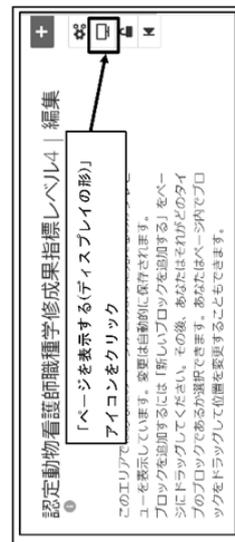


図 104 「ページを表示する(ディスプレイの形)」アイコンをクリック

⑦ 成果指標のサイズが変更される

※サイズの変更が反映されない成果指標があった場合は、同じ作業を繰り返す

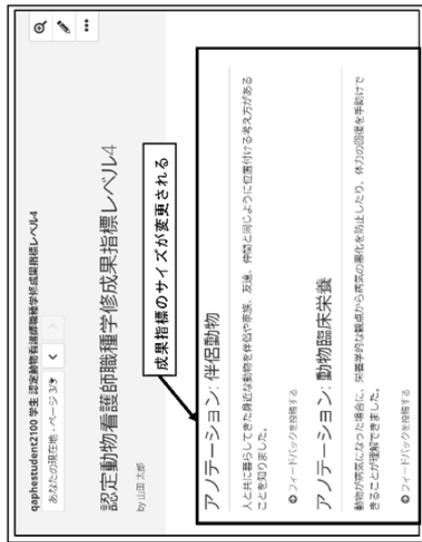


図 105 成果指標のサイズが変更される

## 4.3 自己評価の提出

1 つのレベル内の学修成果指標に対する自己評価の人が完了したら、受講者から教員に対して自己評価を提出し、教員による評価に移行する。

本来は、自己評価の提出後は自己評価の変更はできないことが望ましいが、自己評価の提出時に自己評価の変更が出来ない旨のメッセージは表示されるものの、変更の人ができずでしよう。

自己評価の提出後は、教員の評価が完了して返却されるまでの間は、自己評価の変更をしないように注意する必要があります。

※2021年10月1日現在のMahara Ver.21.04での仕様

### 4.3.1 自己評価の教員への提出

自己評価の教員への提出後は、自己評価の変更を行ってしまうと、評価を行う教員から見た時に自己評価の内容が変わってしまうので教員の評価を何に対して行ったのかが不明確

になってしまふ。  
必ず、自己評価を見直し、変更の必要がない状態になってから教員への提出を行う。

- ① ダッシュボードから「作成」ボタンをクリック

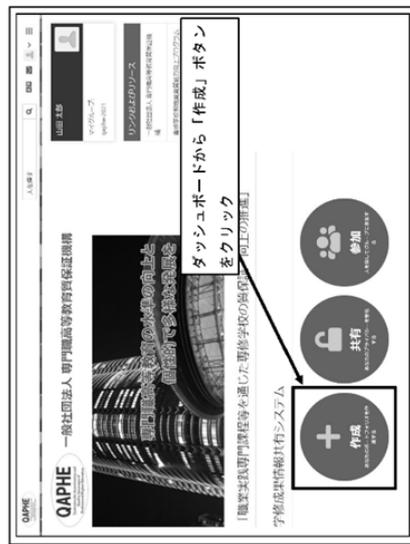


図 106 ダッシュボードから「作成」ボタンをクリック

- ② 提出を行うレベルの「コレクション名」をクリック



図 107 提出を行うレベルの「コレクション名」をクリック

- ③ 「次のページ」ボタンをクリック



図 108 「次のページ」ボタンをクリック

- ④ 「次のページ」ボタンをクリック

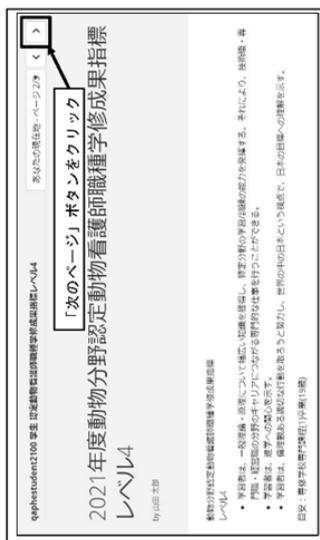


図 109 「次のページ」ボタンをクリック

⑤ 送信先のグループを評価を行う教員のグループに設定



図 110 送信先のグループを評価を行う教員のグループに設定

⑥ 「送信」ボタンをクリック

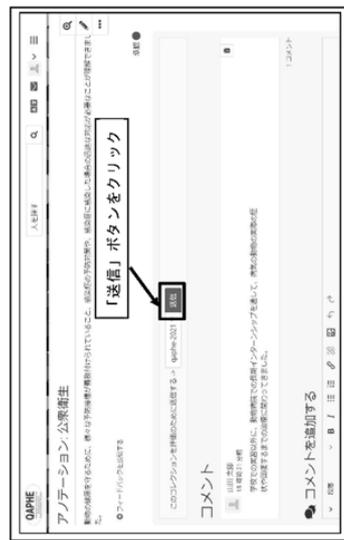


図 111 「送信」ボタンをクリック

⑦ 評価完了まで自己評価を編集できないことを確認し、「Yes」ボタンをクリック

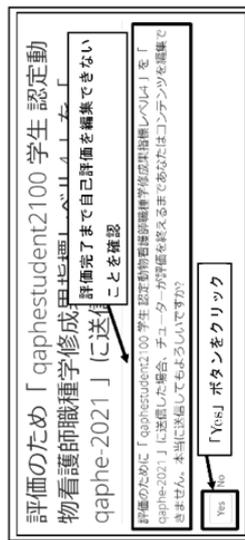


図 112 評価完了まで自己評価を編集できないことを確認し、「Yes」ボタンをクリック

⑧ 自己評価が送信されたことを確認

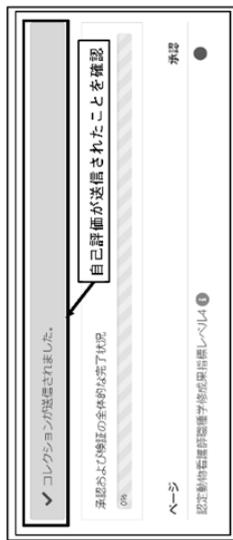


図 113 自己評価が送信されたことを確認

④ 自己評価の送信完了を通知するメールの受信  
自己評価を送信したユーザのメールアドレスに対して、自己評価の送信完了確認メールが送信される。

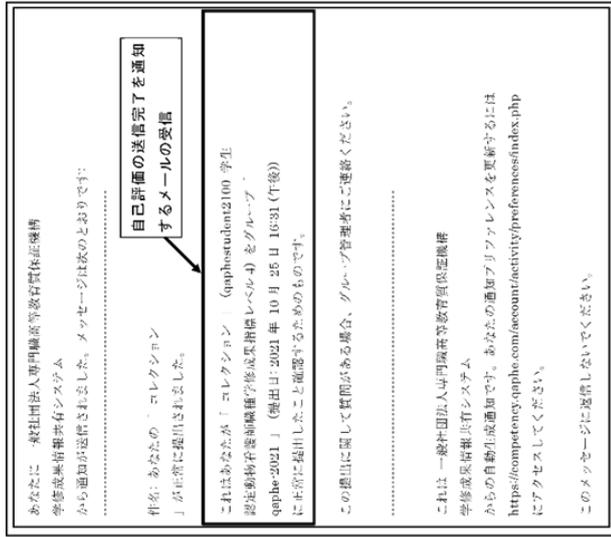


図 114 自己評価の送信完了を通知するメールの受信

⑤ 提出中のコレクションの背景色が薄いオレンジ色に変わる  
※背景色が薄いオレンジ色のコレクションは、自己評価の提出を行い、教員の評価が完了しており、編集は行わないように注意が必要



図 115 提出中のコレクションの背景色が薄いオレンジ色になる

#### 4.3.2 自己評価が提出済であることの確認

自己評価の教員への提出が完了していることを確認する。

- ① 「メインメニュー」をクリック



図 116 「メインメニュー」をクリック

- ② 「共有」をクリック

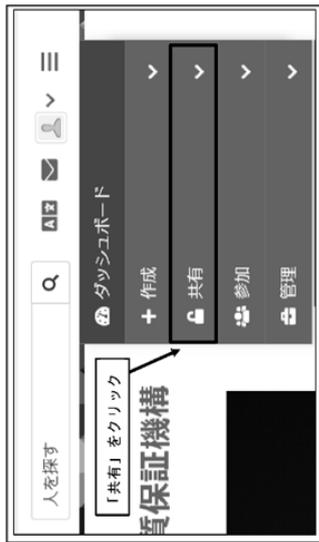


図 117 「共有」をクリック

- ③ 「提出」をクリック



図 118 「提出」をクリック

- ④ グループに対して提出した自己評価が一覧表示される

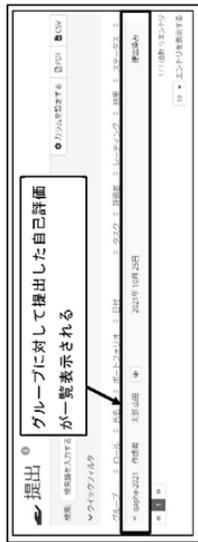


図 119 グループに対して提出した自己評価が一覧表示される

- ⑤ 提出した自己評価の確認  
提出した自己評価の「Preview(目の形)」アイコンをクリックすると、自己評価の詳細が表示される。



図 120 提出した自己評価の確認

- ⑥ 提出した自己評価の詳細確認

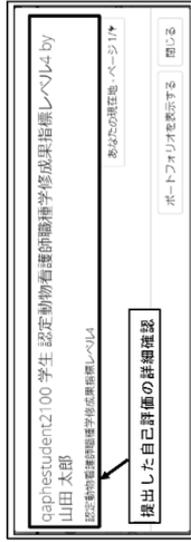


図 121 提出した自己評価の詳細確認

- ⑦ 「あなたの所在地」ボタンをクリック  
※「ポートフォリオを表示する」ボタンはクリックしても動作しない  
※2021年10月1日現在の Mahara Ver.21.04 での仕様

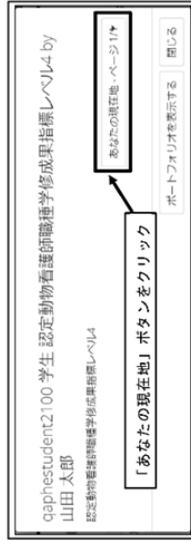


図 122 「あなたの所在地」ボタンをクリック

- ⑧ 提出した学修成果指標名をクリック

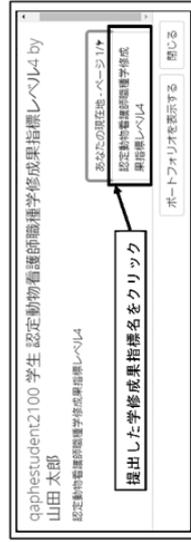


図 123 提出した学修成果指標名をクリック

- ⑩ 提出した自己評価が表示される



図 124 提出した自己評価が表示される

- ⑪ 「閉じる」ボタンをクリック



図 125 「閉じる」ボタンをクリック

## 4.4 教員からの「フィードバック」通知

受講者から教員に対して提出した自己評価に対し、教員が「フィードバック」や「コメント」を投稿した場合には、自己評価を提出した受講者に対してメールによる通知が行われる。

### 4.4.1 個々の学修成果指標への「フィードバック」通知

教員が、個々の学修成果指標に対する「フィードバック」を投稿した場合に、自己評価を提出した受講者に対してメールによる通知が行われる。

- ⑬ 「フィードバック」の投稿確認メールの受信  
自己評価を提出した受講者のメールアドレスに対して、「フィードバック」の投稿確認メールが送信される。

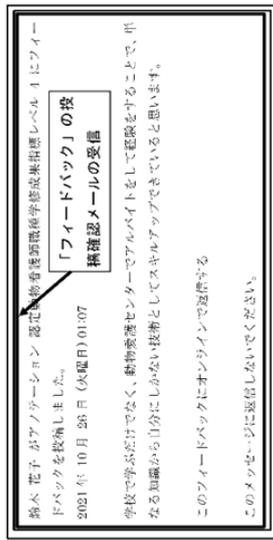


図 126 「フィードバック」の投稿確認メールの受信

### 4.4.2 複数の学修成果指標に関係する「コメント」通知

教員が、複数の学修成果指標に関係する「コメント」を投稿した場合に、自己評価を提出した受講者に対してメールによる通知が行われる。

- ⑭ 「コメント」の投稿確認メールの受信  
自己評価を提出した受講者のメールアドレスに対して、「コメント」の投稿確認メールが送信される。

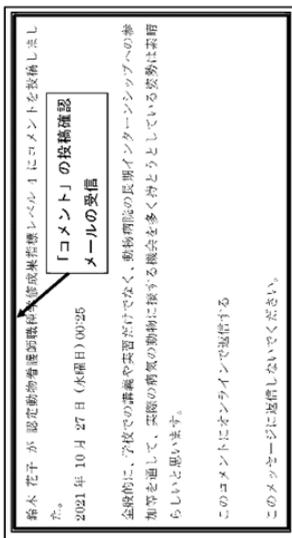


図 127 「コメント」の投稿確認メールの受信

## 4.5 学修成果評価結果が返却されたことの確認

教員に提出した学修成果の評価が完了し、教員から返却されたことを、次のいずれかの方法で確認する。

※教員から受講者に示して評価結果が返却されてから、受講者が確認できるようになるまでに10分程度の時間を要する。(バックグラウンドでデータ受け渡しの処理が行われる)

### 4.5.1 学修成果評価が返却されたことの通知メール受信

教員による学修成果評価が完了し評価結果が返却されると、受講者のメールアドレスに対して、評価結果が返却されたことを通知するメールが送信される。

- ① 評価結果の返却通知メールの受信

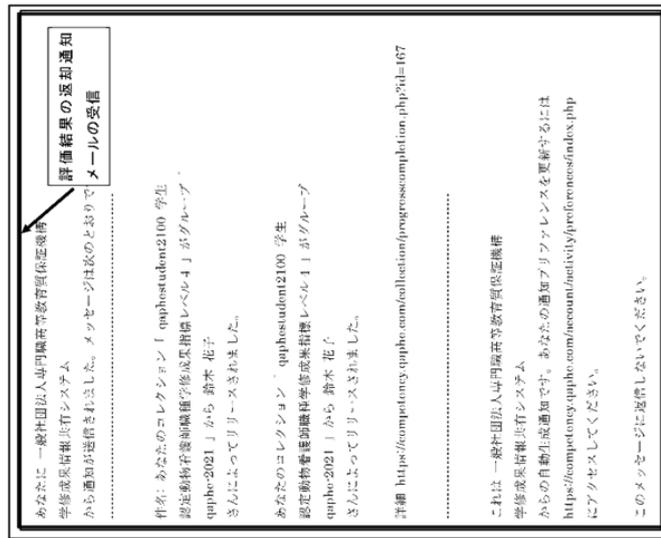


図 128 評価結果の返却通知メールの受信

### 4.5.2 学修成果の提出状況確認

学修成果の評価のために提出した学修成果の状況を確認する。  
※本画面で自分への提出を「閲覧」することは可能であるが、自己評価の詳細を表示する機能は正しく動作していないため、操作は「閲覧」がまだできません。  
※2021 年 10 月 1 日現在の Mahara Ver.21.04 での仕様

- ① 「メインメニュー」をクリック



図 129 「メインメニュー」をクリック

② 「共有」をクリック

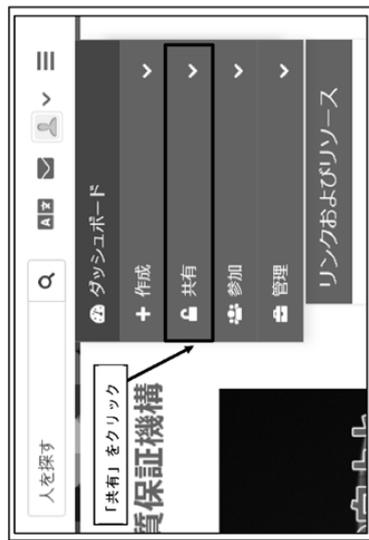


図 130 「共有」をクリック

③ 「提出」をクリック

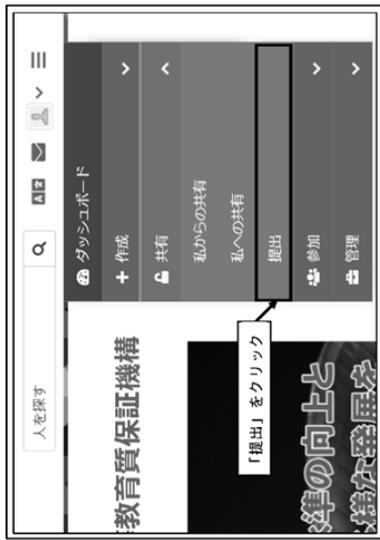


図 131 「提出」をクリック

④ 自分の提出した学修成果が一覧表示される  
ステータスが、「提出済み」から「リリース済み」に変わっていれば、学修成果の詳細結果は教員から返却されている。

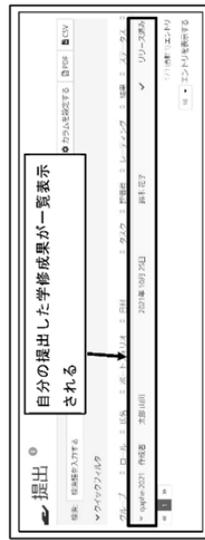


図 132 自分の提出した学修成果が一覧表示される

⑤ 学修成果の評価結果の表示の意味  
学修成果指標の同々の指標単位ではなく、学修成果指標の当該レベルとしての評価結果を、「結果」から確認する。

表示	意味
----	----

✓ (✓印)	合格 結果は確定し、再提出はできない
✕ (✕印)	不合格 結果は確定し、再提出はできない
🔄 (回転する矢印)	見直し 自己評価を加筆し、再提出することができる

図 133 学修評価の評価結果の表示の意味

- ⑥ 合格が確定した学修成果の再送信エラー  
「合格」または「不合格」の評価が行われたレベルの「コレクション」を評価のために再送信した場合には、「フィードバック」や「コメント」の追加はできても、送信はエラーとなる。

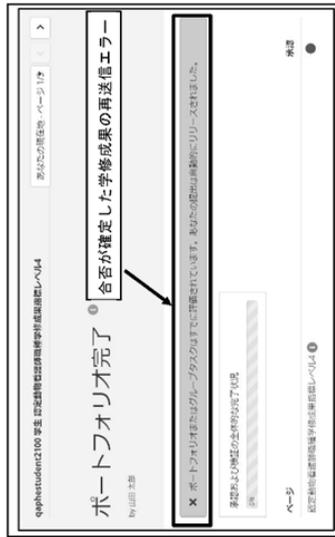


図 134 合格が確定した学修成果の再送信エラー

#### 4.5.3 「受信箱」の通知確認

教員から学修成果の評価結果が返却されると、ダッシュボードの「受信箱」に通知が表示される。

- ① ダッシュボードの「受信箱」の通知を確認



図 135 ダッシュボードの「受信箱」の通知を確認

- ② 詳細を確認する「通知」をクリック



図 136 詳細を確認する「通知」をクリック

- ③ 「通知」の詳細が表示される

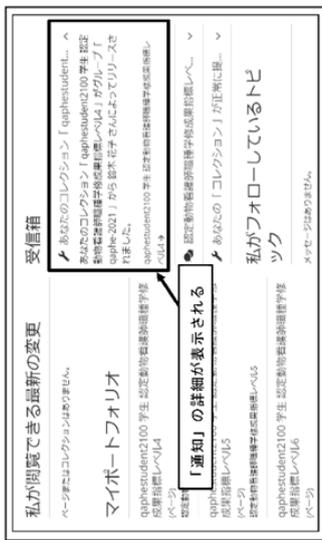


図 137 「通知」の詳細が表示される

#### 4.5.4 「コレクション」の確認

「コレクション」を教員に提出した際に、薄いオレンジ色の背景色に変わった表示が、元の白い背景色に変わることで、学修成果の評価が完了し、教員から返却されたことが確認できる。

- ① ダッシュボードから「作成」ボタンをクリック

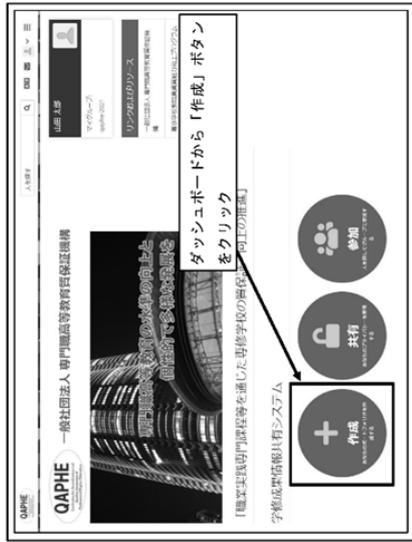


図 138 ダッシュボードから「作成」ボタンをクリック

- ② 「コレクション」の背景色が、薄いオレンジ色から白に変わったことを確認



図 139 「コレクション」の背景色が、薄いオレンジ色から白に変わったことを確認

## 4.6 学修成果評価結果の確認

教員による学修成果の評価が返却された後、学修成果評価結果を確認する。

### 4.6.1 学修成果指標の各指標の評価の確認

学修成果指標の各指標の評価を確認する。

- ① ダッシュボードから「作成」ボタンをクリック

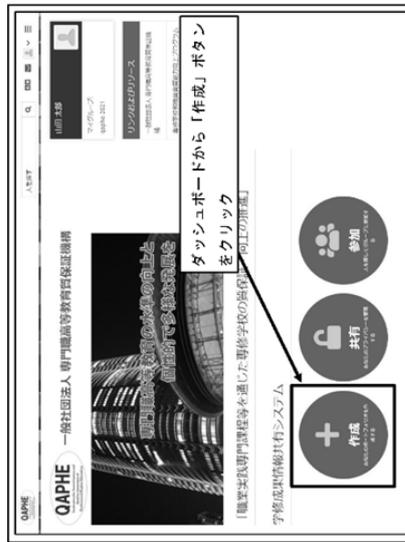


図 140 ダッシュボードから「作成」ボタンをクリック

- ② 確認を行うレベルの「コレクション名」をクリック



図 141 確認を行うレベルの「コレクション名」をクリック

- ③ 「次のページ」ボタンをクリック



図 142 「次のページ」ボタンをクリック

- ④ 学修成果指標の各指標の評価の確認

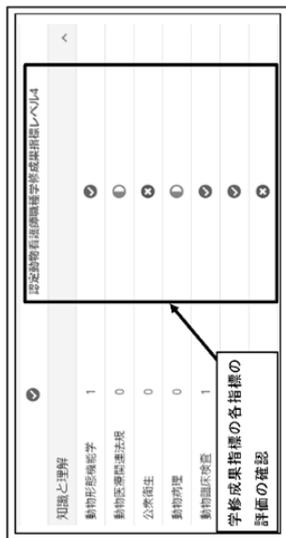


図 143 学修評価指標の各指標の評価の確認

#### 4.6.2 学修成果指標の各指標の「フィードバック」の確認

学修成果指標の各指標別に、教員によって記載された「フィードバック」を確認する。

- ① ダッシュボードから「作成」ボタンをクリック

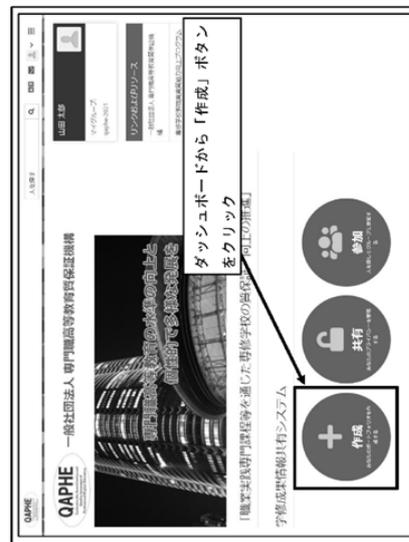


図 144 ダッシュボードから「作成」ボタンをクリック

- ② 確認を行うレベルの「コレクション名」をクリック



図 145 確認を行うレベルの「コレクション名」をクリック

- ③ 「次のページ」ボタンをクリック



図 146 「次のページ」ボタンをクリック

- ④ 「次のページ」ボタンをクリック



図 147 「次のページ」ボタンをクリック

- ⑤ 「フィードバック」の有無を確認  
 学修成果指標の各成果指標の、「フィードバック」の存在の有無を確認する。  
 フィードバックが存在する場合は、「フィードバック(2)」のように、存在する「フィードバック」の数が表示される。

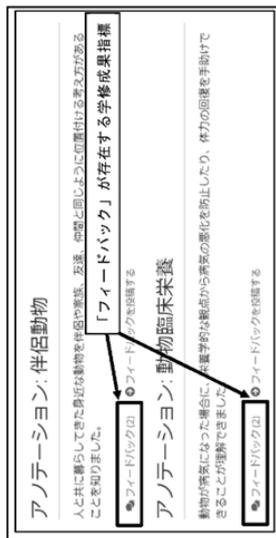


図 148 「フィードバック」の有無を確認

- ⑥ 「フィードバック」の表示  
 「フィードバック」の存在する学修成果指標の、「フィードバック(2)」のような表示をクリックする。



図 149 「フィードバック」の表示

- ⑦ 「フィードバック」の確認  
 表示された「フィードバック」を確認する。

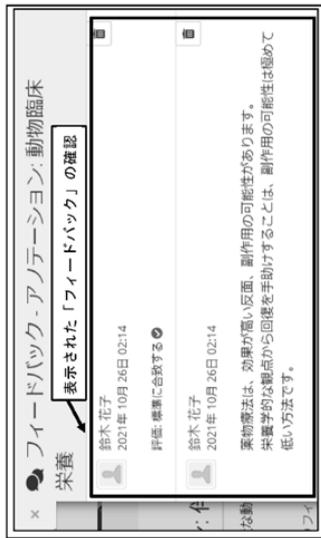


図 150 「フィードバック」の確認

- ⑧ 「フィードバック」を閉じる  
 「×(閉じる)」アイコンをクリックする。

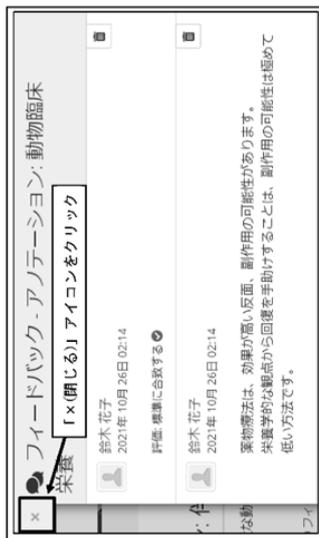


図 151 「フィードバック」を閉じる

⑧ 「フィードバック」が格納される

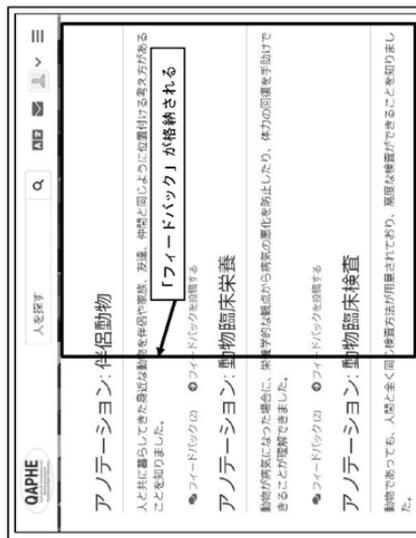


図 152 「フィードバック」が格納される

#### 4.6.3 複数の成果指標に関係する「コメント」の確認

93

複数の成果指標に関係する「コメント」や参考資料等のファイル添付された「コメント」を確認する。

① ダッシュボードから「作成」ボタンをクリック

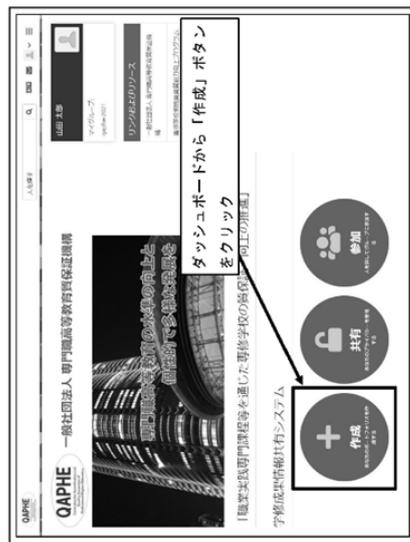


図 153 ダッシュボードから「作成」ボタンをクリック

② 確認を行うレベルの「コレクション名」をクリック

94



図 164 確認を行うレベルの「コレクション名」をクリック

③ 「次のページ」ボタンをクリック



図 165 「次のページ」ボタンをクリック

④ 「次のページ」ボタンをクリック



図 166 「次のページ」ボタンをクリック

⑤ 「コメント」を確認

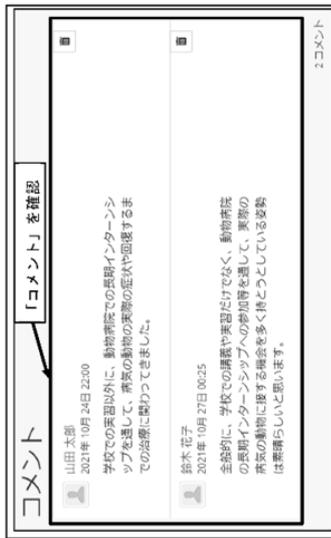


図 167 「コメント」を確認

#### 4.6.4 学修成果評価結果の承認

教員による学修成果評価結果を受講者自身が確認し、承認する。

① ダッシュボードから「作成」ボタンをクリック

③ 「承認」の赤い丸をクリック



図 160 「承認」の赤い丸をクリック

④ 「承認ページ」の注意事項を確認し、「Yes」ボタンをクリック

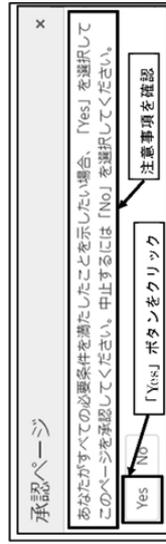


図 161 「承認ページ」の注意事項を確認し、「Yes」ボタンをクリック

⑤ 「承認」の完了を確認  
「承認」の赤い丸(既承認)が、緑のチェックマーク(承認済み)に変わり、「承認および保証の全体的な完了状況」の懸念グラフが100%になる。

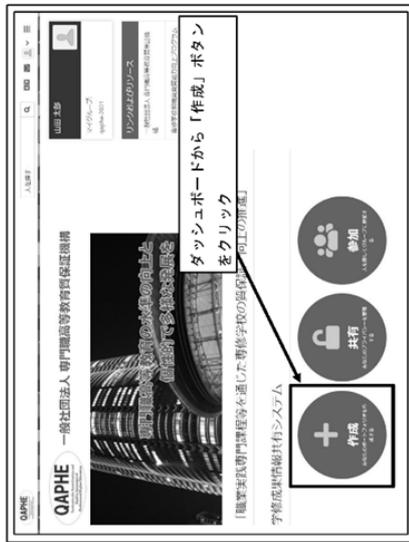


図 168 ダッシュボードから「作成」ボタンをクリック

② 確認を行うレベルの「コレクション名」をクリック



図 169 確認を行うレベルの「コレクション名」をクリック

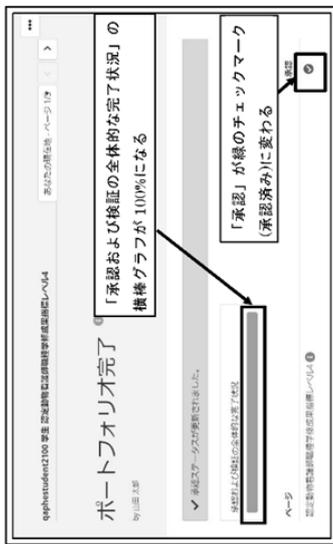


図 162 「承認」の完了を確認

## 4.7 学修成果の公開

承認の完了した学修成果を、ポートフォリオ検索システムに登録し、広く構成員共有するための、学修成果公開用 URL を発行する。

### 4.7.1 「シークレット URL」の発行

「シークレット URL」は、学修成果公開用の、Mahara へのログインなしで参照可能な URL である。

複雑な文字列の URL が設定され、容易には推測することができない。  
「シークレット URL」を発行し、その URL をポートフォリオ検索システムに登録することで、Mahara のアカウントを持たない進学生の学校や就職先の企業が、学修成果を参照することが可能となる。

- ① ダッシュボードから「共有」ボタンをクリック

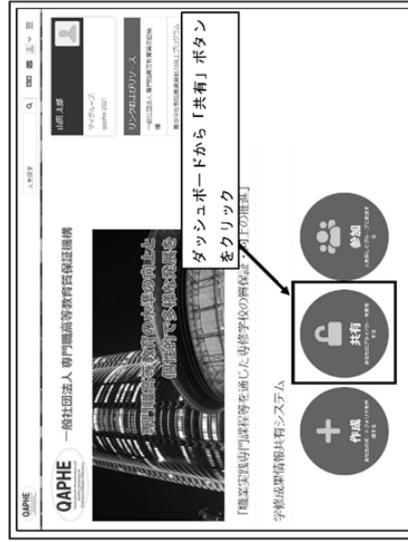


図 163 ダッシュボードから「共有」ボタンをクリック

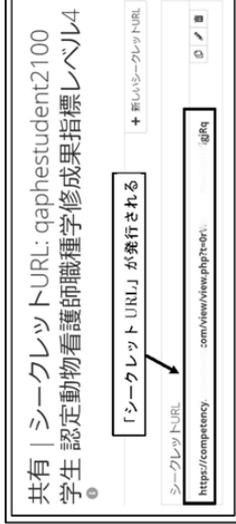
- ② 「シークレット URL」の発行要求  
「シークレット URL」を発行する対象レベルの学修成果指標の、「シークレット URL」ボタン(地球のアイコン)をクリック



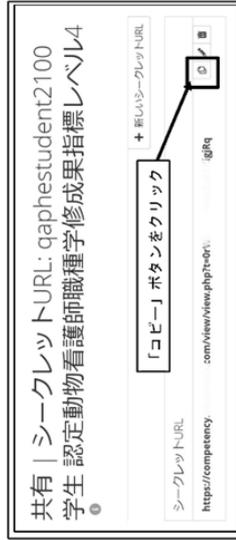
- ③ 「新しいシークレット URL」をクリック



- ④ 「シークレット URL」が発行される



- ⑤ 「コピー」ボタンをクリック  
「シークレット URL」がクリップボードにコピーされ、他のアプリケーションに貼り付けることができるようになる。



- ⑥ 「シークレット URL」をブラウザのアドレスバーに貼り付け  
※ポートフォリオ検索システムに「シークレット URL」を登録する際にも、同様にコピー&貼り付けを利用する。

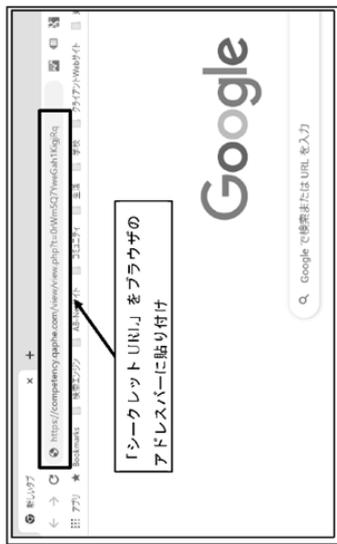


図 168 「シークレット URL」をブラウザのアドレスバーに貼り付け

⑦ 学修成果ページが表示される



図 169 学修成果ページが表示される

⑧ 「あなたの現在地」をクリック

※ 「次のページ」ボタンは、「シークレット URL」を利用したアクセスの場合に機能しない場合がある



図 170 「あなたの現在地」をクリック

⑨ 先頭に年度の入ったページ名をクリック

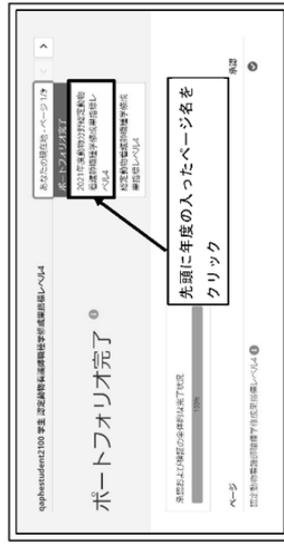


図 171 先頭に年度の入ったページ名をクリック

⑩ 学修成果指票ごとの評価結果ページが表示される

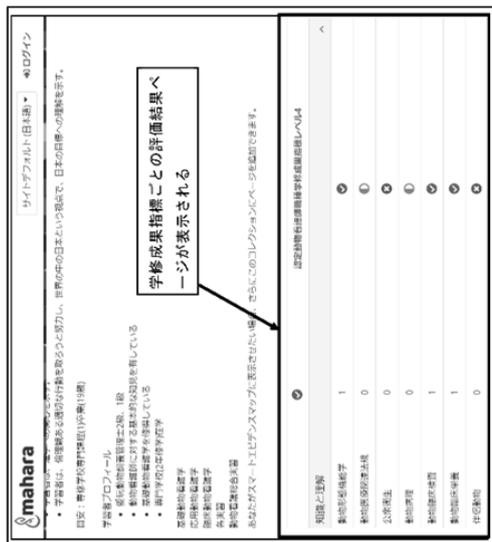


図 172 学修成果目標ごとの評価結果ページが表示される

⑩ 「あなたの現在地」をクリック



図 173 「あなたの現在地」をクリック

⑪ 末尾のページをクリック



図 174 末尾のページをクリック

⑫ 自己評価やフィードバック・コメントのページのページが表示される

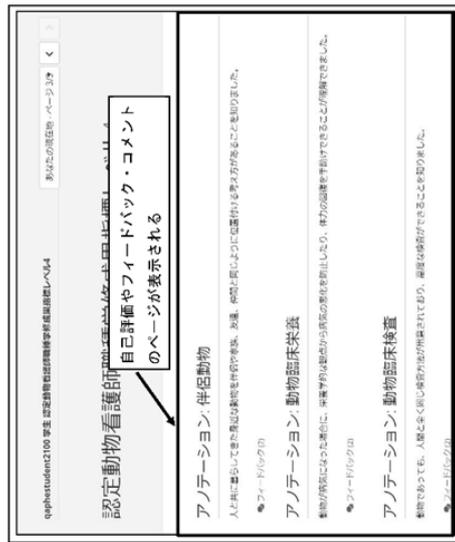


図 175 自己評価やフィードバック・コメントのページが表示される

令和3年度文部科学省  
職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進事業

学校評価の充実等を目的とした  
資格枠組の共有化・職業分野別展開と  
その有用性の検証

## 事業成果報告書

発行日 令和4年3月

発行者 一般社団法人専門職高等教育質保証機構

〒106-0032 東京都港区六本木 6-2-33 六本木ヒルズノースタワーアネックス 3F

■禁無断転載■